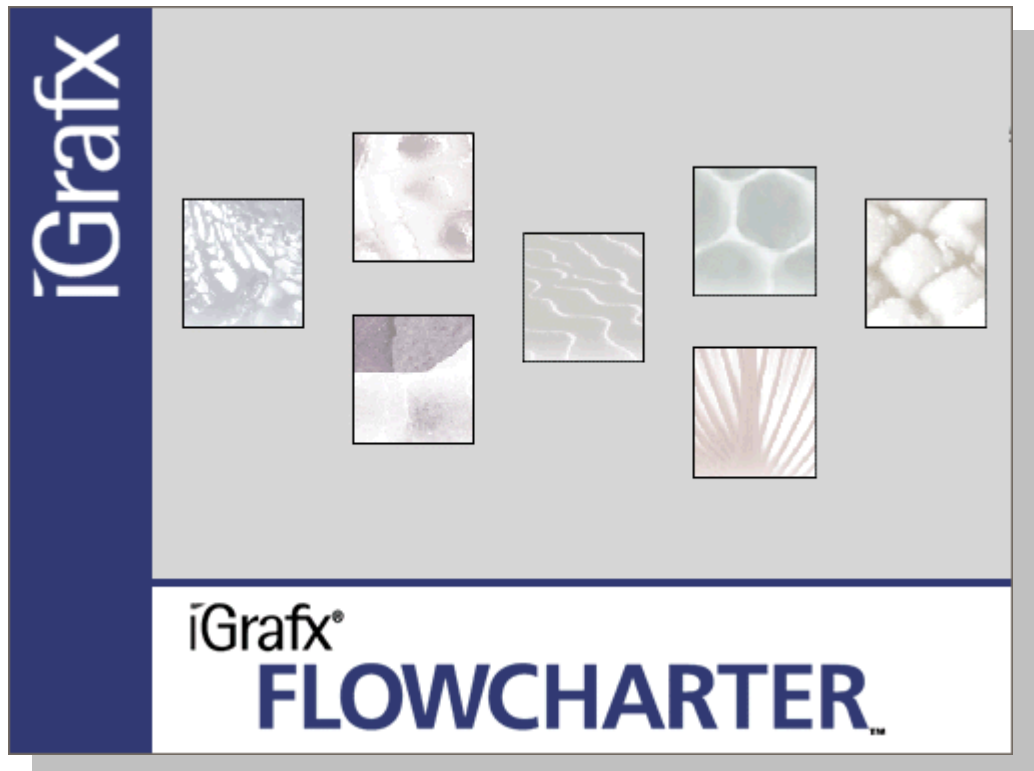


iGrafx FlowCharter2009 学習ガイド



A Solid Foundation for Process Improvement

Enable Process Excellence.™

オペレーションガイド

「iGrafx FlowCharter 学習ガイド」 Copyright©2009 by SunPlanningSystems, Inc. All rights reserved.

サンプランニングシステムズの書面による事前の許可がある場合を除き、本書の一部または全体を複製したり、電送することはできません。また、記憶装置に保存したり、他言語に翻訳することも禁止されています。

目次

第1章	iGrafx FlowCharter の概要	7
	iGrafx FlowCharter の概要	7
	ソフトウェア (iGrafx FlowCharter & Process) について	7
	図表の種類	8
	作図する時に利用するツールバー	9
	図形パレットを利用する	12
第2章	iGrafx FlowCharter の構成	14
	構成要素の確認方法	14
	ウィンドウリストによる図表の表示切り替え	15
	プロセスフローの作成	16
	他の形式のファイルを開く	17
第3章	業務フロー図を作成する	18
3.1	新規図表を作成する	18
3.2	部門 (スイム レーン)	19
	部門の挿入	20
	部門名の変更	22
	部門のサイズを変更する	23
	部門を移動する	23
	部門を削除する	23
	部門の書式を設定する	24
	テーマを使用する	27
	書式のコピー/貼り付け	27
3.3	図形の配置	28
	ツールボックスツールバーを利用する	28
	フロー作成前に	28
	配置する図形を選択する	28
	図形を配置する	29
	連続して図形を配置する	30
	接続線の上で図形を追加する	30
	図表の余白をクリックして、直前に行った操作を繰り返す	31
	部門をまたがる図形	31
	無関係な部門をまたがった時の除外方法	32

3.4	接続線	33
	接続線を作成する	33
	接続点を移動する	34
	接続線を移動（手動で配置）する	34
	接続線の種類	35
	接続線の書式を設定する	36
	線の接続ルールを変更する	37
	ケーステキスト	38
3.5	図表を操作する	40
	図形の置換	40
	オブジェクトを選択する	40
	便利な選択ツール	41
3.6	図表を整える	42
	図形グリッド	42
	図形グリッドのスペースの変更	43
	図形の整形	44
	図形を回転、反転する	46
	図形を順番に並べる	46
3.7	図形の書式を設定する	47
	図形テキスト	47
	図形の塗りつぶし	47
	図形の枠線スタイル	48
	図形の影／3Dスタイル	48
	図形テキストのレイアウト	49
3.8	テキストを追加する	50
	テキストブロックを作成する	50
	テキストブロックを移動する	51
	コールアウト線	51
	非表示のテキスト線を表示する	52
	テキストブロックの書式を設定する	52
	メモの挿入	53
3.9	フェーズ	54
3.10	表示倍率の変更	55
	ズームコントロール	55
	クイックズーム	56
	全画面表示	57

プロセスウィンドウを分割する.....	58
表形式の表示・入力.....	59
3.11 高度な図表機能.....	60
図形の名前.....	60
図形へリンクを挿入する.....	60
カスタムデータタブ：データ管理フィールドを作成する.....	64
図形番号の利用.....	66
新しい図形フィールドの追加.....	68
言語の設定.....	70
レイヤ機能.....	72
3.12 図表の書式設定.....	75
プロセス.....	75
フェーズ.....	76
枠と区切り記号.....	77
ページ外コネクタ.....	77
接続線.....	78
インジケータ.....	78
ドキュメントのデフォルト.....	79
第4章 印刷と保存.....	80
4.1 印刷.....	80
ページ設定.....	80
マスターページ.....	84
印刷.....	85
4.2 保存.....	86
「iGrafx 形式」での保存.....	86
Web 形式で保存する.....	86
Word 形式で保存する.....	87
Power point 形式で保存する.....	87
PDF ドキュメント形式で保存する.....	88
Web プロジェクトを保存する.....	88
自動保存の間隔を変更する.....	90
4.3 その他.....	91
英語モードへの切り替え.....	91
ドキュメントの保護.....	91

第5章	カスタマイズ.....	92
5.1	コレクションのカスタマイズ.....	92
	個人用メディアコレクションの作成.....	92
	コレクション及びサブジェクトの共有.....	94
5.2	図表のデフォルト設定のカスタマイズ.....	96
	図形ライブラリ.....	96
	線ライブラリ.....	97
	iGrafX テンプレートに定義する項目.....	98
	iGrafX テンプレートファイルの保存.....	99
	個人用テンプレートディレクトリの変更.....	100

第1章 iGrafx FlowCharter の概要

iGrafx FlowCharter の概要

iGrafx FlowCharter は使いやすいビジネスグラフィックソリューションです。組織内の各担当者はこの直感的なソリューションを使用して、プロセスマップ、ネットワーク図表、組織図、自由形式図表、体系的な図表、プレゼンテーション図表などを作成することができます。業務マニュアルを作成するのに適した機能や、BPMN 対応機能も含まれています。

iGrafx Process でそのまま使える、プロセスという構成要素で作成したフローには、処理工程に関するさまざまなデータを組み込み、プロセスモデルを作成することが可能です。たとえば、工程ごとの所要期間、入出力、スケジュール、費用、およびリソースの有無などのデータを定義します。ただし FlowCharter のライセンスのみでは、シミュレーションを実行する機能がないので、シミュレーションそのものは実行できません。（シミュレーションが実行できるのは Process、および Process for SixSigma のライセンスがある場合のみです。）

プロセス図表では、一連のアクティビティがシンボルで表され、方向を示す線でリンクされています。プロセス図表の各ステップはアクティビティと呼ばれます。iGrafx Process では、ここのアクティビティがフローチャートのシンボルとして表されます。

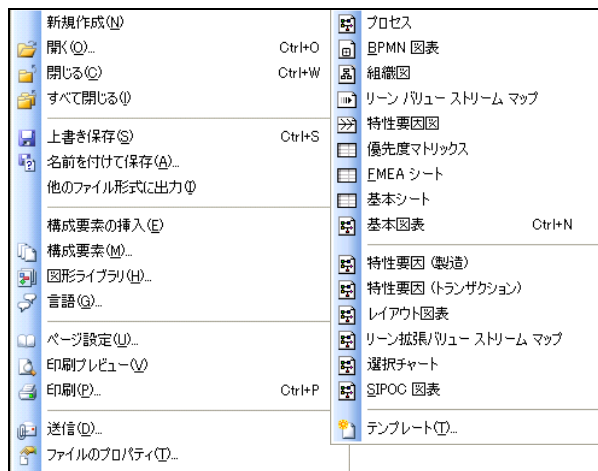
ソフトウェア (iGrafx FlowCharter & Process) について

iGrafx FlowCharter は、プロセスマッピングとプロセスモデリングを行うための信頼性の高いソフトウェア環境です。iGrafx Process は、プロセスマッピングとプロセスシミュレーションを行うのに最適な環境です。

iGrafx FlowCharter は Process に対するグラフィックインターフェイスで、iGrafx Process は動作に関するモデリングとシミュレーションを行うためのシステムです。

図表の種類

iGrafx FlowCharter では、次の種類の図表を作成することができます。



図表の種類

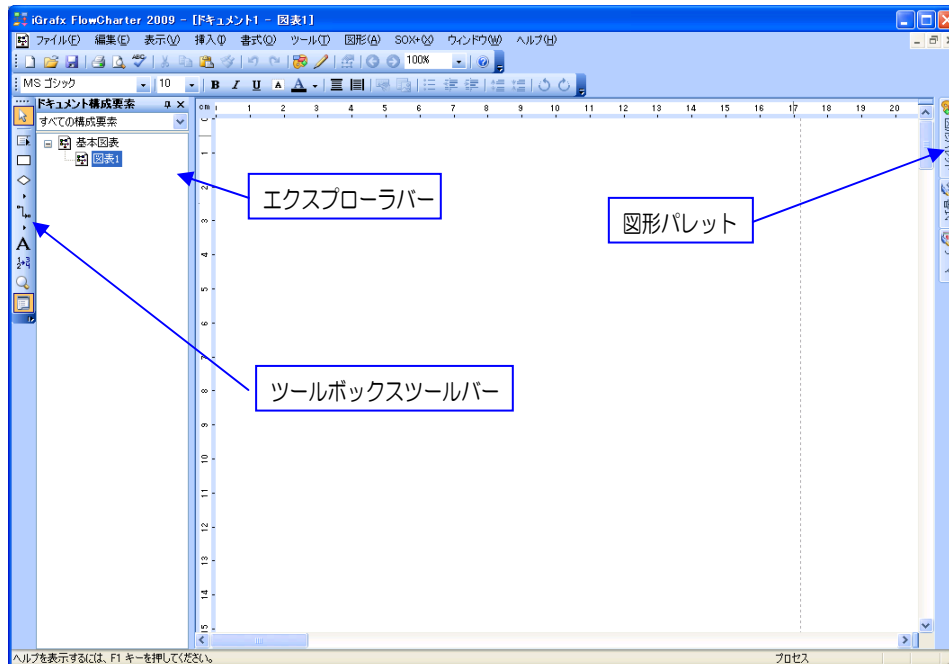
※ファイルメニューの新規作成をクリック

主な図表の種類	説明
基本図表	<p>基本図表とは自由な形式の図を作成するための空白のページのことです。業務フローを作成する場合は、基本図表を利用します。</p> <p>SOX+用の業務フロー文書を作成する場合も、基本図表を選択することをお勧めします。 ※SOX+をインストールした際についている iGrafx テンプレートも基本図表で作られています。</p>
プロセス	<p>フローチャートを作成した後に、「iGrafx Process」を使用してシミュレーションを行う場合はプロセス図表を利用します。</p> <p>プロセス図表は基本図表を基に作成されており、基本図表からプロセス図表に変換することもできます。 (「ツール」メニューの「図表の種類を変更」で、変更したい種類を選択できます。)</p>
BPMN図表	<p>BPMN標準に準拠した Correct-by-Construction 機能とリアルタイムエラー検査機能を使用して、プロセスをマップ、モデル、シミュレーションします。</p>
組織図	<p>組織図を作成するのに特化した操作性を保持しています。</p>
特性要因図	<p>特性要因図を作成するのに特化した図表です。</p>
リーンバリュー ストリームマップ	<p>バリューストリームマップにプレースホルダーの図形と接続線を配置できます。</p>

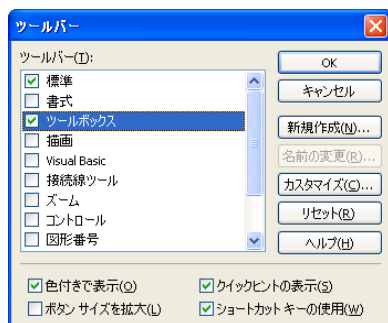
作図する時に利用するツールバー

iGrafx FlowCharter では、作図のために各種ツールバーやウィンドウを準備しています。中でも、頻りに利用するツールバーとウィンドウの名称と表示方法は下記のとおりです。

- ◆ 「ファイル」 - 「新規作成」 - 「基本図表」でドキュメントを開いたイメージ

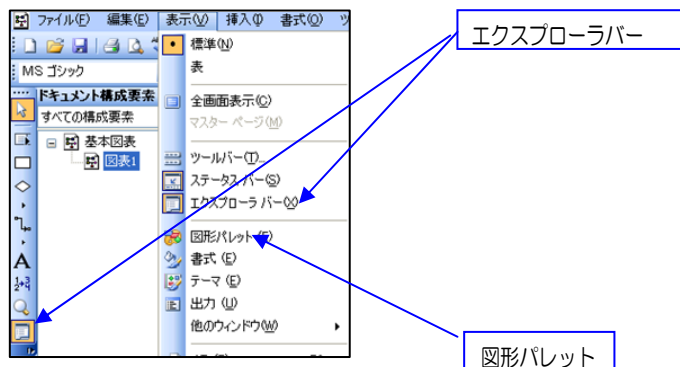


- ◆ ツールボックスが表示されていない時は、「表示」メニューの「ツールバー」より表示設定することができます。















- ◆ エクスプローラバー、図形パレットが表示されていない時は「表示」メニューより表示設定が可能です。


また、エクスプローラバーは、「ツールボックス」ツールバーからも表示設定ができます。



◆ 「ツールボックス」ツールバーには、図表作成のための全般の機能が用意されています。

	選択ツール	: 図形やテキストを選択したい時に使用
	部門	: 部門に関する操作を必要とする時に使用
	開始図形	: この図形を配置したい時に使用 ※プロセス図表の時のみ表示されます
	プロセス	: この図形を配置したい時に使用
	決定	: この図形を配置したい時に使用
	その他の図形	: 図形ライブラリの設定を変更したい時に使用
	現在の線種類	: 現在選択されている線の種類を表示
	接続線ツール	: 接続線の種類を追加・変更したい時に使用
	テキストツール	: テキストを入力したい時に使用
	図形番号	: 図形情報の表示・非表示の設定を行う
	ズーム	: 画面の縮小拡大を行うズームツールを選択する時に使用
	エクスプローラ	: エクスプローラバーの表示・非表示を切り替える

◆ 図形パレットを表示する時は、「図形パレットの選択」ダイアログボックスから選択します。

図形パレットを開くには、「図形パレットを開く」ボタンをクリックするか、「F9」(ファンクション9)を押して、「図形パレットの選択」ダイアログボックスを開き、使用したい図形サブジェクトを選択します。





◆ ウィンドウを自動的に隠すことができます。



ウィンドウは、初期設定では開いた状態で固定されますが、固定を解除することによって自動的に隠すことができます。

1. ウィンドウを自動的に隠すには、ウィンドウのタイトルバーの右側にある自動非表示ボタンをクリックします。

ウィンドウタブの上をマウスポインタでポイントするとウィンドウが表示されます。

 →  (固定が解除された状態)

2. ウィンドウを固定するには、固定したいウィンドウのタブの上にマウスポインタを置いてウィンドウを表示させ、タイトルバーの右側にあるピンアイコンをクリックして固定します。

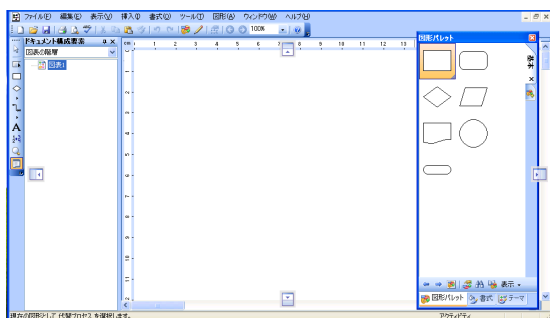
 →  (固定された状態)

◆各ツールバーやウィンドウは自由にレイアウトを変更することができます。

エクスプローラウィンドウや図形パレットウィンドウなどのウィンドウやツールバーを、初期設定の位置から移動して他の場所にドッキングすることができます。ウィンドウは他のウィンドウの上・下・左・右、または前面に配置できます。ウィンドウタブの位置を変更することもできます。

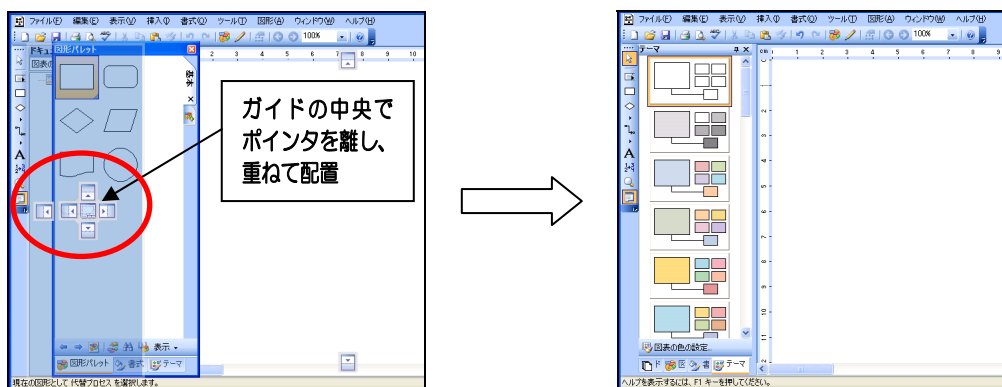
※ウィンドウを移動するには、ウィンドウが固定されている必要があります。

1. 移動したいウィンドウのタイトルバーをクリックし、ドラッグします。
2. ウィンドウをドラッグすると、メインウィンドウの各端に4つの矢印が表示されます。これらの矢印はフローティングウィンドウをドッキングできる場所を示しています。



3. 移動したい場所にウィンドウをドラッグし、矢印の上でマウスポインタを離すと、ウィンドウが指定された位置に配置されます。
4. すでにウィンドウが配置されている場所に他のウィンドウを移動させると、下図のような矢印（ガイド）が表示されます。ガイドから配置させたい位置を選択して、その上でマウスポインタを離すと、ウィンドウが指定の位置（上・下・左・右、またはウィンドウの前面）に配置されます。

例) エクスプローラウィンドウの上に図形パレットウィンドウを配置



5. 重なったウィンドウを切り離すには、切り離したいウィンドウのタブをドラッグします。

例) 「テーマ」ウィンドウのみを切り離したい場合は、「テーマ」タブをドラッグして他の場所に移動します。

ウィンドウのレイアウトを初期設定に戻すには、「表示」メニューの「他のウィンドウ」 - 「ウィンドウ レイアウトのリセット」を選択します。

図形パレットを利用する

iGrafx FlowCharter は、種々の図表で利用できるいろいろな図形を提供しています。図形パレットの編集は、「図形パレットの選択」ダイアログボックスから行うことができます。

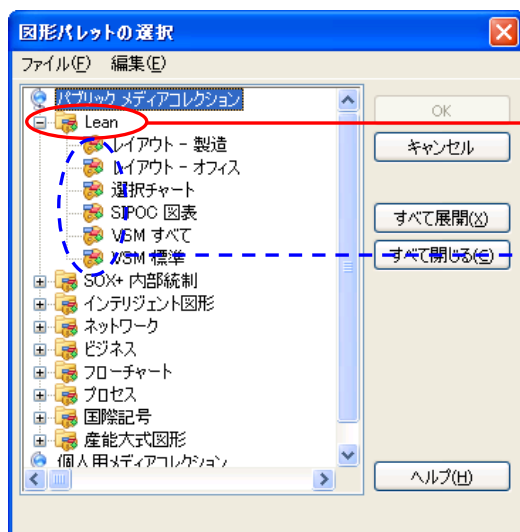
(1) コレクションの種類

コレクションには以下の種類があります。

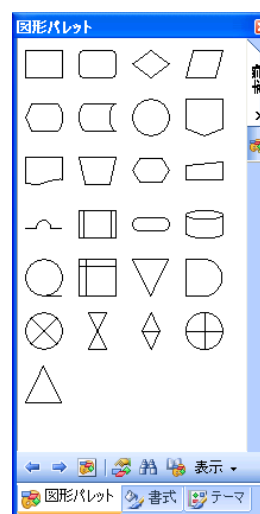
コレクションの種類	説明
パブリックメディアコレクション	iGrafx FlowCharter が提供している図形が格納されています。パブリックメディアコレクションは編集することができません。
個人用メディアコレクション	個人で自由に編集ができるコレクションです。利用したい図形だけを集めて、利用用途ごとのサブジェクトを作成することができます。

(2) コレクションの図形を配置する

- 「F9」を押すか下記のメニューバーにて「図形パレットの選択」ダイアログボックスを開きます。



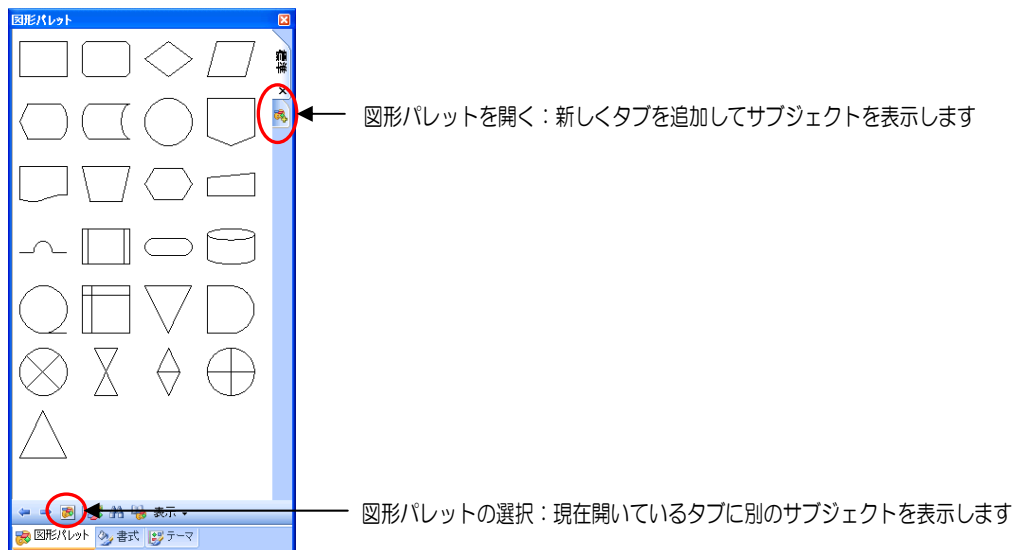
- 選択されたコレクションの図形が、「図形パレット」ウィンドウに表示されます。
- 配置したい図形を選択して、プロセスウィンドウ上に配置します。



(3) 図形パレットウィンドウを操作する

◆ 新しく他のサブジェクトを表示する

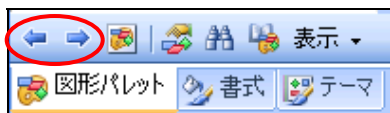
図形パレットの右側の「図形パレットを開く (F9)」タブか、下部の「図形パレットの選択」ボタンをクリックすると、「図形パレットの選択」ダイアログボックスが表示されます。表示させたいサブジェクトを選択します。



◆ 次のサブジェクト、前のサブジェクトを表示させる

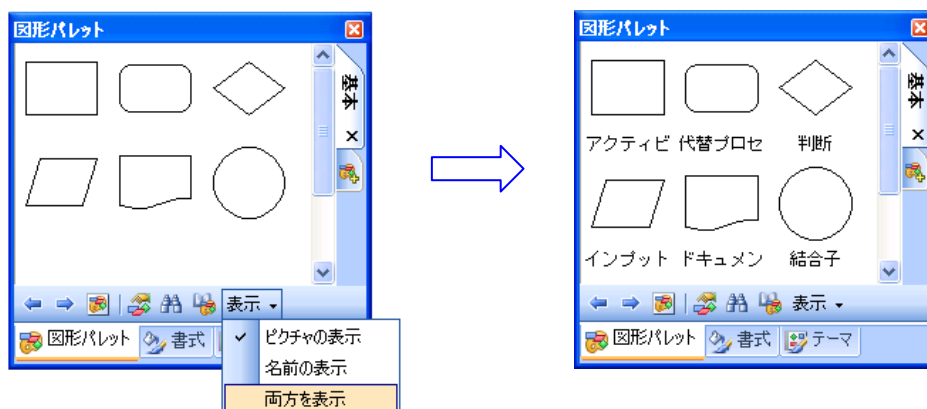
右矢印キーをクリックすると、次のサブジェクトが表示されます。

左矢印キーをクリックすると、前のサブジェクトが表示されます。



◆ 図形についている名前を表示させる

「図形パレット」ウィンドウの「表示」メニューをクリックし、「両方を表示」を選択します。



第2章 iGrafx FlowCharter の構成

iGrafx FlowCharter では、新規ファイル作成時に基本図表を選択して開くと、1枚の基本図表が開きますが、構成要素の追加や図表の複製を行うことで、1つのファイル内に複数の図表を管理することができます。複数の図表の管理のために、エクスプローラが準備されています。

構成要素の確認方法

iGrafx エクスプローラバーを利用して、ファイルの構成要素を整理および表示することができます。

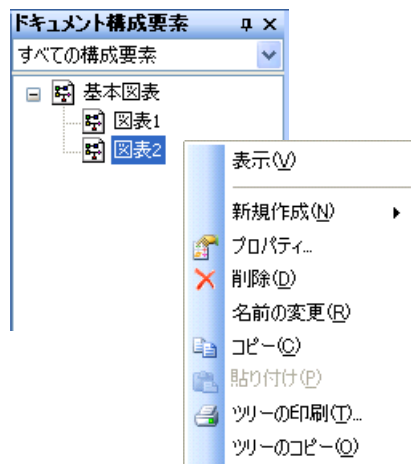
エクスプローラバーはサイズ変更が可能で、アプリケーションウィンドウの上下左右に移動して表示することができます。初期設定ではアプリケーションの左側に表示されます。

エクスプローラバー内で右クリックすると、メニューが表示され、新しい構成要素の追加や、既存の要素の表示、コピー、貼り付け、削除などができます。

異なるファイル間での図表のコピーも、エクスプローラバーから行うことができます。

エクスプローラバー内でコピーしたい図表を選択して、右クリックし、メニューから「コピー」を選択します。図表を貼り付けたいファイルを開いて、エクスプローラバー内の空白部分で右クリックし、メニューから「貼り付け」を選択します。

◆「基本図表」の場合

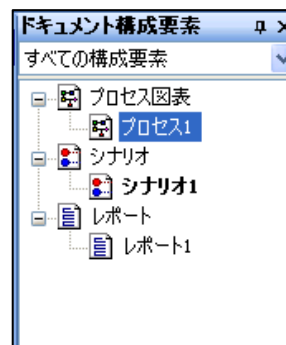


◆「プロセス図表」の場合

※ 参考

ファイルの種類でプロセス図表を選択した場合は、構成要素の画面は右図の様に表示されます。

iGrafx FlowCharter でプロセス図表を作成した場合、シナリオの編集や、フロー内にシミュレーション的な設定（作業時間やリソースなど）をすることはできませんが、シミュレーション実行ボタンがありませんので、レポートは作成されません。

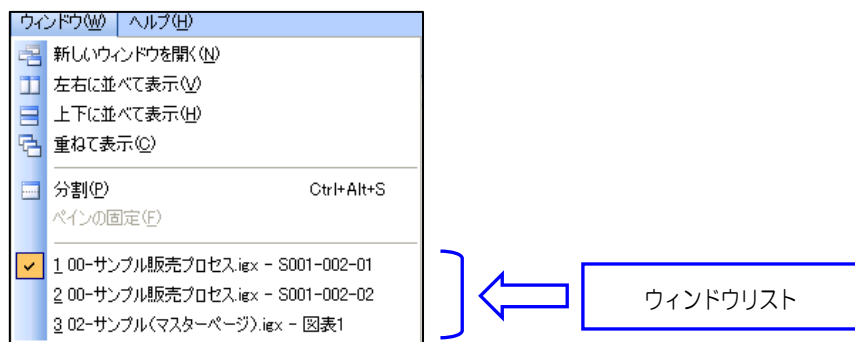


ウィンドウリストによる図表の表示切り替え

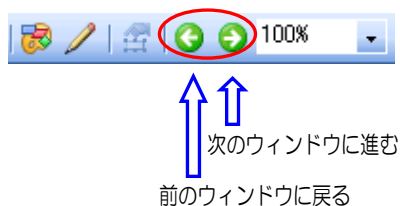
iGrafx FlowCharter では、複数のファイル、図表を同時に開くことができます。「ウィンドウ」メニューにより、複数の図表の表示切り替えや、ウィンドウの表示形式を指定することができます。

(1) 図表の表示切替

ウィンドウリストには、現在開いているファイルの一覧が表示されます。現在開いている図表には、チェックマークがついています。別のウィンドウに切り替えたい場合には、開きたい図表を選択します。



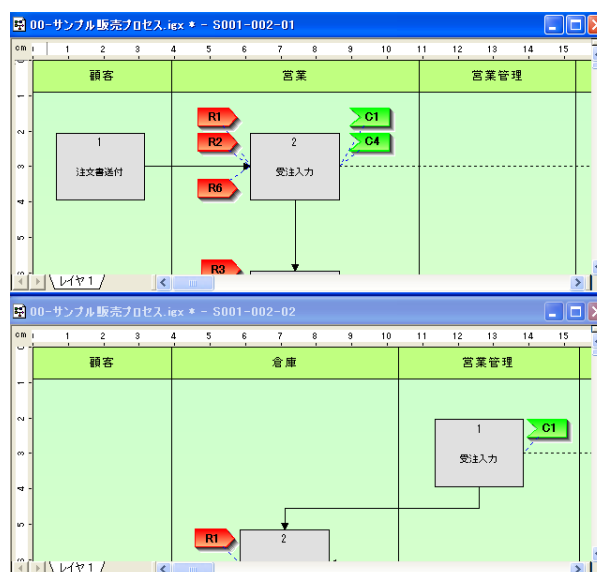
または、下記「ツールバー」のボタンで表示切り替えを行うことができます。



(2) 様々なウィンドウの表示形式

「ウィンドウ」メニューでは、「左右に並べて表示」、「上下に並べて表示」、「重ねて表示」などの表示形式があります。

上下に並べて表示



プロセスフローの作成

iGrafx FlowCharter では、自由形式の図表や体系化された図表はもちろんのこと、ネットワーク、処理工程、ソフトウェア、プレゼンテーションに至るまで、あらゆる用途の図表を作成することができます。

なかでも処理工程を表すプロセスフロー図の作成を行うために最適な機能を多数持っています。また、作成したプロセスフローを用いて上位ツールである iGrafx Process を利用することによって、業務分析シミュレーションを実行することが可能です。

内部統制用に業務フロー文書を作成する

内部統制用に業務フロー文書を作成する際には、**基本図表**などのシンプルな図表を利用してフローを作成します。

一般的に内部統制のために作成する業務フロー文書は、業務改善用の業務フローや業務マニュアルとして使うための業務フローより、一つ一つの業務の図形の粒度が大きい傾向があります。業務マニュアルであれば、一つ一つの手順がわかりやすいようにフローを作成しますが、細かい手順ではなく業務としての手続きが明らかになれば良いため、イレギュラーな作業や、手戻りのフローは書かずに省略したフローを作成することが多いのが特徴です。

業務実施者の頭の中にある手続きを、第三者が見てもわかるようにフローを作るので、独りよがりな表現で書いたのでは目的を達しません。誰が書いても共通の書き方で統一されるように、あらかじめ作図用のルールを決め、それに則してフローを作成します。

内部統制用の文書作成に特化した機能を持つ iGrafx FlowCharter SOX+で業務フロー文書を作成する際には、SOX+と一緒にインストールされている、iGrafx テンプレートサンプル（ベースは基本図表で作成されたサンプル用のテンプレート）から作成すると、あらかじめ見やすい業務フローのための書式が設定されていますので、速やかに文書化のためのフローチャートの作成を開始できます。

※iGrafx FlowCharter SOX+の詳しい操作方法については、「iGrafx FlowCharter SOX+ユーザズガイド」をご参照下さい。

業務の可視化を目的として業務フロー文書を作成する

業務改善の分析のために、あるいは業務のマニュアルとしての手順書作成のために、業務の可視化を行いたい場合にも、業務フロー文書を作成します。それぞれの目的に応じて、フロー図上に表現したいこと、集積したいデータが異なりますが、どんな視点で業務内容を表現したいかを念頭に置き、ルールを作成します。

例えば業務上、部署間の連携がどのようになっているかを確認するならば、部門を複数作成し、部門間をまたいで業務が動く際の連絡手段を明記することで、情報がどのように伝わっているか、そこで情報の漏洩はないか、正しく情報が伝わっているかなどを表すことができます。

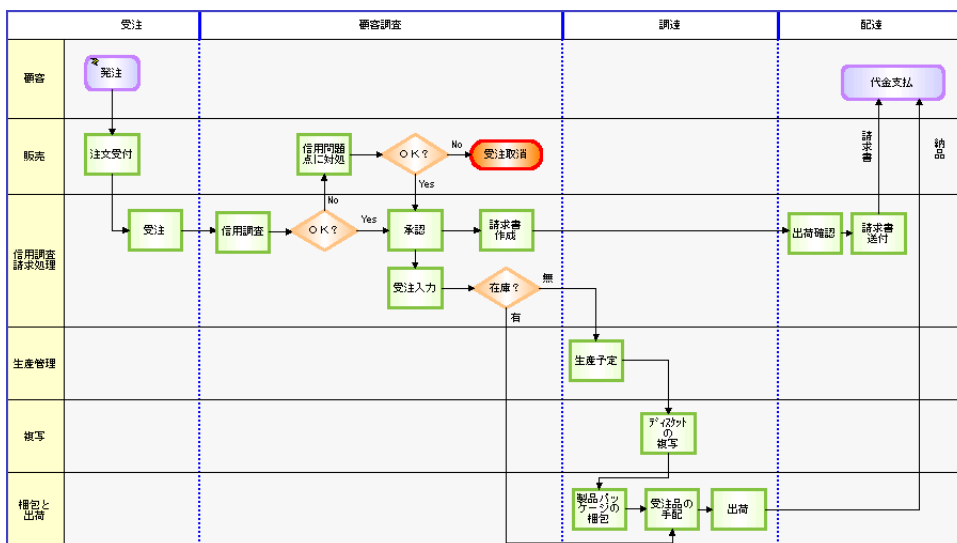
作業内容に合わせて図形を変更して作成することで、視覚的に作業の重複を確認することもできますし、他部署の人が見てもわかるフローができます。また、自分の部署内でクローズしていた業務（自分から見える範囲）を超えて、部門を横断して業務を眺めることができるため、新しいアイデアが浮かぶこともあります。

業務マニュアルとして作成するのであれば、正しい手順を表現するために必要な情報を、フロー内にメモやファイルのリンクを使い、細かく表現し、Web 形式で保存してみんなで共有する、などの使い方も考えられます。

シミュレーション（プロセス）フローの作成

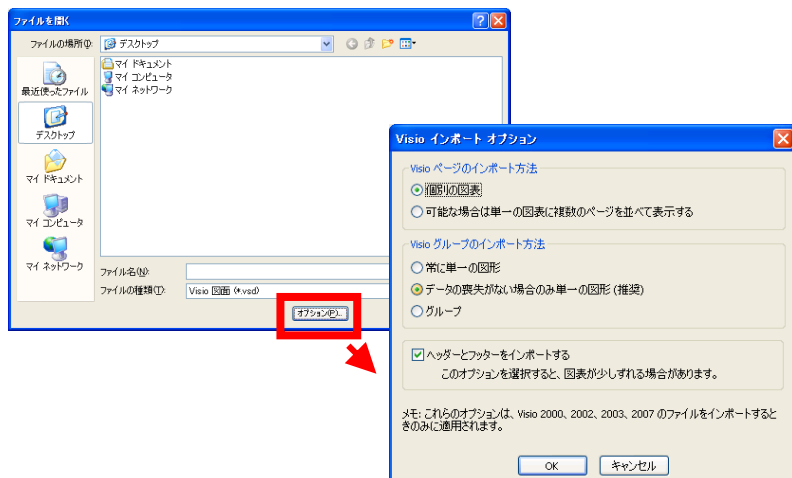
iGrafx FlowCharter で作成した処理工程を表すプロセスフローを用いて上位ツールである iGrafx Process を利用することによって、業務分析シミュレーションを実行することが可能です。

プロセス図表には、製品を開発したり、サービスを提供するために遂行する内容を記述します。iGrafx Process では、このプロセス図に、仕事にかかる時間や消費する資源の設定を施して、シミュレーションを実行します。プロセス図表は様々な記号（シンボル）を利用してプロセスを表現しています。



他の形式のファイルを開く

iGrafx FlowCharter では、次の種類のファイルを開くことができます。「iGrafx ドキュメント」、「Micrografx FlowCharter ファイル」、「Micrografx Optima2.5 ファイル」、「iGrafx テンプレート」、「iGrafx ワークスペース」、「iGrafxBusiness ファイル」、「Visio ファイル」←（4、5、2000、2002、2003、2007 のバージョン対応） Visio ファイルを iGrafx にインポートする際には、Visio ファイル内の各ページは iGrafx 図表構成要素に変換されます。ファイルを開く際にオプションボタンをクリックして、Visio ファイルのインポート設定を指定できます。



第3章 業務フロー図を作成する

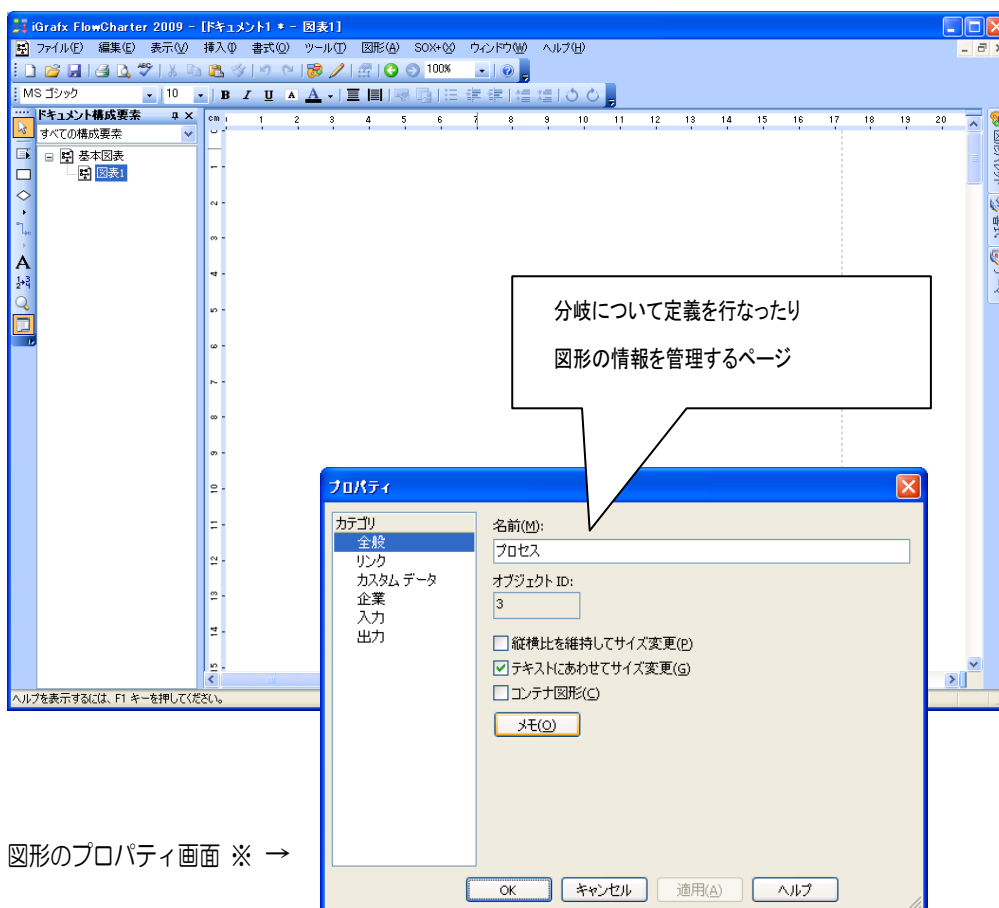
iGrafx FlowCharter では、自由形式の図表を作成することも可能ですが、当オペレーションガイドでは主に業務フロー図を作成する方法に主眼を置いて解説しています。一通りの学習を行うことにより iGrafx FlowCharter の機能を効果的に利用し、迅速かつ効果的に、業務フロー図を作成することができるようになります。

3.1 新規図表を作成する

iGrafx FlowCharter を起動させると「ようこそ」画面が表示されます。「新規ドキュメント」、「テンプレート」、「ファイルを開く」、「最近使ったファイル」のいずれかを選択して操作を開始します。

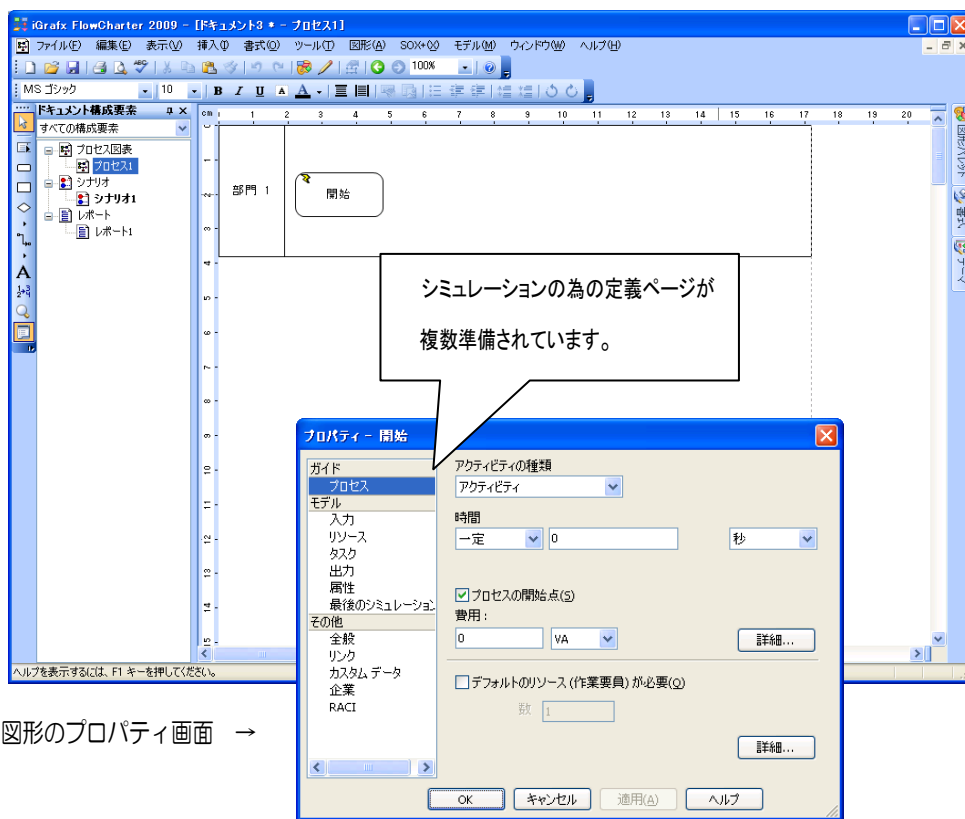
「ようこそ」画面は、画面左下の「次回からこの画面を表示しない」チェックボックスにチェックを入れると、次に起動した時から表示がされなくなります。その場合、「ファイル」メニューの「新規作成」から、基本図表かプロセスを選択します。

(1) 「基本図表」を選択時の新規画面



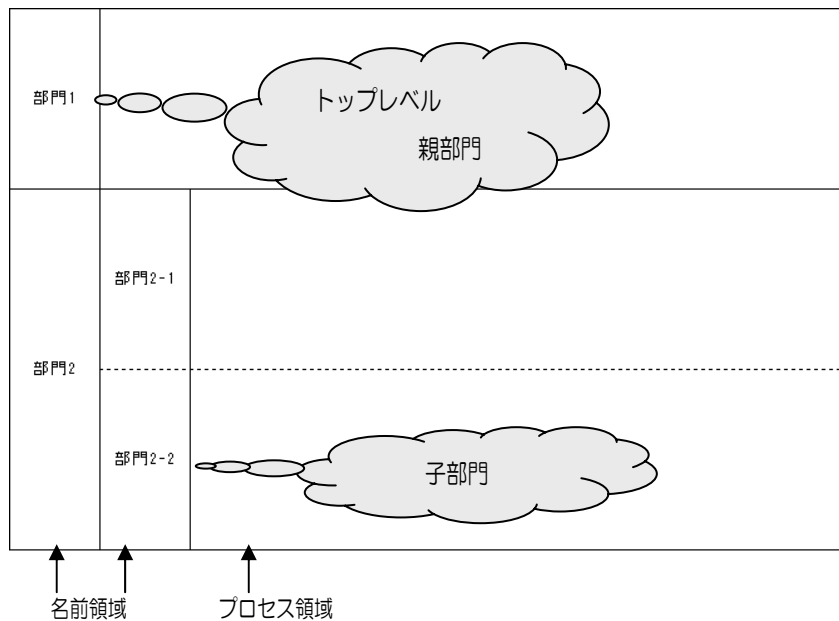
※ 図形のプロパティは、図形を右クリックして出るメニューから開くことができます。

(2) 「プロセス図表」を選択時の新規画面



図形のプロパティ画面 →

3.2 部門(スイム レーン)



部門の挿入

(1) 部門の追加

1. 部門の追加は、「ツールボックス」ツールバーの「部門」ボタンの「部門の挿入」、または「挿入」メニューより「部門」を選択します。

新規図表を開いて初めて部門を追加する時に、部門を水平にするか、垂直にするかを選択します。

図形の配置後には部門の方向の変更ができませんので、プロセス図を作成する前に部門の向きをどちらにするかを考えておく必要があります。

ここで部門の方向とテキストの方向を設定します。

最初に部門を挿入する時のダイアログ

2. 部門名を入力した後で、「位置」で挿入場所を入力します。

◆ 親部門、子部門の考え方をせずに同一レベルで追加する場合

「トップレベル」を選択し「適用」ボタンあるいは「OK」ボタンをクリックします。

※ 「適用」ボタンをクリックした場合は、連続して追加部門の名称を入力することができます。

図形配置後に部門を追加する時のダイアログ

◆ 既存の部門と同一レベルで追加したいが、追加する場所を指定したい場合

既に入力済みの部門を基準にして、その部門の「前」、あるいは「後」を選択します。

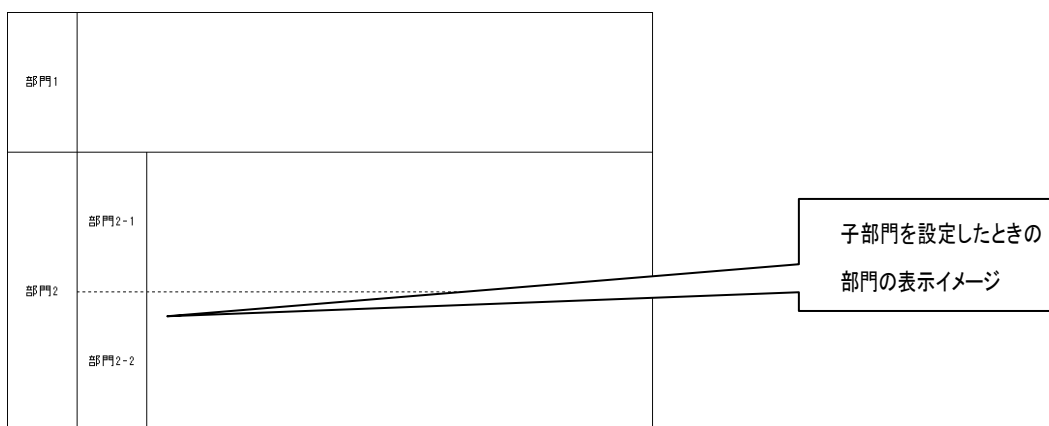
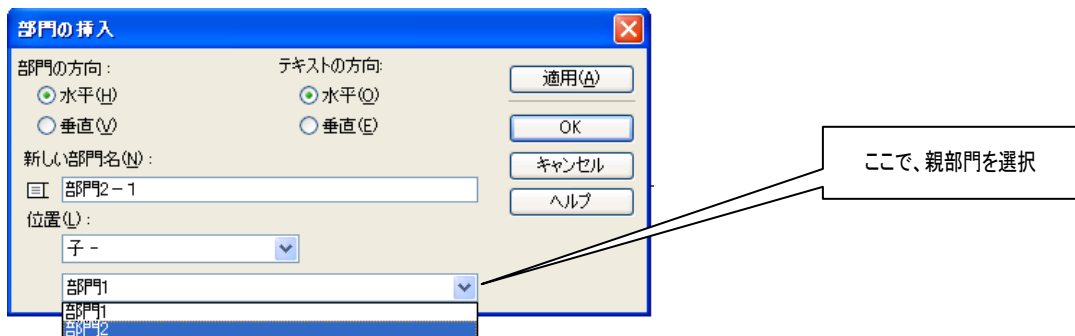
「位置」から「前」または「後」を選択すると、対象となる部門名を指定できます。

この場合は、部門1の前に部門4が追加されます。

(2) 部門の追加 (子部門)

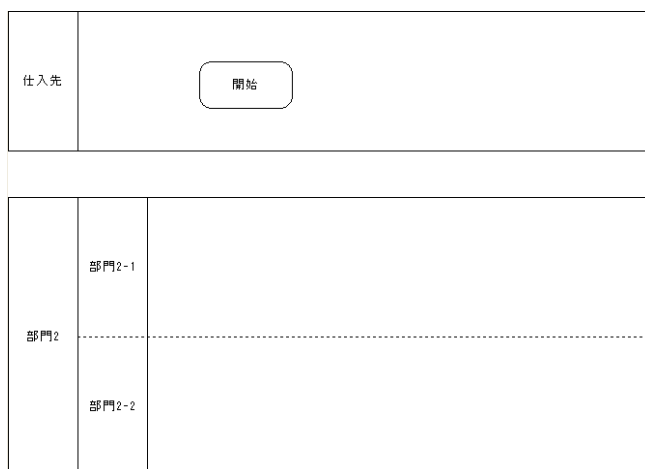
登録済みの部門に対して、子部門として新しい部門を追加できます。

1. 「位置」で「子」を選択します。「子」を選択するとさらに、親部門の指定ができます。

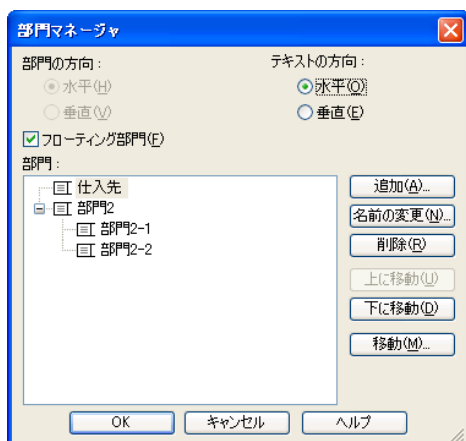


(3) フローティング部門の追加

部門と部門の間にスペースを空けて表現することが可能です。このような部門をフローティング部門と呼び、別会社の組織を同一プロセス図に表現したい場合などに利用します。(BPMN 図表で主に利用されています。)



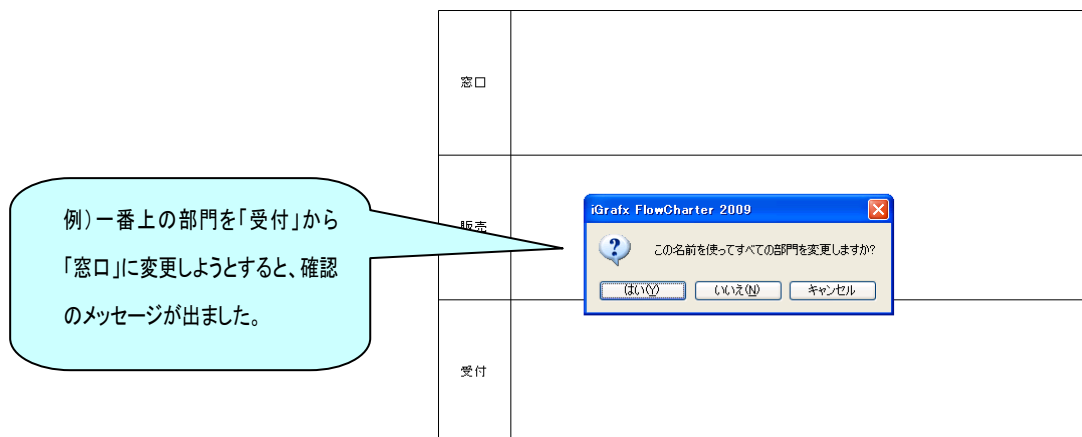
1. 「ツールボックス」ツールバーの「部門」ボタンより「部門マネージャ」を選択します。
2. 「フローティング部門」のチェックボックスにチェックを入れることにより、フローティング扱いをすることができます。
3. この時、「トップレベル」で登録されているすべての部門の間にスペースが生まれます。その様な状況を防ぐためには、離したくない部門同士は、同じ親を持つ子部門として登録すると良いでしょう。



部門名の変更

1. 部門名領域にポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックして部門を選択します。
2. さらに、選択された部門名領域の中央をクリックすることにより名称を上書きすることができます。あるいは、「部門マネージャ」より「名前の変更」ボタンをクリックすることにより修正が可能です。

同一ファイルの中に複数の図表を作成すると、それぞれの図表で同じ部門名を利用していることがよくあります。このようなケースで部門名の変更を行うと、iGrafx FlowCharter はファイル内のすべての図表を検索し、同じ部門名が見つかったら、他の図表の部門名、あるいは同一図表内にある部門名も一緒に変更するかどうかを問合せしてきます。(ひとつの図表の中に同じ部門名がある場合も同じです)



部門のサイズを変更する

(1) 部門のサイズを手動で変更する

部門名領域を選択し、部門名領域のハイライトされている枠線上の黒いハンドルにポインタを置くと、ポインタの形が双方向矢印に変わります。そこでマウスの左ボタンをクリックしたまま、部門名領域をドラッグし、左ボタンを離すと、部門名領域のサイズが変わります。

(2) 部門のオートリサイズ

部門の枠線上に図形を置くと、部門のサイズは自動的に変更されます。

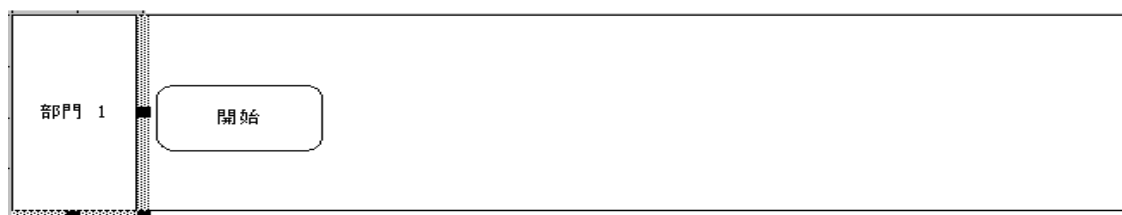
部門の下部の線から、一番近い図形までの距離が設定された距離になるように、自動で調整されます。

(書式-図表-プロセス-詳細設定にて変更可能)

部門を移動する

部門とその内容は、図表内で移動することができます。1つの部門を移動するには、以下の手順で操作します。

1. ポインタを部門名の上に移動し、クリックして部門を選択します。



2. 部門名領域の枠線上にポインタを置きます。移動ポインタに変わります。
3. マウスの左ボタンをクリックしたまま、図表内で部門を上下（または左右）に移動します。
4. マウスボタンを離すと、部門が新しい場所に配置されます。

部門を移動しても、図形の関係は保たれます。接続線は再接続されるため、情報が失われることはありません。

※「部門マネージャ」の「下に移動」、「上に移動」、「移動」からも同じことができます。

部門を削除する

部門を削除すると、部門内のすべての図形と、それらの図形に接続された接続線もすべて図表から削除されます。

部門を削除するには、以下の手順で操作します。

1. 部門名領域にポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックして部門を選択します。
2. 「Backspace」キーまたは「Delete」キーを押します。この操作で、すべての図形とテキストを含む部門全体が削除されます。

※「編集」メニューの「切り取り」を選択するか、「Ctrl」+「X」キーを押して削除することもできます。また、部門に限らず、図形や接続線なども同じ操作で削除できます。

部門の書式を設定する

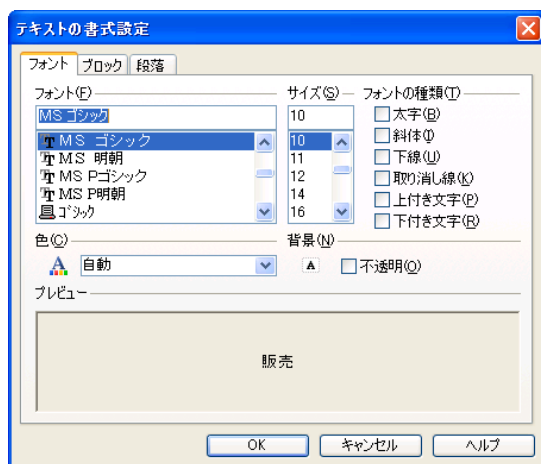
書式設定用の各メニューを使うと、部門のフォント、塗りつぶし、テキスト揃えなどを変更できます。

(1) 部門名のフォント、テキスト揃え

部門名のフォントやテキスト揃えなどの書式を変更するには、対象となる部門を選択し、以下の手順で操作します。

◆ メニューを利用する場合


1. 「書式」メニューの「フォント」を選択して、「テキストの書式設定」ダイアログボックスを表示します。
2. 「フォント」タブを選択します。
3. フォントの種類やサイズ、色などの設定を行ないます。「プレビュー」に設定したイメージが表示されます。

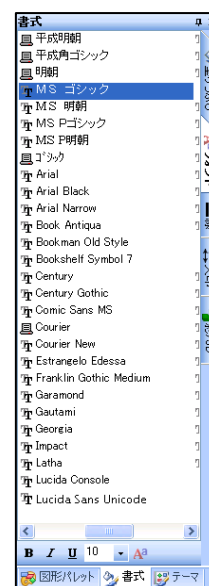


4. 設定が終了したら「OK」ボタンをクリックします。
同様に、「ブロック」タブや「段落」タブを利用してテキストの揃えなどの書式を変更することができます。

◆ 「書式」ウィンドウを利用する場合

「書式」ウィンドウの「フォント」タブをクリックして、該当のフォントを選択します。フォントの種類を選択したり、太字にする、下線を引く、サイズ変更する場合は、「書式」ウィンドウの「フォント」タブからのほうが、少ない手順で設定できます。

また、上記以外の書式は、「書式」ウィンドウ下部にある  ボタンをクリックし、表示される「テキストの書式設定」ダイアログボックスを使用して設定できます。



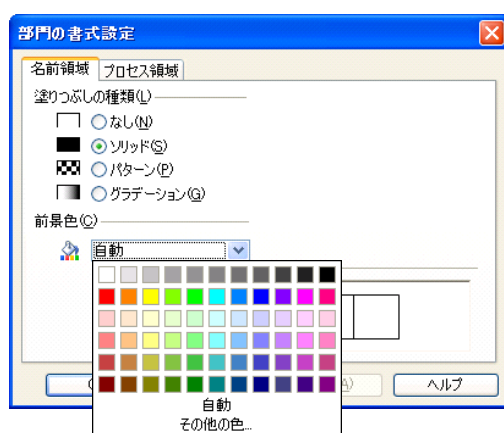
(2) 塗りつぶし

部門（部門名およびプロセス領域）の塗りつぶしを変更するには、以下の方法があります。対象の部門を選択し、それぞれの手順で操作をします。

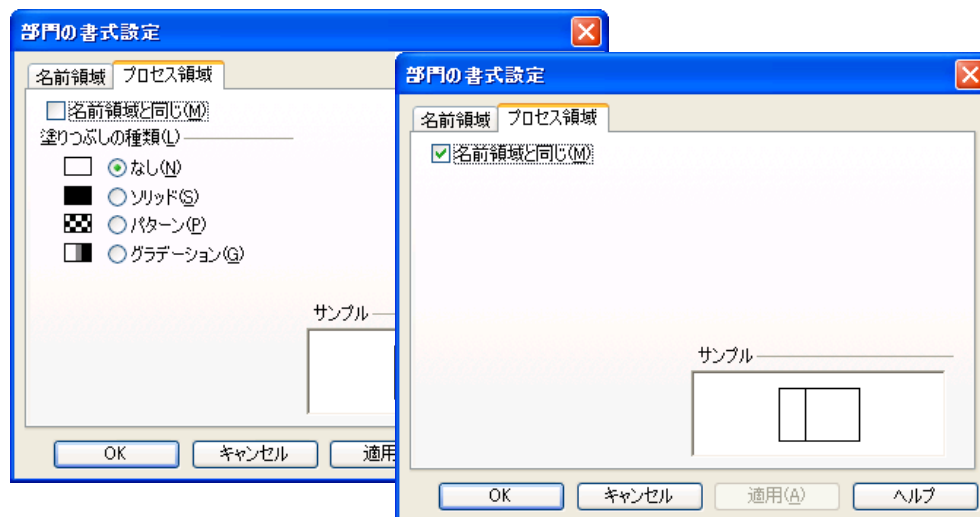
◆ メニューを利用する場合

1. 「書式」メニューの「塗りつぶし」を選択して、「部門の書式設定」ダイアログボックスを表示します。
2. 「塗りつぶしの種類」を選択します。色を変更するには、「ソリッド」を選択します。

パターンまたはグラデーションを選択したり、必要に応じてグラデーションやパターンをカスタマイズすることもできます。「前景色」のドロップダウンリストをクリックすると、カラーパレットが表示されます。カラーパレットから任意の色を選択します。



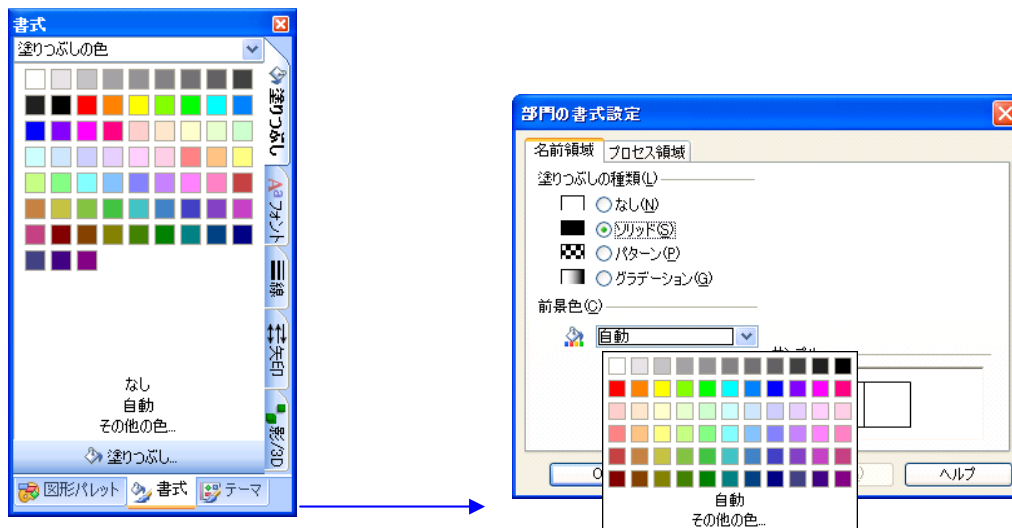
3. プロセス領域の設定は、「名前領域と同じ」になるように初期値設定されています。名前領域と別設定をしたい場合には、チェックをはずして任意の設定を行うことができます。



◆ 「書式」ウィンドウを利用する場合

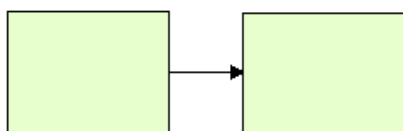
「書式」ウィンドウの「塗りつぶし」タブをクリックして、該当の塗りつぶしの色を選択します。

塗りつぶし以外の設定を行いたい場合には、「塗りつぶし」ボタンをクリックすることによって、「部門の書式設定」ダイアログボックスを表示することができます。



(注意)

オブジェクトを選択せずに塗りつぶしの色を選択した場合は、図形のデフォルトの色を変更したことになりますのでご注意ください。



デフォルトの色を変更した場合、それ以降に配置した図にその色が適用されます。

デフォルトの色を元に戻したい場合には、オブジェクトを選択せずに「書式」ウィンドウの「塗りつぶし」タブの「白」で塗りつぶしをして下さい。



テーマを使用する

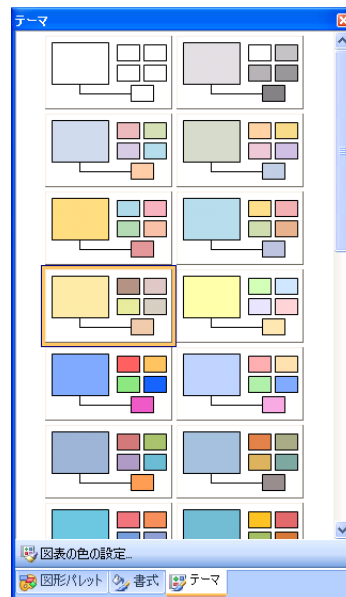
図表内のオブジェクトは、オブジェクト別にテーマを適用することができます。テーマを使用して部門や図形、その他のオブジェクトを含む図表全体の配色を設定することができます。「テーマ」ウィンドウを使用すると、用意されている調和の取れた色をそのまま図表に適用したり、変更を加えたりして複雑な図表の外観を簡単にまとめることができます。いくつかのオブジェクトをまとめて変更するだけの場合は、「書式」ウィンドウなどを使用します。

※カスタマイズして色を指定したテーマはテンプレートに保存することができます。

テーマが適用できるオブジェクトは以下の5つです。

- ・ 図形
- ・ グラフィック
- ・ 部門名領域
- ・ 部門プロセス領域
- ・ フェーズ名領域

1. 「表示」メニューの「テーマ」を選択して「テーマ」ウィンドウを表示します。
2. 適用したいテーマをクリックして選択します。図表内の各オブジェクトにテーマ色が適用されます。
3. 図表内のオブジェクトごとにテーマをカスタマイズしたい場合は、ウィンドウ下部の「図表の色の設定」をクリックして「図表の色の設定」ダイアログボックスを表示し、「変更を適用するオブジェクトの種類を選択」、「変更の適用先」を選択します。



書式のコピー／貼り付け

オブジェクト（図形や線など）のスタイルは、図表内の他のオブジェクトに簡単に適用することができます。フォント、揃え、線のスタイル、塗りつぶしスタイル、枠、フィールドテキストなど、図表の書式はどれでも他のオブジェクトに適用できます。

1. 他のオブジェクトに適用するスタイルが設定されたオブジェクトを選択します。
2. 「標準」ツールバーの「書式コピー／貼り付け」ボタンをクリックします。















ポインタが書式コピー／貼り付けポインタに変わります。

3. スタイルを適用したい1個または複数のオブジェクトをクリックします。
4. 「完了」ボタン、またはツールバーの別のボタンをクリックして、書式コピー／貼り付けモードを終了します。

3.3 図形の配置

ツールボックスツールバーを利用する

「ツールボックス」ツールバーには、図表作成のための全般の機能が用意されています。

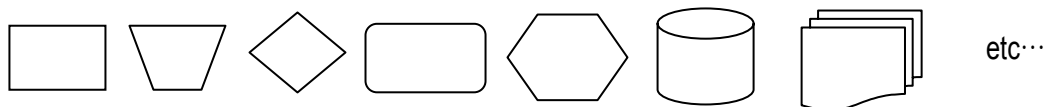
	選択ツール	: 図形やテキストを選択したい時に使用
	部門	: 部門に関する操作を必要とする時に使用
	開始図形	: この図形を配置したい時に使用 ※プロセス図表の時のみ表示されます
	プロセス	: この図形を配置したい時に使用
	決定	: この図形を配置したい時に使用
	その他の図形	: 図形ライブラリの設定を変更したい時に使用
	現在の線種類	: 現在選択されている線の種類を表示
	接続線ツール	: 接続線の種類を追加・変更したい時に使用
	テキストツール	: テキストを入力したい時に使用
	図形番号	: 図形情報の表示・非表示の設定を行う
	ズーム	: 画面の縮小拡大を行うズームツールを選択する時に使用
	エクスプローラ	: エクスプローラバーの表示・非表示を切り替える

「ツールボックス」ツールバーには、開いた図表の種類によって異なりますが、いくつかの図形が用意され、簡単に利用できるようになっています。（上図はプロセスを選択して開いた状態）

用意されている図形以外の図形を配置したい場合は「図形ライブラリ」に別の図形を追加して利用するか、図形パレットより選択して配置します。

フロー作成前に

プロセスフロー図を作成する際に、どの図形をどのような意味に利用しても構いませんが、フローを作成する前に規約を作成しておくこと、統一感のある、理解しやすいプロセスフロー図を作成することができます。



配置する図形を選択する

図表に配置する図形を選択するには、以下の2通りの方法があります。

- ・ 「ツールボックス」ツールバー（図形ライブラリ）を利用する。
- ・ コレクション（図形パレット）を利用する。

図形を配置する

図形を選択した後、それを図表内に配置するには、いくつかの方法があります。

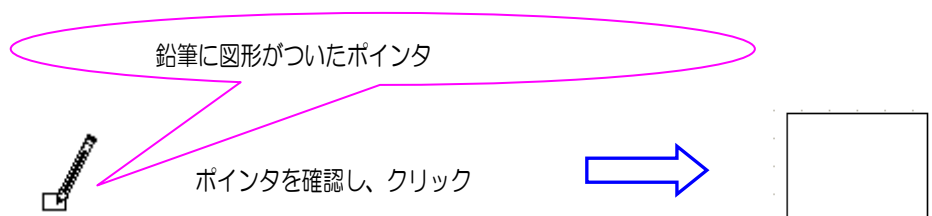
(1) 図形の配置

図表内に図形を配置するには、以下の手順で操作します。

1. 配置する図形を選択します。

図形を選択するには「ツールボックス」ツールバーの図形、「その他の図形」メニューの図形、または図形パレットの図形をクリックします。

2. プロセスウィンドウ上にポインタを移動します。ポインタが鉛筆／図形配置ポインタに変わり、配置モードになったことを示します。図形を配置する場所にポインタを置き、マウスの左ボタンをクリックします。図形が選択された状態で配置されます。

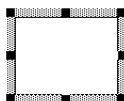


図形の配置が終了すると、マウスポインタは自動的に選択モード（矢印）になります。

(2) 図形へのテキスト入力

1. 配置した図形にテキスト入力をする場合には、まず、該当の図形を選択します。

選択されている図形は、選択枠が表示されています。

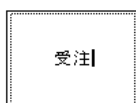


2. 図形が選択された状態で入力操作をすると、自動的に入力モードに変わり、そのまま図形にテキストを入力できます。選択した図形の中を再度クリックするか、または「F2」キーを押しても入力モードに変わります。



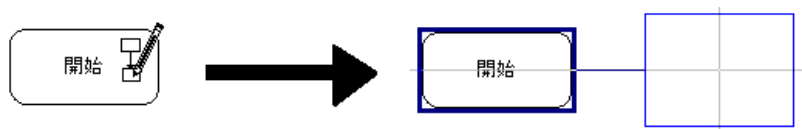
3. 入力した内容を確定させるには、「Esc」キーを押します。

図表の余白をクリック、または、次の操作（図形選択をするなど）を行っても入力内容を確定させることができます。



(3) 接続線付きの図形の配置

1. 配置したい図形を選択します。プロセスウィンドウ上にポインタを移動します。ポインタが鉛筆／図形配置ポインタに変わり、配置モードになったことを示します。
2. 線を引き始めたい図形の真上にポインタをもっていきます。マウスの左ボタンをクリックしたままにします。図形を配置したい位置にマウスをドラッグすると図形のアウトラインが表示され、移動ポインタに変わります。



3. マウスの左ボタンを離すと接続線付きの図形が追加されます。

連続して図形を配置する

同じ図形を連続して配置したい時に便利な機能です。

1. 「ツールボックス」ツールバー上の図形をダブルクリックすると、「完了」ボタンが表示されます。



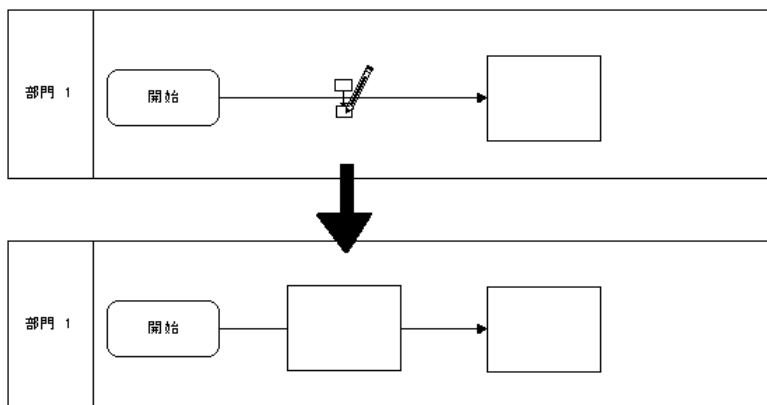
「完了」ボタンが表示されている間は、マウスポインタの図形配置ポインタが維持され、連続して図形を配置することができます。

2. 図形の配置が終わったら、「完了」ボタンをクリックします。

※ 連続配置の機能は、図形パレットの図形に関しては無効です。

接続線の上で図形を追加する

接続線で繋がった図形の間に新しい図形を追加したい時に、接続線の上で図形を追加することができます。



ただし、図形が挿入できるだけのスペースがない場合、見た目上は指定した場所に配置されますが、自動的にスペースを開ける機能はありません。そのような場合には、あらかじめ図形が挿入できるだけのスペースを確保してから図形を配置します。図形を削除した場合には、図形の前後の接続線が自動で繋がります。

図形の余白をクリックして、直前に行った操作を繰り返す

図形を配置したり、接続線を引いた直後にプロセス領域の空白の部分をクリックすると、マウスポインタが再び直前に
行っていた操作モードのポインタになります。

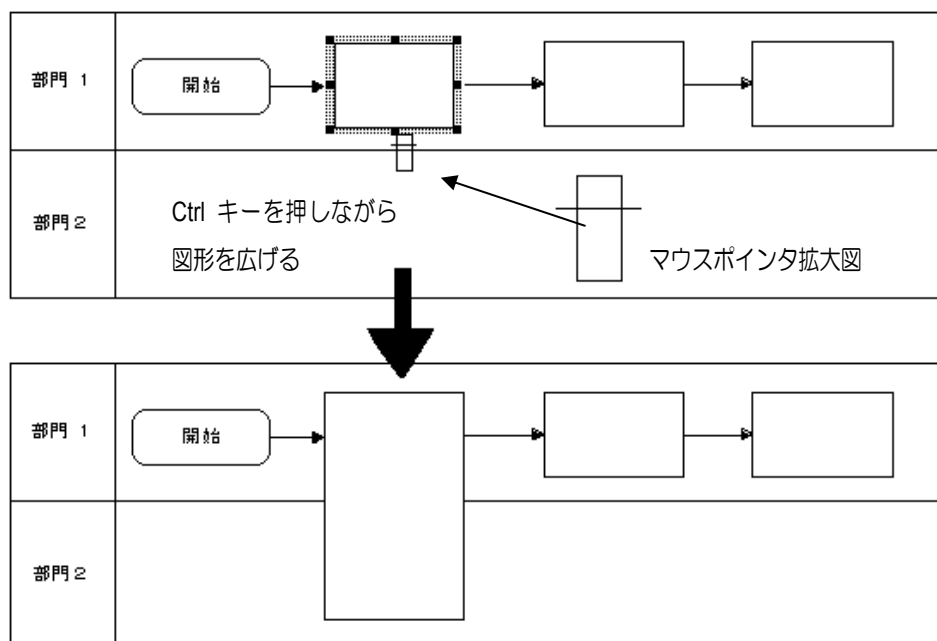
つまり、同じ図形を配置するような場合は、その都度図形を選択しなくても、余白をクリックすることによって図形を
選択したのと同じ操作をすることができます。また、接続線を引いていたような場合でも直前に引いていた線と同じ種
類の線を選択したことになります。

間違えて余白をクリックしたことにより、マウスポインタが変わってしまった場合には「Esc」キーを押すか、「ツール
ボックス」ツールバーの「選択ツール」をクリックして、矢印ポインタに戻すことができます。

部門をまたがる図形

複数部門で同一の作業を行っていることを表現する場合には、部門をまたがらせて図形を配置します。部門をまたがら
せて図形を配置するには、以下の手順で操作します。

1. 部門をまたがらせたい図形を選択します。
2. 「Ctrl」キーを押しながらマウスポインタを選択枠の黒いハンドルの近くに当てます。
3. マウスポインタが下図の様な形になりますので、そのタイミングで図形を広げます。

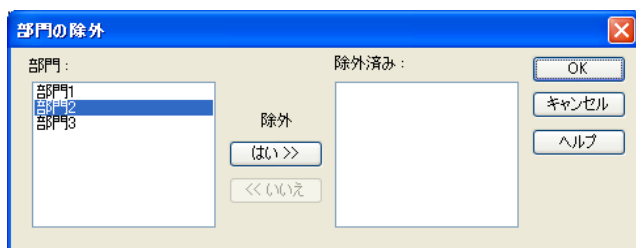
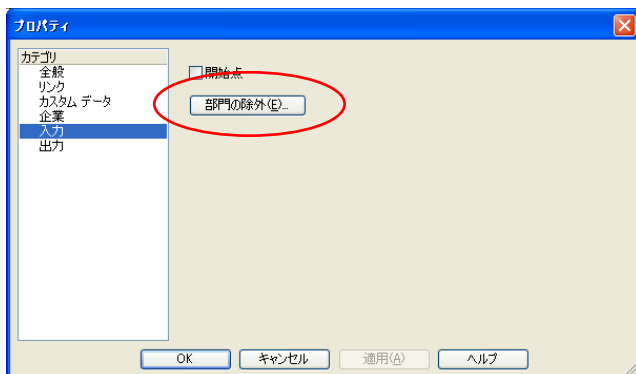


※ フローティング部門間で、図形をまたがせることはできません。

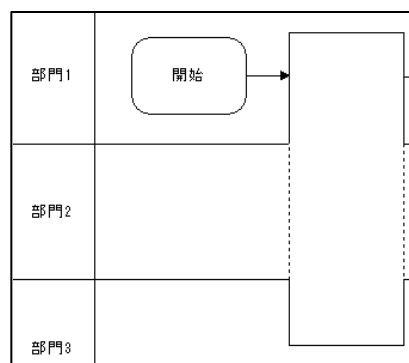
無関係な部門をまたがった時の除外方法

複数部門に図形をまたがらせる際に、該当の仕事に関係のない部門もまたいでしまうことがあります。その時には無関係な部門をその仕事から除外することができます。図形の「プロパティ」ダイアログボックスを開き、「入力」カテゴリの「部門の除外」ボタンをクリックし、ダイアログボックスから除外したい部門を選び除外して下さい。

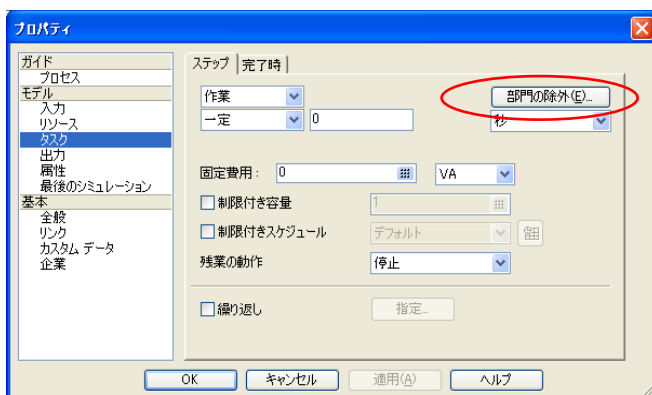
◆ 「基本図表の場合」



除外された部門は点線で表示されます。



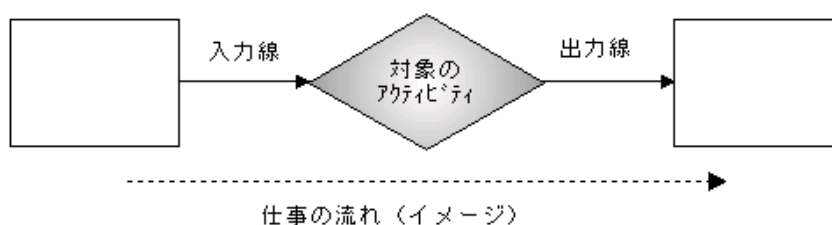
◆ 「プロセス図表の場合」



3.4 接続線

接続線は、2つの図形を接続するもので、プロセスにおける情報の流れを表します。それぞれの図形には、各辺の中心に4つの接続点があります。ただし、接続線は接続点以外のどこからでも引くことができます。

接続線は自動的に配置され、図形を移動した場合でも自動的に再描画されます。



入力線：対象のアクティビティから見て矢印の先が自分に向いている線

出力線：対象のアクティビティから見て矢印が自分から出ている線

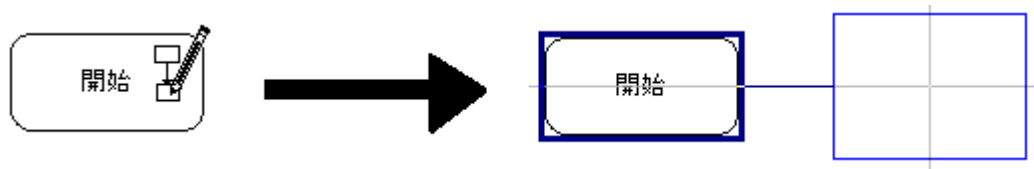
接続線を作成する

図形と図形を接続する線の引き方は、以下の3通りの方法があります。

(1) ドラッグしながら図形を配置する

既存の図形からドラッグして新しい図形を追加すると、接続線付きの図形を配置することができます。

配置する図形を選択し（最後に選択した図形を使わない場合）、既存の図形にポインタを置いて、その図形からドラッグします。



(2) 「図形」メニューを使って連続的に図形を接続する

接続線で繋がっていない図形が多数ある場合、図形メニューの「図形の接続」機能を使うと一度に接続線を引くことができます。

1. 接続線を引き始める図形を選択します。
2. 「Shift」キーを押しながら接続線を引く順番に図形をクリックして選択します。
※「Shift」キーを押しながら図形をクリックすると、複数の図形を選択できます。
3. 「図形」メニューの「図形の接続」を選択します。

(3) 図形内から図形内へ

2つの図形を接続線で結ぶには、「ツールボックス」ツールバーの「選択」ツールが選択されていることを確認して、以下の操作を行います。

1. 接続線を引き始める図形の内部に矢印ポインタを置きます。
2. マウスの左ボタンをクリックしたままにします。
3. 接続点の近くにポインタをドラッグします。このとき、接続先の図形の内側にドラッグします。
4. マウスの左ボタンを離すと、図形間に接続線が描かれます。

線接続モードにするには、「ツールボックス」ツールバーの「選択」ツールをクリックします。

接続点を移動する

図形間を接続している線の端点を動かすには、以下の手順で操作します。

1. 接続線をクリックして選択します。
2. 線の端点（赤い四角形）の一つに矢印ポインタを置きます。ポインタが接続線ポインタに変わります。
3. マウスボタンをクリックしたまま、ポインタを図形の別の点、または別の図形に移動します。
4. 線が正しい位置に配置されたら、マウスボタンを離します。

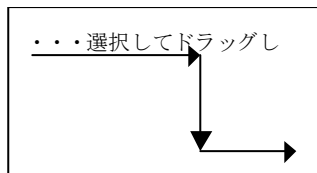
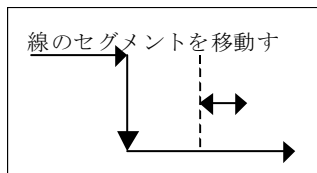
接続線を移動（手動で配置）する

接続線は、図形間に自動的に配置されます。接続線のセグメントは、手動で特定の場所に移動したり配置することもできます。

(1) セグメントの移動

接続線のセグメントを移動するには、以下の手順で操作します。

1. 線をクリックして選択します。ポインタが、選択した線のセグメント上で十字に変わります。
2. マウスの左ボタンをクリックしたまま、線のセグメントを別の場所にドラッグします。

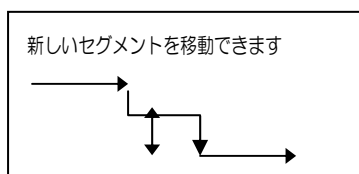
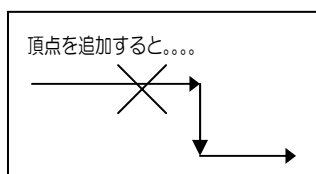
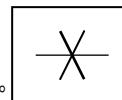


3. マウスを離すと、線のセグメントが新しい位置に配置されます。
図形を移動しても、線のセグメントの新しい位置はそのまま維持されます。

(2) 頂点の追加

接続線に頂点を追加して別の線セグメントを作成するには、以下の手順で操作します。

1. 線をクリックして選択します。
2. 線上でマウスの右ボタンをクリックし、メニューを表示します。
3. メニューから、「頂点の追加」を選択します。ポインタが、頂点ポインタに変わります。
4. 頂点ポインタでクリックすると、クリックした位置に新規にハンドルが追加されます。
5. ハンドルを移動し、接続線の位置を変更します。



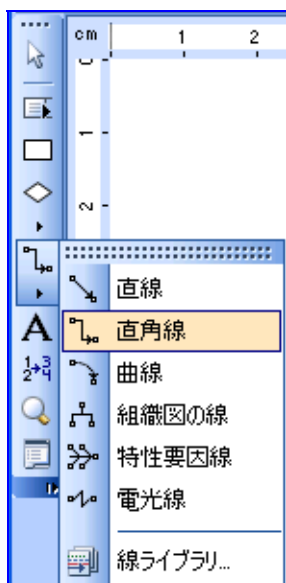
(3) 線の経路

セグメントを手動で移動した線や、頂点を追加した線を、自動経路の線に戻すことができます。

1. 接続線をクリックして選択します。
2. マウスの右ボタンをクリックしてメニューを表示し、「線の経路」を選択します。線を削除してから引き直したように、接続線が再配置されます。

接続線の種類

iGrafx FlowCharter では、接続線の種類を複数準備しています。「ツールボックス」ツールバーの「接続線」ツールで接続線の種類を変更することができます。



新しい図表を開いた時、接続線は「直角線」という種類の線が選ばれています。

「直線」：斜めに線を引いた時に、まっすぐ引かれます。

「直角線」：斜めに線を引いた時に、直角の線が引かれます。

「曲線」：ベジェ曲線で線が引かれます。

「組織図の線」：組織図などを作成する時に使いやすい線です。

「特性要因線」：特性要因線図において利用される線です。

業務フローなどでは使用しません。

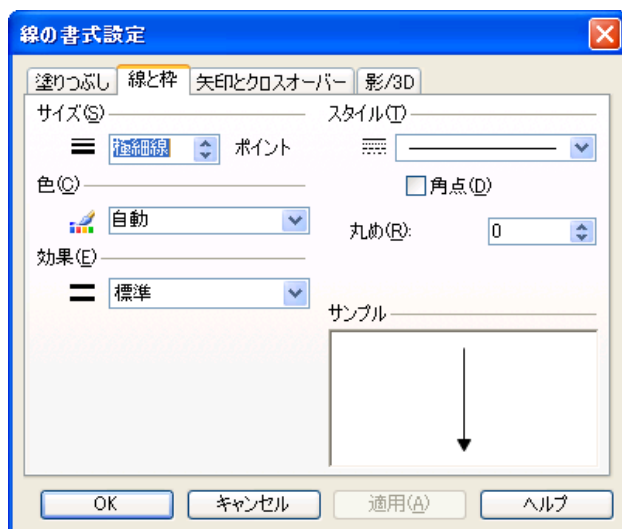
「電光線」：稲光の様な、電光線を引くことができます。

接続線の書式を設定する

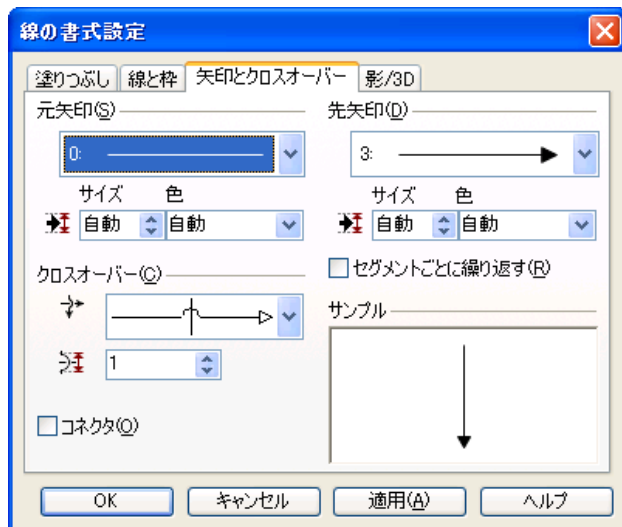
接続線のスタイルを設定できます。接続線の書式を変更するには、以下の手順で操作します。

(1) メニューを使う

1. 接続線をクリックして選択します。
2. 「書式」メニューの「線と枠」を選択して、「線の書式設定」ダイアログボックスを表示します。



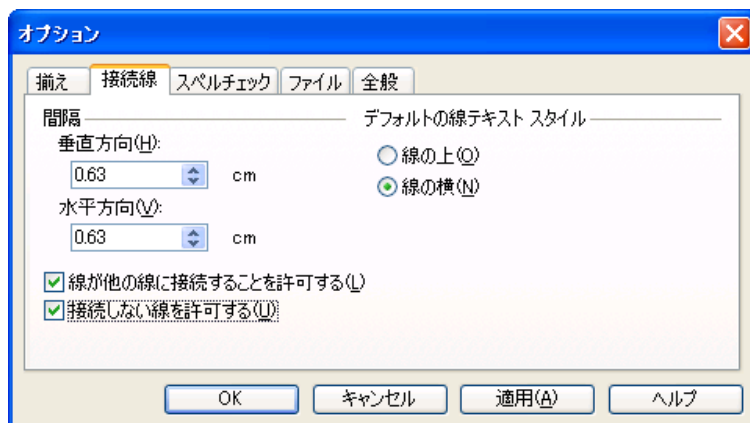
3. 線のサイズ、スタイル、色、および角の丸めを選択します。
4. 必要に応じて、「矢印とクロスオーバー」タブをクリックします。



5. 線の開始端と終了端のスタイルを選択します。
6. 「クロスオーバー」スタイルを選択して、線が交差した場合の状態を指定します。
7. 線の端点に矢印をつけたい場合は、「セグメントごとに繰り返す」チェックボックスをオンにします。
8. 線の上にページ内コネクタをつける場合は、「コネクタ」チェックボックスをオンにします。
9. 「OK」ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

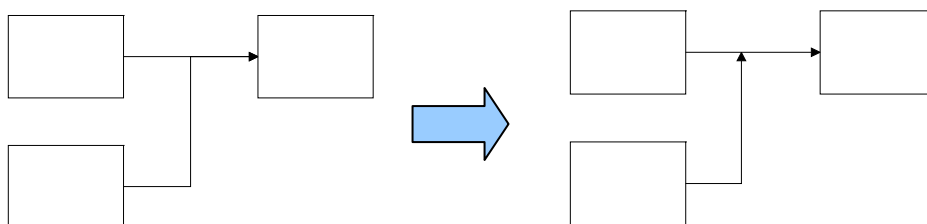
線の接続ルールを変更する

通常、接続線は図形と図形を繋ぐために引きますが、作図上、図形に繋がらない線や、線に接続した線を引きたい時は、オプションメニューを変更することで可能になります。「ツール」メニューの「オプション」-「接続線」タブに、これらを変更するチェックボックスがあります。



(1) 線が他の線に接続することを許可する

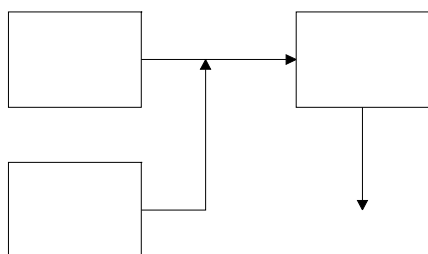
「線が他の線に接続することを許可する」オプションにチェックを入れると、接続線に接続線を接続することが可能になります。



チェックしない場合には左の様な表現しかできませんが、チェックすることによって右図の様な表現も可能になります。

(2) 接続しない線を許可する

「接続しない線を許可する」オプションにチェックを入れると、図形に接続していない線を描くことが可能になります。

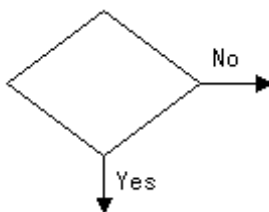


チェックがついていない状態では、必ず接続線は図形と図形（あるいは線）を繋いでいますが、このオプションにチェックを入れると、接続していない線を描けますので、左図のような表現が可能になります。

ケーステキスト

図形に複数の出力がある場合、各出力ラベルに表示されるテキストは、それぞれのケースを表しているため、ケーステキストと呼ばれます。

たとえば、「Yes (はい)」と「No (いいえ)」の2つのケースがある決定ポイントでは、自動的にラベルが線に付随して表示され、これらのラベルは他のテキストと同様に移動したり、書式を変更することができます。



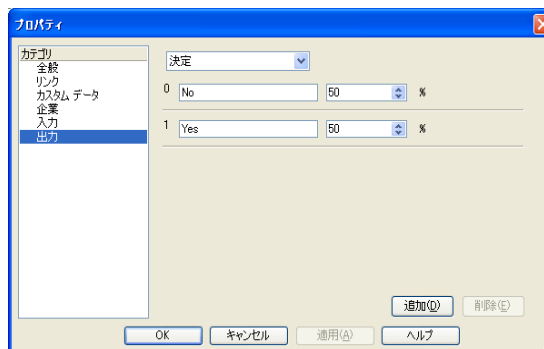
また各決定ポイントの割合を入力することができます。トータル 100%になるように、自動で計算され調整されます。

フローチャートではよくひし形を分岐判断の図形として利用しますが、それ以外の図形でも同様にケーステキストを設定することができます。

(通常は「決定」ではなく「すべて」が選択されていて、出力線にはケーステキストがつかない状態になっています。)

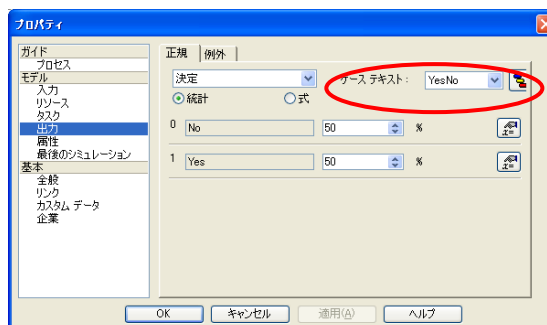
◆ 「基本図表」の場合

ラベルを書き換えることができます。また、「追加」ボタンをクリックすることによってケーステキスト数を増やすことができます。



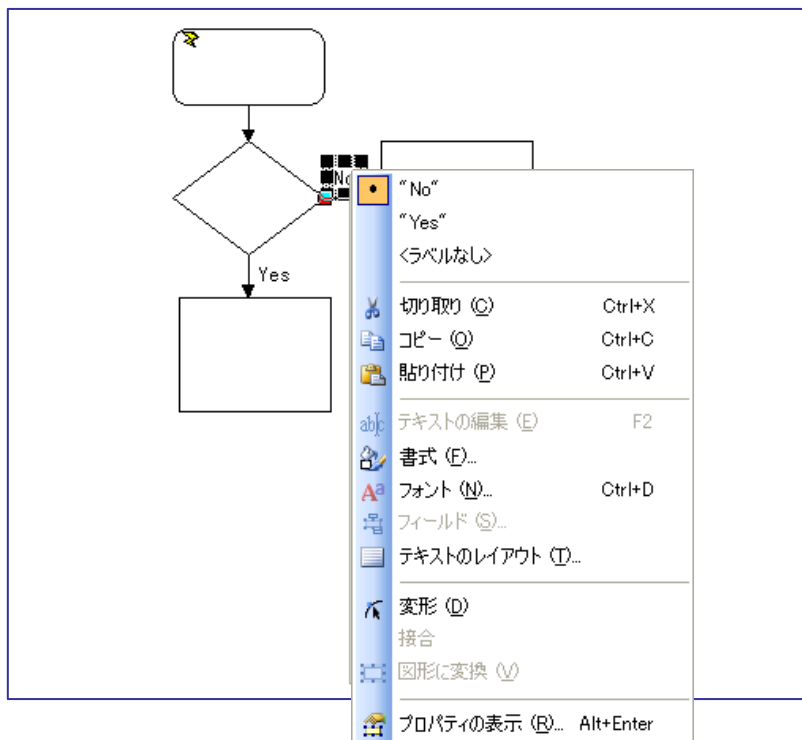
◆ 「プロセス図表」場合

通常、「決定」が設定されていてラベルを書き換えることはできません。ケーステキストで「その他」を選択した時に、「追加」ボタンをクリックすることによってテキスト数を増やすことができます。また、この時ラベルは自由に書きかえることができます。



◆ ケーステキストを切り替える

ケーステキストの内容を変えたい時はラベルを動かさず、線の上で右クリックして線の内容を選択することによって簡単に入れ替えることができます。例は Yes No ですが、複数の出力線でも切り替えできます。



3.5 図表を操作する

図形の置換

配置した図形を別の図形に置換することができます。図形ライブラリ、図形パレット、またはクリップボード内の図形と置き換えます。



1. 図形を選択して、「図形」メニューの中から「図形の置換」を選び、図形の置換ダイアログボックスを出します。

項目	説明
「図形ライブラリ」タブ	「図形ライブラリ」にすでに含まれている図形が表示されます。
「図形パレット」タブ	「図形パレット」に含まれるコレクションから、図形を選択することができます。
「クリップボード」タブ	クリップボード内のオブジェクトが表示されます。

2. 図形ライブラリや図形パレット、クリップボード内の図形から、置換したい図形を選択し、「OK」ボタンをクリックして置換を完了します。その際に、図形の持つ情報（シミュレーションの情報ではない）を置換する図形から引き継ぎたい場合は、「すべてのプロパティを置換」を選択します。

項目	説明
シンボルだけ置換	シンボルのみを置き換えます。
すべてのプロパティを置換	シンボルと、そのシンボルが持つすべてのプロパティ（色、名前、塗りつぶし、枠など）を置き換えます。

オブジェクトを選択する

オブジェクトを選択するには、オブジェクトに矢印ポインタを置き、クリックします。

複数のオブジェクトを選択するには、ラッソー（領域）を使って1度に範囲選択するか、または順に1個ずつオブジェクトを選択していくか、いずれかの選択方法を使用します。

◆ ラッソーで選択

1. 図表内の空白部分にポインタを置きます。
2. マウスの左ボタンをクリックしたままポインタを斜めにドラッグして、複数のオブジェクトを長方形で囲みます。
3. マウスの左ボタンを離します。完全に長方形で囲まれたオブジェクトだけが選択されます。

◆ 順に選択

1. オブジェクトをクリックして、最初の図形を選択します。
2. 「Shift」キーを押したまま、順にオブジェクトをクリックしていくことにより、オブジェクトを選択グループに加えます。

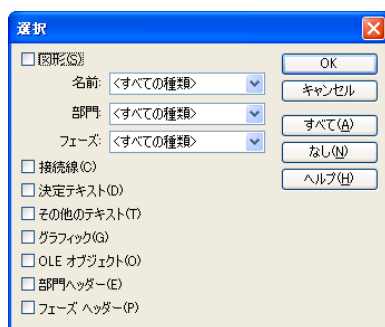
便利な選択ツール

複数の図形や接続線を選択するのに便利な機能が用意されています。

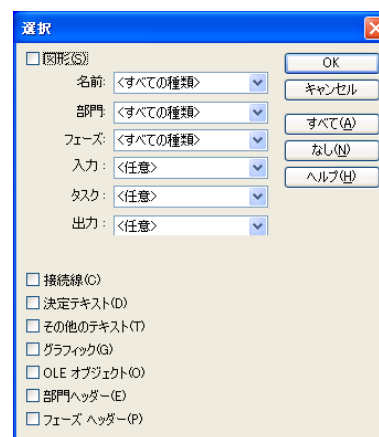
「編集」メニューの中の「選択」をクリックすると、選択ダイアログボックスが表示されます。

選択したいオブジェクト（図形、接続線、決定テキストなど）をチェックし「OK」ボタンをクリックすると、選んだオブジェクトが選択されます。図形の場合はさらに条件を設定することができます。すべての図形を選択したい場合は、特に条件を入れなくて下さい。

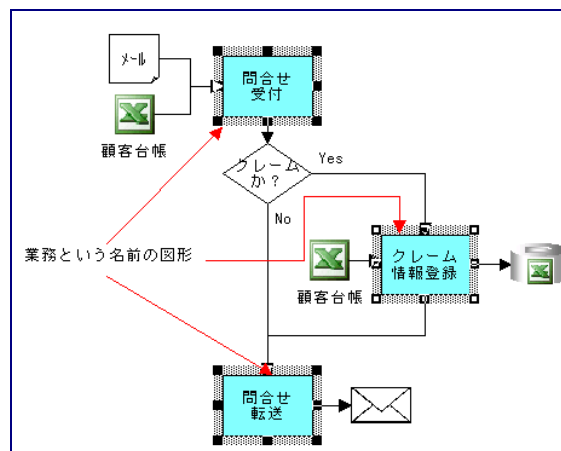
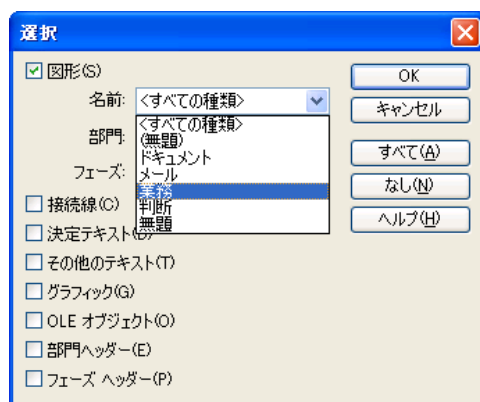
◆ 「基本図表」の場合



◆ 「プロセス図表」の場合



例)「図形」にチェックを入れて「名前」で選択条件を絞り込んだ場合は下図のようになります。



3.6 図表を整える

図形グリッド

グリッドドットとは、図表上に表示されるグレーの点です。この点は、図形を整列しながら配置する時の目安として利用できます。グリッドドットは、表示・非表示を切り替えたり、図形を配置する時にスナップ（吸着）のオン/オフを切り替えて用途にあわせた利用をすることができます。

(1) グリッドの表示と非表示を切り替える

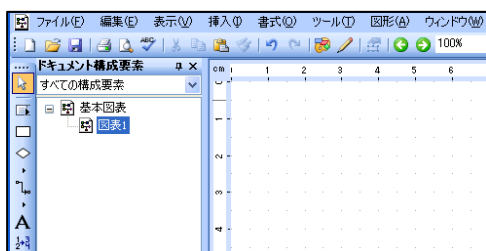
グリッドの表示と非表示を切り替えるには、以下の操作を行います。

1. 「図形」メニューの「グリッド」を選択します。
2. 「グリッドドットの表示」を選択します。

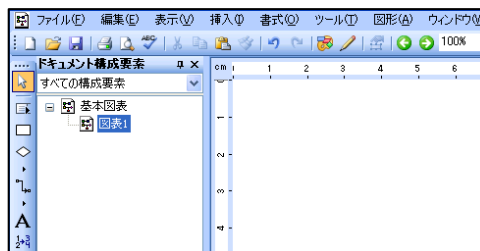
「グリッドドットの表示」アイコンがへこんでいる時は、現在、ドットの表示がオンになっていることを示しています。

オンになっているときに選択をするとオフになります。また、オフになっているときに選択をした場合はオンになります。

◆ グリッドドットが表示になっている場合



◆ グリッドドットが非表示になっている場合



(2) グリッドへのスナップのオン/オフを切り替える

グリッドへのスナップをオンにしてから図形を配置すると、図形はグリッドドットに吸着されて配置されます。

グリッドへのスナップのオン/オフを切り替えるには、以下の操作を行います。

1. 「図形」メニューの「グリッド」を選択します。
2. 「グリッドへスナップ」を選択します。

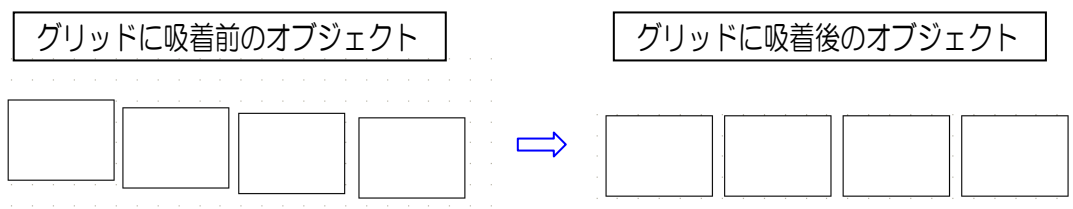
「グリッドへスナップ」アイコンがへこんでいる時は、現在、スナップ機能がオンになっていることを示しています。

オンになっているときに選択をするとオフになります。また、オフになっているときに選択をした場合はオンになります。移動またはコピーした図形もグリッドにスナップされます。

(3) オブジェクトをグリッドへスナップ（吸着）させる

「グリッドへスナップ」機能をオフにして配置した図形を、グリッド上に配置する場合には以下の手順で操作します。

1. 「グリッドへスナップ」がオンになっていることを確認します。オンになっていない場合は、オンにします。
2. グリッドドット上に配置したい1個以上の図形を選択します。
3. 「図形」メニューの「グリッド」から「オブジェクトをグリッドへスナップ」を選択します。



図形グリッドのスペースの変更

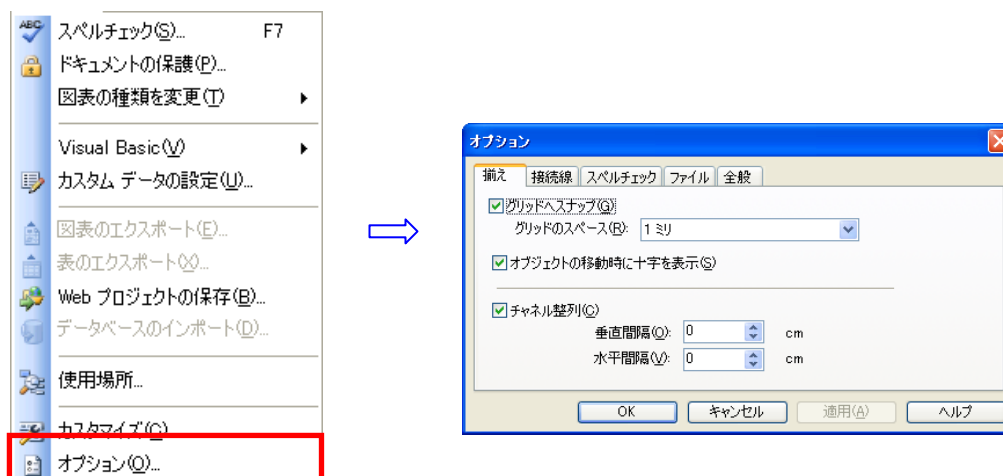
図形を矢印キーで移動するとき、1度の操作で移動できる幅のことをグリッドのスペースと呼んでいます。このグリッドのスペースは、変更することが可能です。微妙な幅で図形を移動したい場合、意図する図形のサイズに拡大縮小することができない場合は、グリッドのスペースを小さくすることにより、より細かく図形の配置をコントロールできるようになります。

グリッドのスペースの変更は、以下の手順で設定できます。

1. 「ツール」メニューの「オプション」を選択します。
2. 「揃え」タブ中の「グリッドのスペース」を変更します。

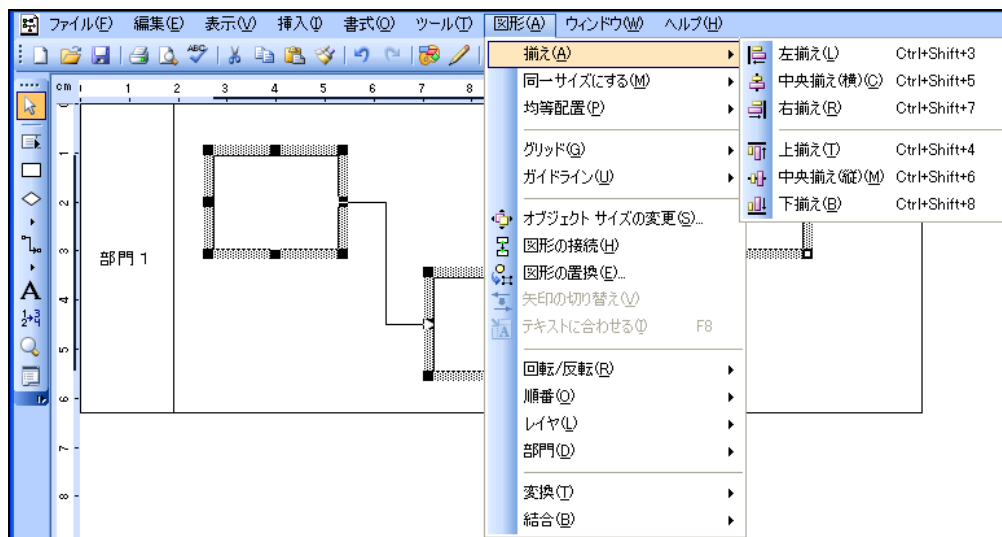
初期値は5ミリで設定されています。

※グリッドのスペースを変更した状態でテンプレートに設定しておく、毎回変更することなく作業がスムーズになります。



図形の整形

図形を綺麗に並べたり、幅や高さ、図形間の間隔を揃える機能が用意されています。図形メニューの中から「揃え」「同一サイズにする」「均等配置」を選択し、さらにサブメニューでどこを基準に揃えるか、などを選択します。



(1) 「揃え」

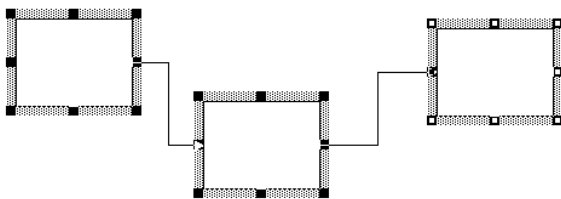
図形の揃えは以下の手順によって行います。

1. 揃えたい図形を複数選択します。

複数選択した図形の中に、ひとつだけ白いハンドル表示されている図形があります。この白いハンドルが表示されている図形が、並べ替えの基準になる図形です。

- ① 「Shift」キーを押しながら複数の図形を選択した場合は、最後に選択した図形に白いハンドルが表示されます。
- ② 上記以外の方法で図形を選択した場合は、最後に配置した図形に白いハンドルが表示されます。

基準図形を変更したい場合は、「Shift」キーを押しながら、基準図形にしたい図形を選択しなおします。



2. 「図形」メニューの「揃え」を選択し、さらに基準図形のどこに揃えるのかを選択します。

(2) 「同一サイズにする」

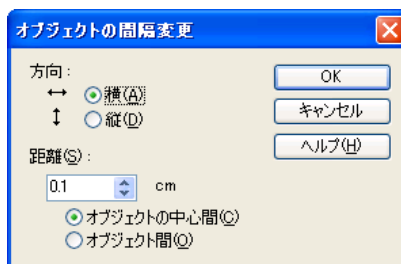
1. 同一サイズにするオブジェクトを全て選択します。
2. 「図形」メニューから「同一サイズにする」を選択し、次のいずれかのオプションを選択します。
サイズの基準とされるのは、最後に選択したオブジェクト（白いハンドルで囲まれたオブジェクト）です。

項目	説明
幅	選択したすべてのオブジェクトを同じ幅にします。
高さ	選択したすべてのオブジェクトを同じ高さにします。
両方	選択したすべてのオブジェクトの幅と高さを等しくします。
テキストに合わせる	テキストに合わせて選択したオブジェクトのサイズを揃えます。

(3) 「均等配置」

1. 均等配置するオブジェクトをクリックして選択します。
2. 「図形」メニューから「均等配置」を選択し、次のいずれかのオプションを選択します。

項目	説明
中心を基準に横方向等間隔	オブジェクトの中心を基準にして、選択したオブジェクトを図表内で横方向に均等配置します。
中心を基準に縦方向に等間隔	オブジェクトの中心を基準にして、選択したオブジェクトを図表内で縦方向に均等配置します。
端を基準に横方向等間隔	オブジェクトの端を基準にして、選択したオブジェクトを図表内で横方向に均等配置します。
端を基準に縦方向等間隔	オブジェクトの端を基準にして、選択したオブジェクトを図表内で縦方向に均等配置します。
オブジェクトの間隔変更	下図のダイアログボックスが表示されます。オブジェクトの間隔を直接数値で入力します。



項目	説明
方向	[横] を選択すると、[距離] フィールドに入力した値が水平方向に適用されます。 [縦] を選択すると、[距離] フィールドに入力した値が垂直方向に適用されます。
距離	[距離] フィールドに値（センチ）を入力します。 [オブジェクトの中心間] を選択すると、オブジェクトの中心から中心までの間隔が指定できます。 [オブジェクト間] を選択すると、選択したオブジェクトの端から端までの間隔が指定できます。

図形を回転、反転する

図形は回転したり反転することができます。

(1) 回転する

回転には、3つのオプションがあります。図形を右に、左に、または一定の角度で回転することができます。図形を回転するには、以下の手順で操作します。

1. 1個以上の図形を選択します。
2. 「図形」メニューから「回転/反転」を選択し、次のいずれかの回転オプションを選択します。

項目	説明
右回転	図形は、時計回りに90度回転します。
左回転	図形は、反時計回りに90度回転します。
角度指定	ダイアログボックスが表示されます。回転する角度を0~360度の間で選択し、回転方向を時計回りまたは反時計回りのいずれかに指定します。

(2) 反転する

垂直線（上下）または水平線（左右）に沿って、図形を反転することができます。図形を反転するには、以下の手順で操作します。

1. 1個以上の図形を選択します。
2. 「図形」メニューから「回転/反転」を選択し、次のいずれかの反転オプションを選択します。

項目	説明
水平に反転	図形の中心を通る水平線を基準にして図形が反転します。
垂直に反転	図形の中心を通る垂直線を基準にして図形が反転します。

図形内のテキストは反転されません。テキストを変更するには「テキスト揃え」を使います。

図形を順番に並べる

図形を積み重ねる場合は、その積み重ね順を変更することができます。積み重ね順を変更するには、以下の手順で操作します。

1. 1個以上の図形を選択します。
2. 「図形」メニューから「順番」を選択し、次のいずれかのオプションを選択します。

項目	説明
1番下へ移動	図形は重なった図形の一番下へ移動します。
1番上へ移動	図形は重なった図形の一番上へ移動します。
1つ下へ移動	図形は重なった図形の中で1つ下へ移動します。
1つ上へ移動	図形は重なった図形の中で1つ上へ移動します。

3.7 図形の書式を設定する

図形テキスト

(1) フォント

図形テキストのフォントを変更するには、以下の手順で操作します。

1. 図形をクリックして選択します。複数の図形を一括で変更する場合は複数の図形を選択します。
2. 「書式」メニューの「フォント」を選択します。
3. 適切なスタイルを選択します。
4. 「OK」ボタンをクリックします。新しいフォントの書式が表示されます。

(2) テキスト揃え

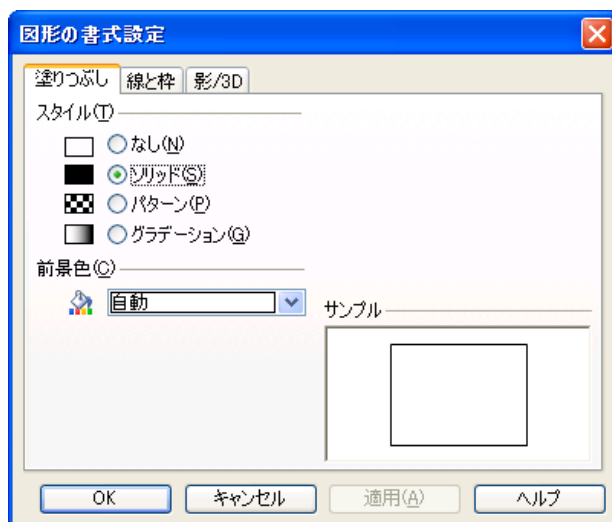
図形のテキスト揃えを変更するには、以下の手順で操作します。

1. 図形をクリックして選択します。複数の図形を一括で変更する場合は複数の図形を選択します。
2. 「書式」メニューの「テキスト揃え」を選択して、ブロックまたは段落の書式設定オプションを表示します。
3. 必要なオプションを選択し、「OK」ボタンをクリックします。

図形の塗りつぶし

図形の塗りつぶしを変更するには、以下の手順で操作します。

1. 図形を選択します。
2. 「書式」メニューの「塗りつぶし」を選択します。

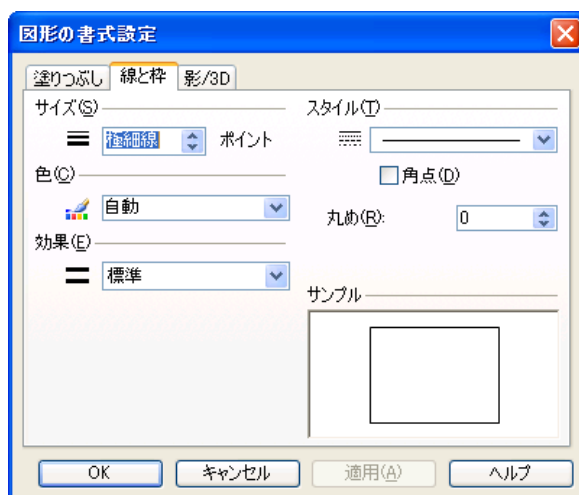


3. 必要な塗りつぶしのオプション（パターン、前景、パターンの色、その他）を選択します。
4. 「OK」ボタンをクリックします。選択した塗りつぶしが表示されます。

図形の枠線スタイル

図形の枠線スタイルを変更するには、以下の手順で操作します。

1. 図形を選択します。
2. 「書式」メニューの「線と枠」を選択します。

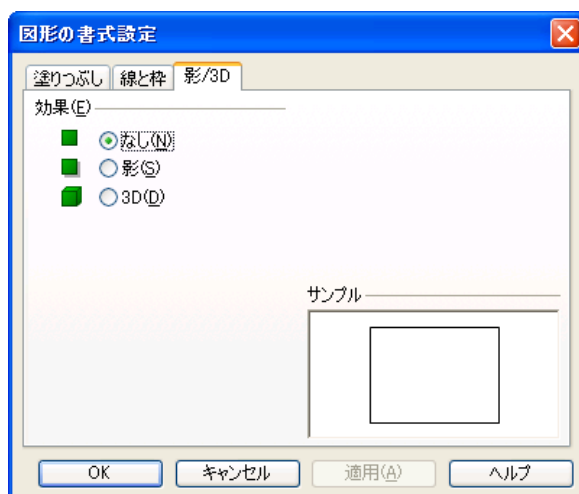


3. 必要な線と枠のオプション（線のサイズ、線の色、線のスタイル、その他）を選択します。図形によっては角を丸めることができます。
4. 「OK」ボタンをクリックし、ダイアログボックスを閉じます。

図形の影/3Dスタイル

1個以上の図形の枠線スタイルを変更するには、以下の手順で操作します。

1. 図形を選択します。
2. 「書式」メニューの「影/3D」を選択します。



3. 次のいずれかのオプションを選択します。

項目	説明
なし	影も3D効果も表示されません。
影	光が射しているかのように図形に影を付けます。一覧から影のスタイルを選択します。また影の「色」を選択したり、「深さ」を設定して影の幅を調節することもできます。「深さ」は、1～5ピクセルの間で指定します。
3D	図形に3Dの効果を与え、1つの面に影が付きます。「深さ」を設定して、影の長さ／幅を大きくすることができます。

4. 「OK」ボタンをクリックし、ダイアログボックスを閉じます。

図形テキストのレイアウト

図形内のテキストのレイアウトを変更することができます。これには、テキストの余白、テキストの書式、および二次的なテキスト領域の追加などが含まれます。

テキストのレイアウト設定は、以下の手順となります。

1. 図形を選択します。
2. 「書式」メニューの「テキストのレイアウト」を選択して、「テキスト レイアウトの書式設定」ダイアログボックスを表示します。複数の図形を一括で変更する場合は複数の図形を選択します。



3. 「図形の余白」にテキストの余白（図形の端からの距離）をセンチ単位（固定）として入力するか、またはパーセント値で値を入力します。この操作は、4つの余白に対して行うことができます。また、余白を図形のデフォルトに設定することもできます。
4. 「二次的なテキストの領域」では、図形内に複数のテキスト領域を設けることができ、それぞれのテキストに異なる書式を設定できます。

3.8 テキストを追加する

図表にテキストを追加して、注釈を付けることができます。テキストブロックを図表に配置し、コールアウト線を使って図形や接続線にアンカーを設定することも可能です。

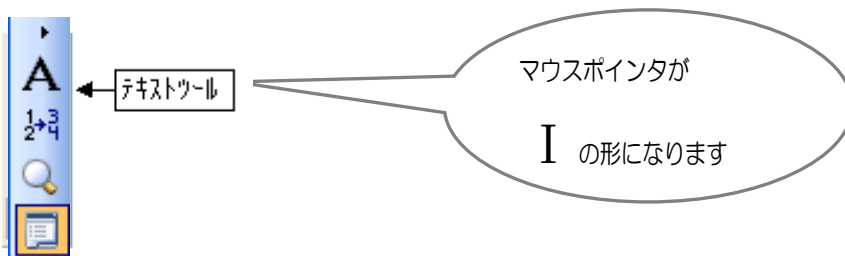
テキストブロックを作成する

図表にテキストブロックを作成するには、いくつかの方法があります。

(1) クリックする

入力するテキストの長さが決まっていない場合は、以下の手順で操作します。

1. 「ツールボックス」ツールバーの「テキスト」ツール（大文字の「A」）をクリックします。
2. 図表にポインタを移動します。ポインタがテキスト挿入（Iビーム）ポインタ「I」に変わります。

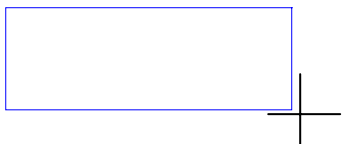


3. テキストを挿入する場所にポインタを置き、マウスの左ボタンをクリックします。
4. テキストブロックにテキストを入力します。テキストブロックはテキストに合わせて自動的に拡張されます。
5. テキストを入力し終わったら、図表の空白部分をクリックするか、「ツールボックス」ツールバーの「選択」ツールをクリックして、テキストの選択を解除します。

(2) ドラッグする

必要なテキスト領域の大きさがあらかじめわかっている場合は、テキストを入力する前にテキスト領域を定義します。領域を定義し、テキストを入力するには、以下の手順で操作します。

1. 「ツールボックス」ツールバーの「テキスト」ツール（大文字の「A」）をクリックします。
2. 図表にポインタを移動し、テキスト領域を開始する場所でマウスの左ボタンをクリックしたままにします。ポインタの形がプラス記号「+」に変わります。



3. マウスをドラッグしてテキスト領域を定義したら、マウスを離します。
4. テキストを入力します。これで、定義した領域全体がテキストオブジェクトになります。

テキストブロックを移動する

テキストブロックは、配置すると部門内の同じ位置に固定されます。

図表でのテキストブロックの位置は、テキストブロックを選択してから移動することによって変更できます。ポインタとともに外枠が移動するので、容易に移動することができます。テキストブロックを移動するには、以下の手順で操作します。

1. テキストブロックをクリックして選択します。
2. 選択したテキストブロックの一辺にポインタを置きます。ポインタが移動ポインタ（十字ポインタ）に変わります。
3. マウスの左ボタンをクリックしたまま、図表内の別の場所にテキストブロックをドラッグします。
4. マウスボタンを離します。テキストが新しい場所に配置されます。

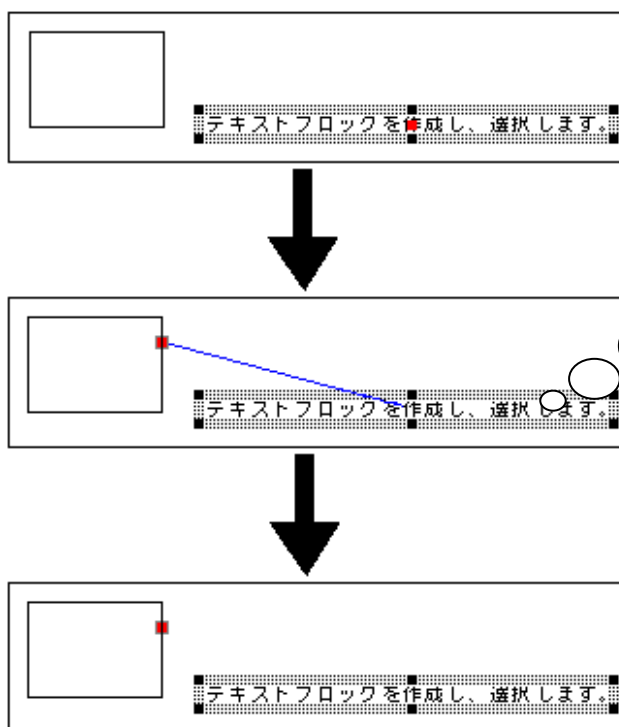
コールアウト線

テキストブロックには、「コールアウト線」を使って図形や接続線へのアンカーを設定することができます。図形または線を移動すると、テキストも一緒に移動し、図形または線との相対的な位置関係を保ちます。

(1) 図形にテキストを添付する

図形にテキストブロックを添付するには、以下の手順で操作します。

1. テキストブロックを作成します。
2. テキスト領域にポインタを置き、クリックします。ブロック中央に赤い点が表示されます。
3. 赤い点にマウスポインタを合わせ左クリックし、押したままテキストを添付したい図形や線までマウスポインタを移動します。（線がテキストブロックから引き出された様になります。）



通常は図や線とテキストブロックを繋ぐ線は非表示になっていますが、テキストブロック選択時にどこに吸着しているか赤い点でわかります。

図形や線を移動すると、テキストブロックも、添付した時の相対位置を保持した状態で移動します。

(2) 線にテキストを添付する

前ページの「(1) 図形にテキストを添付する」と同じ操作で、接続線にテキスト領域を添付することができます。また、テキストを配置する前に添付したい接続線が決まっている場合は、「ツールボックス」ツールバーの「テキストツール」(大文字の「A」)をクリックし、テキスト挿入(Iビーム)ポインタ「|」で接続線上をクリックしてから入力、確定すると、接続線に添付されたテキストを配置することができます。

(3) コールアウト線の書式を設定する

図形または線にテキストを添付する時に使うコールアウト線の書式を設定するには、以下の手順で操作します。

1. 「書式」メニューの「コールアウトの線」を選択します。

非表示のテキスト線を表示する

初期設定では、テキストブロックの枠線と接続線は表示されません。線の書式を変えずに、すばやく表示、または非表示にするには、以下の操作を行います。

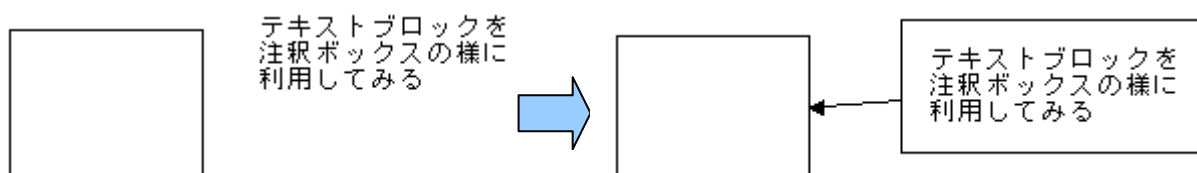
1. 「表示」メニューの「非表示の線」を選択します。
メニュー項目の横にあるボタンがされた状態になり、非表示の枠や線が表示されていることを示します。
このメニュー項目を切り替えて、項目を表示したり、非表示にすることができます。



テキストブロックの書式を設定する

テキストブロックの書式は、図形テキストの書式を設定するのと同じような方法で設定できます。

非表示のテキスト線を表示した場合は、テキストと添付している図形との関係を見せてくれるだけですが、書式を変更して、線や、テキストの枠線の色を表示(色をなしから黒へ変更など)することにより、ちょっとした注釈図形の様に利用することも可能です。



メモの挿入

アクティビティ毎にメモを作成し、表示することができます。

アクティビティにメモを入力するには、以下の手順で操作します。

1. メモを入力したい図形を選択します。
2. 「表示」メニューの中の「メモ」をクリックして、「メモ」ダイアログボックスを開き、その中にメモを入力します。（「プロパティ」ダイアログボックスの「全般」タブの「メモ」ボタンからも同じ画面が出ます）
もしくはF6（ファンクションキーの6）を押しても「メモ」ダイアログボックスを開くことができます。

メモがあるとうすぐわかるよう、メモアイコンを付けています。このアイコンは別のアイコンに変更することも可能です。

メモはプロセス作成者から閲覧者へのメッセージを記入してもまたは自分自身の覚え書きとしてお使い頂いても良く、大変便利にお使い頂くことができる機能です。

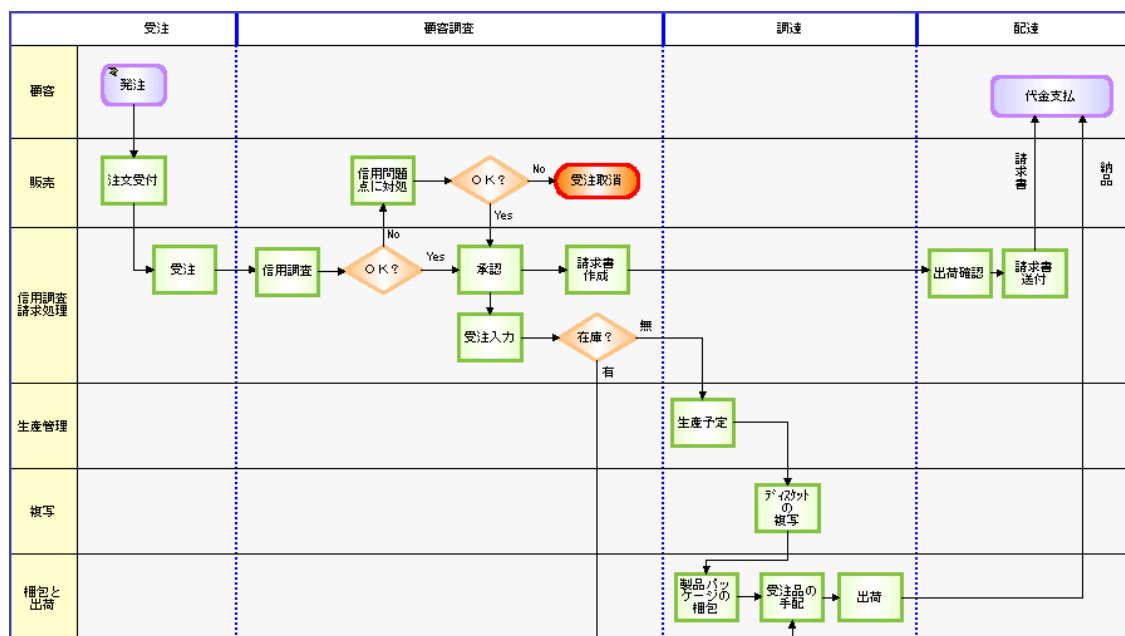
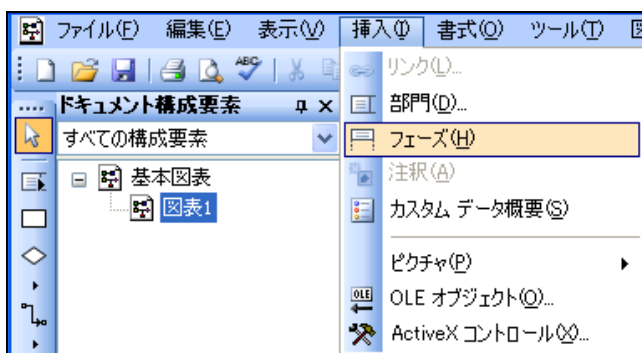
またメモツールチップの機能がオンになっていれば、メモが追加された図形の上にマウスポインタを置くだけで、メモの内容がポップアップするようになります。

メモツールチップ機能がオンであれば内容がポップします。

3.9 フェーズ

部門を利用している時に限り、部門の区切りと垂直に交わる線をフェーズとして引くことができます。プロセスの段階や区分を表すのに便利に利用できます。

1. 「挿入」メニューの中の「フェーズ」を選択します。
部門の枠に垂直な線（まだグレーで確定されていない線）が表示されます。
2. フェーズラインを引きたい場所までマウスポインタを移動して、OK ならばクリックして線を確定します。
3. 「フェーズ」領域をクリックして「フェーズ名」を変更します。
4. 複数のフェーズを挿入したい場合には、上記の操作を繰り返します。

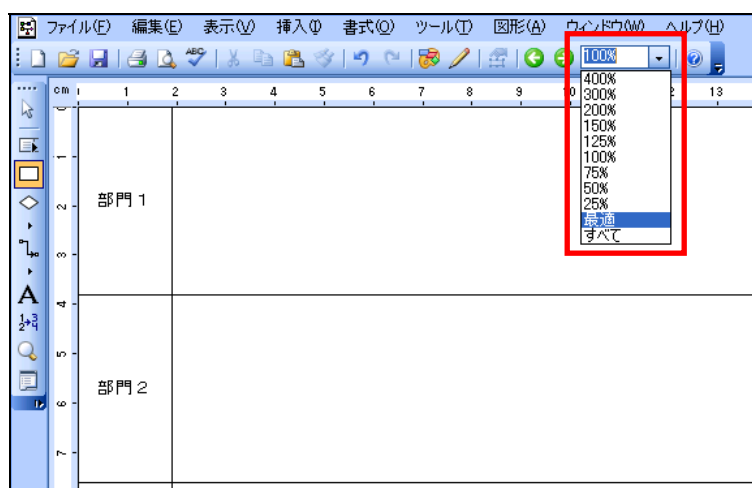


3.10 表示倍率の変更

図表画面の表示は拡大／縮小することができます。表示のパーセント値を変更しても、印刷される図表のサイズは変わりません。印刷サイズの変更は、「ファイル」メニューの「ページ設定」で行います。

ズームコントロール

「ズームコントロール」ドロップダウンリストから、表示のパーセント値または「最適」「すべて」を選択すると、表示倍率を変更することができます。



(1) 倍率を指定

表示倍率は 5%～1600%の間で任意に設定できます。

「ズームコントロール」ドロップダウンリストで倍率を選択するか、任意の値を入力して「Enter」キーを押します。拡大（または縮小）表示したいオブジェクトがある場合、オブジェクトを選択してから上記の操作を行なうと、選択したオブジェクトを中心に指定した倍率で表示されます。

(2) 「最適」

オブジェクトを選択し、「ズームコントロール」ドロップダウンリストから「最適」を選択すると、選択したオブジェクトが画面中央に 100%の倍率で表示されます。100%の表示倍率では画面に収まらない場合は、自動的にスケールされます。

オブジェクトを選択せずに「最適」の操作をすると、図表全体が画面に収まるように表示されます。

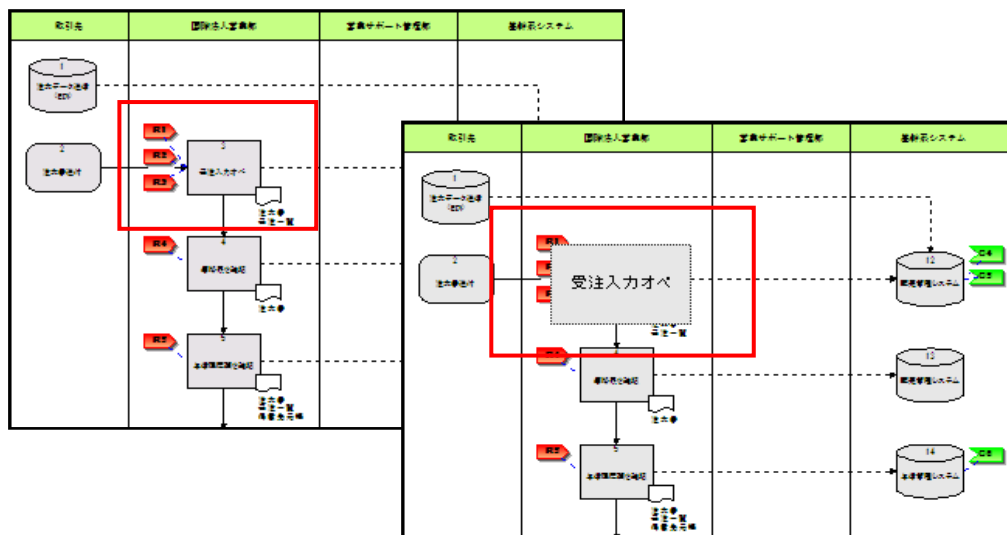
(3) 「すべて」

「ズームコントロール」ドロップダウンリストから「すべて」を選択すると、図表全体が画面に収まるように表示されます。「すべて」の操作は、オブジェクトが選択されていても選択されていなくても、表示結果は同じです。

ズーム時の入力

表示倍率を小さく指定して表示している時は、入力されているテキストも小さく表示されます。

図形などを選択してテキストの編集を開始すると、入力フィールドが拡大して表示され、入力を補助します。表示倍率が50%以下のときに有効です。



クイックズーム

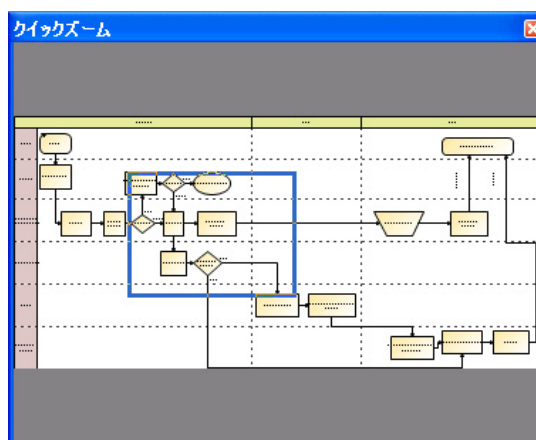
クイックズームウィンドウを使用して、図表の表示方法を変更することができます。パン機能（表示位置の左右・上下への移動）で図表のさまざまな部分を表示したり、ズームインビュー（青色の枠）で図表を拡大または縮小表示できます。

クイックズームウィンドウは、「表示」メニューの「クイックズーム」を選択して表示します。

ズームインビューを変更するには、クイックズームウィンドウ内で、虫眼鏡のマウスポインタをクリックアンドドラッグして青色の枠で範囲指定します。枠のサイズによって拡大する範囲が決まります。

図表をパンするには、青色の枠をクリックし、新しい場所までドラッグするか、表示したい位置で虫眼鏡のマウスポインタをクリックします。

青色の枠を再描画してズームインビューを変更するまで、表示倍率は一定に保たれます。



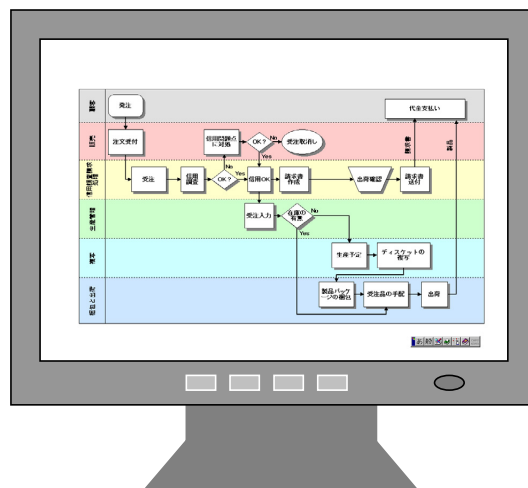
全画面表示

図表を画面全体に表示し、図表に注釈線を引くことができます。(下図イメージ画)

プレゼンテーションなどで、プロセス図だけを強調してみせたい時に便利な機能です。「表示」メニューの「全画面表示」を選択すると図表が画面全体に表示されます。

全画面表示では以下の機能が準備されています。

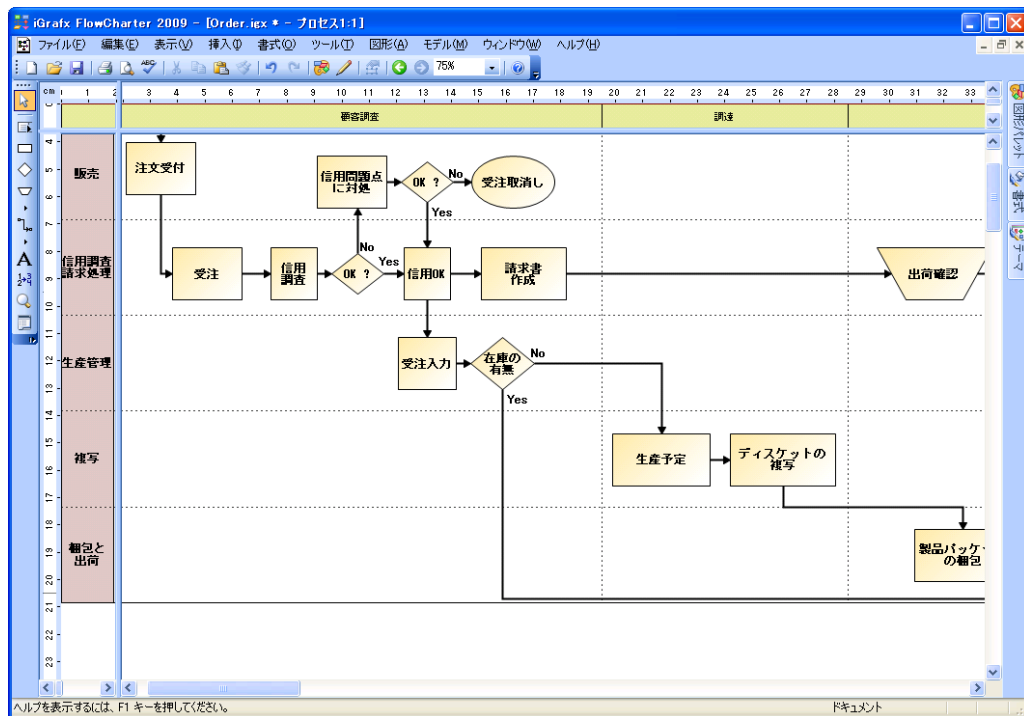
1. 画面上にある手の形をしたマウスポインタで、左クリックしながら赤い線が引けます。
2. 右クリックしながら緑の線が引けます。
3. 左右両方クリックしながら黄色の線が引けます。
4. 図表に加えた注釈を削除するには、「Delete」キー、または「Backspace」キーを押します。
5. 次の図表ウィンドウに移動するには、「Tab」キーまたは「Page Down」キーを押します。
6. 前の図表ウィンドウに戻るには、「Shift」+「Tab」キー、または「Page Up」キーを押します。
7. 元の画面に戻るには「Esc」キーを押します。



iGrafx FlowCharter の機能では全画面表示で引いた線は残せませんが、Windows 標準の Print Screen の機能をご利用頂き、クリップボードに全画面表示時の画像をキャプチャーしてご利用頂くことができます。

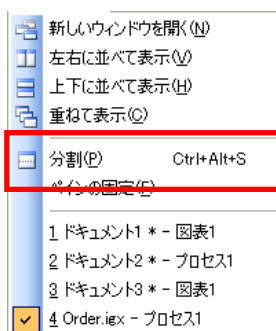
プロセスウィンドウを分割する

プロセスウィンドウは、分割することができます。ウィンドウを分割すると、大きな図表を扱っている場合でも図表の右端と左端を同時に確認することができ、図形を配置しやすくなります。また、分割されたウィンドウの一つを部門の幅で固定すれば、常に画面内に部門を表示することもできます。



プロセスウィンドウを分割するには、以下の操作を行います。

1. 「ウィンドウ」メニューから「分割」を選択します。

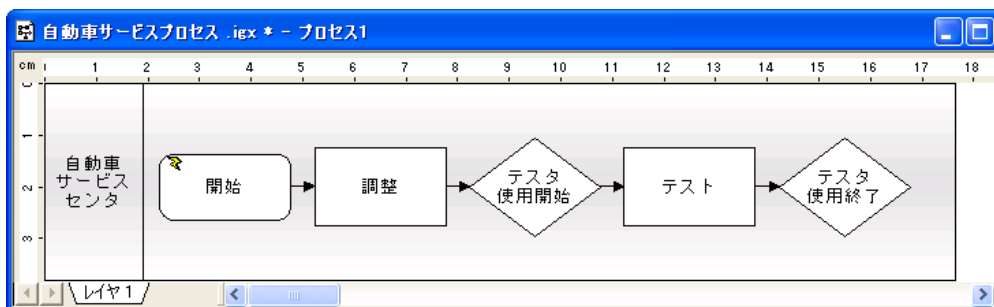


2. ウィンドウを縦横に分割するグレーの線が表示されます。部門とフェーズが交差している場所までマウスポインタを移動し、クリックして決定します。(マウスポインタの場所が縦横の線の交点になります)
画面を元に戻したい時は、分割している線をクリックし、右や左 (あるいは上か下) の端へドラッグし、ドロップすると分割が解消されます。または、分割バーをダブルクリックします。

表形式の表示・入力

図表は、表形式で表示することができます。通常表示している図形が前面に表示されている標準形式に対して、表形式があります。プロパティの設定内容を一覧で表示することができるので、主にチェックに使われますが、表形式でもプロセス図を作成することができます。

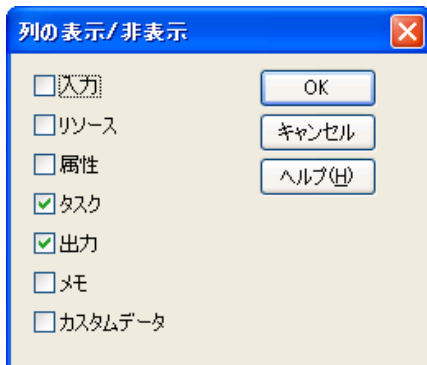
(標準形式で表示)



(表形式で表示)

A	自動車 サービスセンタ	アクティビティ	固定費用	件数
A1	1	開始		
A2	2	調整	BetweenNo	分
A3	3	テスト使用開始		秒
A4	4	テスト		8分
A5	5	テスト使用終了		秒

この二つの形式を切り替えるには、「表示」メニューから「標準」あるいは「表」を選択します。



表形式の場合、表示する内容が多くてスクロールするのが大変なので、表示したい列を選択することができます。画面上で右クリックをし、「列」を選択して「列の表示/非表示」ダイアログボックスを表示します。チェックを付けた内容だけが、表示されます。

表形式で図形を追加したい時は、図形を挿入したい場所をクリックして選択し、「Ctrl」キーを押しながら「Enter」キーを押すと、新しい図形が挿入されます。

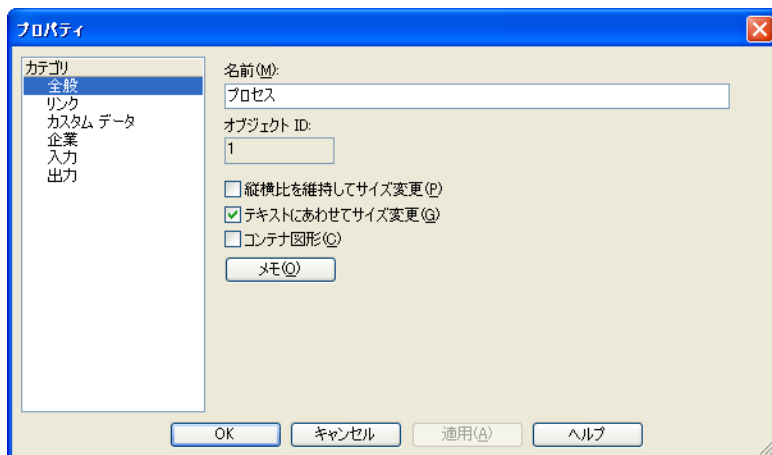
追加した図形のタイトルの変更や、各プロパティの変更を、表形式でも行うことができます。

3.11 高度な図表機能

iGrafX FlowCharter は、図表をカスタマイズするための高度な図表機能を備えています。多くは図形のプロパティから設定できます。

図形の名前

図形は名前で管理をすることができます。プロパティの「全般」タブにある「名前」に、図形の意味を表す名前を入力しておくことにより、選択機能（P41）で、名前を利用して選択するなど利用することができます。



図形へリンクを挿入する

図形に、他の図表や、外部ファイル、Web ページへのリンクを張ることができます。図形をダブルクリックしたり、右クリックで出るメニューの中から選択することによって、リンクされたファイルを簡単に開くことができます。業務の工程の中で必要とする手順書や提出書類、その他資料をリンクしておけば、格納している場所を知らなくても、リンクを張った図形から簡単に開くことができ、電子マニュアルのような動きをさせることができます。

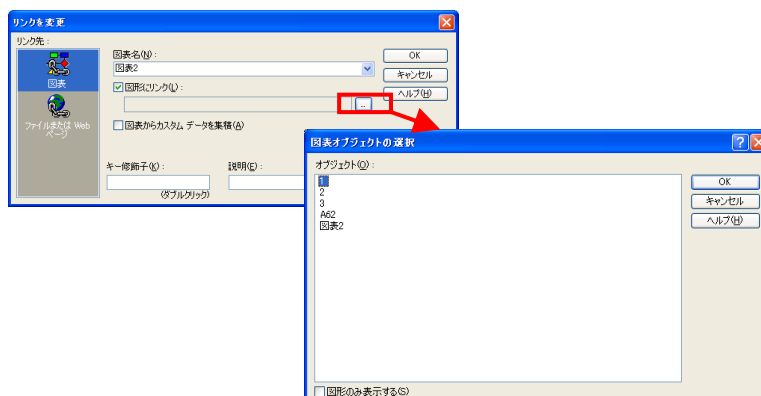
1. リンクを追加したい図形を選択し、「挿入」メニューから「リンク」を選択します。



2. また、以下の手順でも「リンクを追加」ダイアログボックスを開くことができます。
図形を右クリックし、「プロパティの表示」を選択し、「プロパティ」ダイアログボックスを表示します。
「プロパティ」ダイアログボックスの「リンク」ページにある「新規作成」ボタンをクリックします。

(1) 図表へリンク

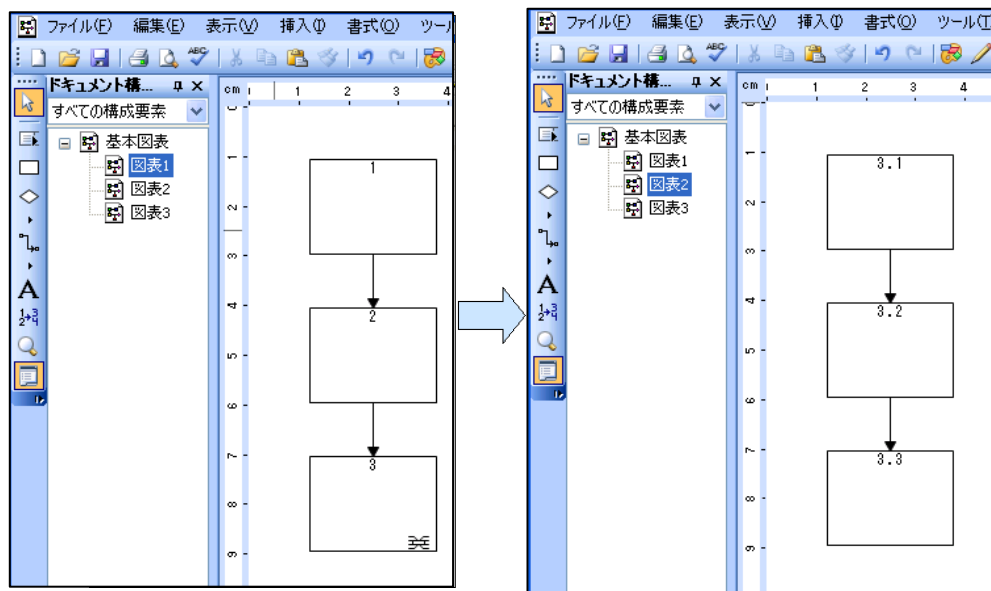
1. 同じファイル内の別の図表へリンクする場合は、リンク先で「図表」ボタンをクリックし、リンクしたい図表名をドロップダウンリストから選択します。
2. 対象の図表上にある図形まで指定したい場合は、リストの下にある「図形にリンク」をチェックし、対象の図形を選択します。



「図形オブジェクトの選択」ダイアログボックスから、リンク対象の図形の図形番号を指定して選択します。
 (※上図の A62 というのはフロー図形以外のグラフィックを指定する番号です)

3. リンクされた図表の図形番号 (P66) の表記が、初期設定ではリンク元図形の図形番号を頭につけた番号に変わります。

例) 下記の様な図表の構成で、図表 1 の図形番号 3 の図形から、図表 2 へリンクを張った場合

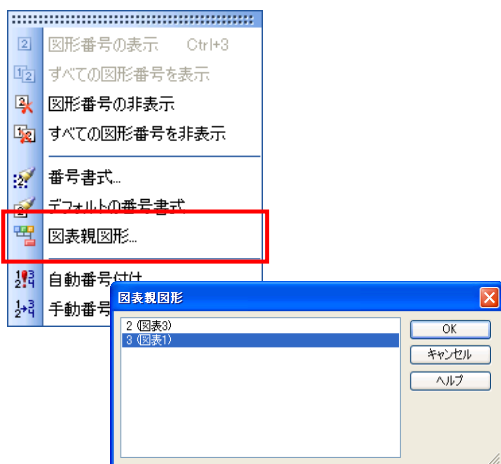


図表 2 の図形の図形番号を表示すると、図表 2 へリンクしている図形の図形番号 3 が頭に付いています。

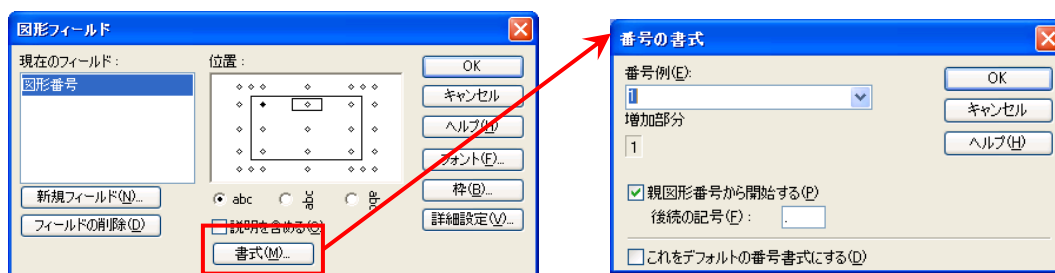
※ 図表の番号や名前ではなく、図形番号であることに注意して下さい。

4. 複数の図からリンクされている場合、「ツールボックス」ツールバーの「図形番号」 - 「図表親図形」で親を変更することができます。

図表 1 (図形番号 3) と図表 3 (図形番号 2) からリンクされている場合、そのどちらかを親に設定できます。



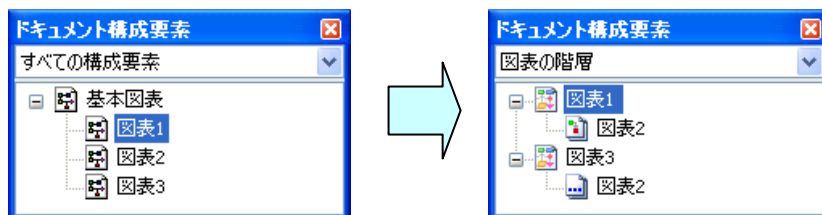
5. リンク先図表で親図形の図形番号が出ない表現に変更したい場合は、図形番号の番号書式で変更します。



変更したい図形を選択し、「ツールボックス」ツールバーの「図形番号」 - 「番号書式」を選択し、「図形フィールド」ダイアログボックスの中の「書式」ボタンをクリックし、「番号の書式」ダイアログボックスを開きます。

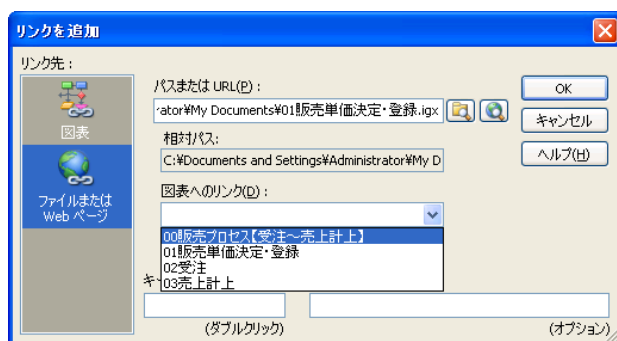
「親図形番号から開始する」にチェックが入っている状態が初期状態です。リンク先図表で親図形の図形番号が出ない表現に変更する場合は、このチェックを外します。選択されている図形の番号書式のみが変更されますので、この設定をデフォルトの番号書式にしたい場合は、「これをデフォルトの番号書式にする」にチェックを入れます。変更以降に追加した図形の書式に設定内容が反映されます。

エクスプローラウィンドウの上部にあるドロップダウンリストを、「すべての構成要素」から「図表の階層」へ変更すると図表間の階層関係がわかりやすい形で表現されますので、リンク関係をチェックする際にご利用下さい。



(2) ファイルまたは Web ページへリンク

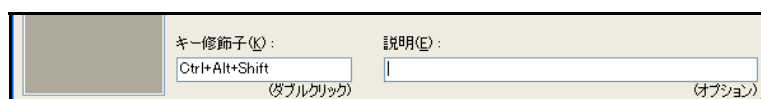
1. 「ファイルまたは Web ページ」を選択し、リンクしたいファイルまでのパスを入力します。(参照ボタンから入力できます)
2. iGrafx ファイルを指定した場合は、ファイル内の図表を指定してリンクすることができます。



Excel ファイルの場合は「名前つき範囲」、Word ファイルは「ブックマーク」、PowerPoint ファイルは「スライド番号」、PDF ファイルは「ページ番号」といった具合に、指定するファイルの形式に合わせ、さらに詳細にリンクを張る対象を絞り込んだ指定ができます。

(3) キー修飾子と説明

1. 複数のリンクを一つの図形に追加する場合は、キー修飾子を入れて区別させることができます。入力可能なキーは Ctrl (コントロール)、Shift (シフト)、Alt (オルト) の 3 種類です。Ctrl+Shift の様に組み合わせることもできます。SOX+用図形以外は、キー修飾子に何も入れないでリンクを作成すると、ダブルクリックで設定されたファイルが開きます。



ダブルクリックで起動する動作の優先順位は以下の通りです。

[SOX+ダイアログが開く] > [キーの修飾子が設定されていないリンクが開く] > [プロパティが開く]

※SOX+図形でプロパティを開きたい時は、右クリックメニューの「プロパティの表示」から開きます。

同様にリンクも右クリックメニューの一番下に表示されますので、選択して開くことができます。

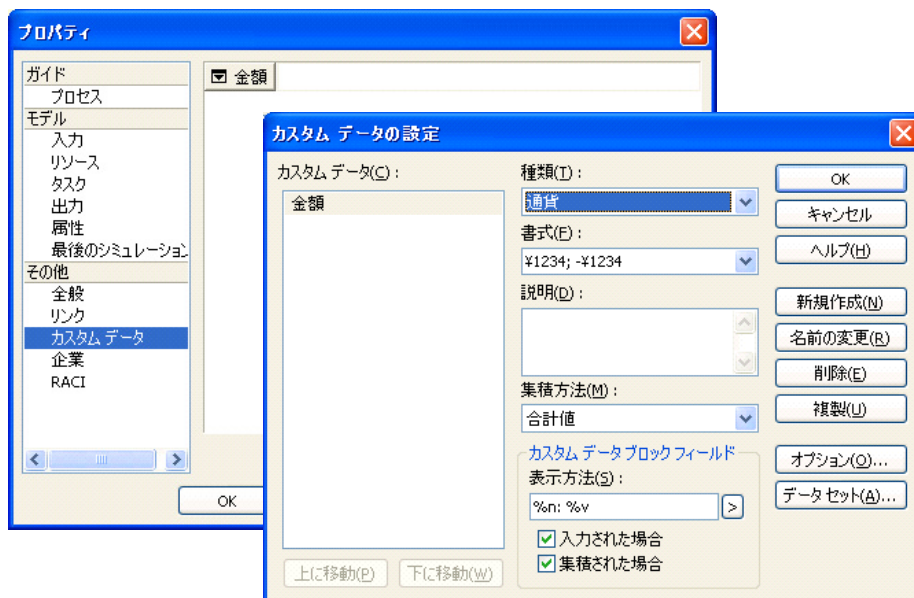
2. 「説明」にリンクしたファイルのタイトルなどを記述します。ここで記述したタイトルがアクティビティの右クリックメニューの最下段に、リンクしているファイルの名前として表示されます。
3. メモと同様に、ファイルをリンクすると、図形にリンクを示すアイコンが付けられます。



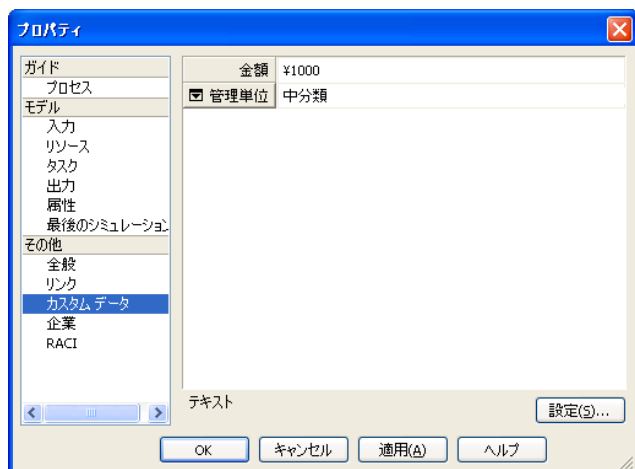
※アイコンは「図表の書式設定」の「インジケータ」で変更することができます。(P78)

カスタムデータタブ：データ管理フィールドを作成する

iGrafx FlowCharter ではメモに情報を格納することができますが、メモに保存されているデータは、データを管理するには向いていません。カスタムデータページにある、カスタムフィールドを利用すると、すべての図形に共通の情報フィールドを作成し、データを管理することができます。



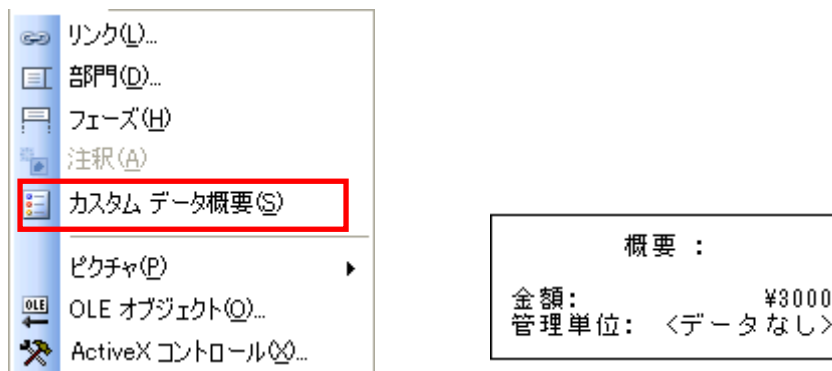
1. 「ツール」メニューの「カスタムデータの設定」を選択して、カスタムデータの設定画面を表示します。
2. 「新規作成」ボタンをクリックし、「カスタムデータ1」に管理したいデータ名、「種類」に格納したいデータの種類（テキスト、期間、日付、通貨、%、数値、距離、リスト）、「書式」、「集積方法」（カスタムフィールドに表示するデータの集積方法）などを定義します。
3. 「OK」ボタンをクリックすると、図形に対してフィールドが作成されます。このフィールドはすべての図形に作られますので、全部に共通の書式でデータを入力することが可能になります。



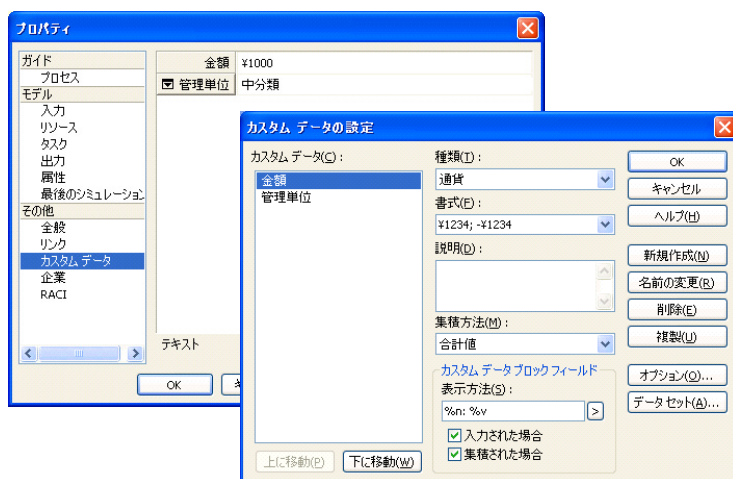
(1) 凡例の追加

カスタムフィールドに入力したデータについて、集積方法に基づいて計算されたデータを凡例として、画面上に追加することができます。

「挿入」メニューの「カスタムデータ概要」を選択します。



例えば前ページの例にある金額というデータフィールドは、集積方法が合計値だったので、すべての図形の金額フィールドが合計された値が表示されます。種類がテキストなど、集計できない単位のデータは<データなし>と表記されます。



(2) カスタムデータフィールドの一覧

カスタムフィールドにデータを登録しておくことによって、データの一覧性が高まります。表形式 (P59) にして表示することによって、カスタムデータフィールドの内容も一覧で参照することができます。

A	部門 1	完了時	メモ			金額	管理単位
A1	1 開始						
A2	2 ステップ A	決定	50	No	分割割合は未定	¥300	大分類
			50	Yes			
A3	3 ステップ B					¥1000	中分類
A4	5 ステップ C					¥1700	小分類

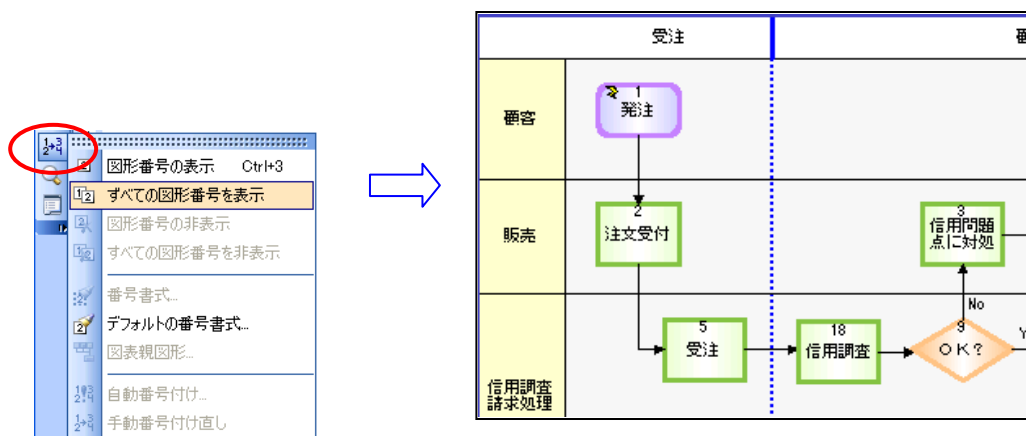
図形番号の利用

図形番号は、図形を配置した順序に従い1から順番に割り当てられるようになっています。初期設定では図形番号は表示されません。印刷した大きなプロセス図などを複数の人で見ている時に、図形番号を利用すれば、沢山あるアクティビティの中から必ず同じアクティビティを参照することができます。また SOX+図形では、図形番号を利用して業務詳細番号の振りなおし（リナンバリング）が行われます。

(1) 図形番号の表示

図形番号を表示するには、以下の手順で操作します。

1. 「ツールボックス」ツールバーの「図形番号」 - 「すべての図形番号を表示」を選択します。

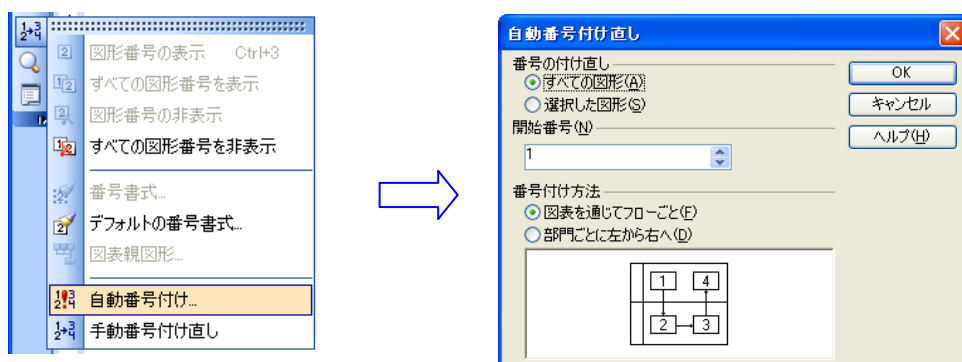


(2) 図形番号を付け替える (自動で付け替え)

途中で図形が削除されても、一度つけられた番号は変更されません。(自動的に番号は付け替えられません。)

図形番号を付け替えたい時には、以下の操作が必要になります。

1. 「ツールボックス」ツールバーの「図形番号」 - 「自動番号付け」を選択します。
2. 「番号の付け直し」の対象、「開始番号」、「番号付け方法」を選択して、「OK」ボタンをクリックします。

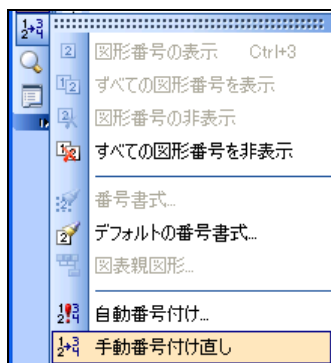


3. 設定した内容にしたがって、図形番号が付与されます。

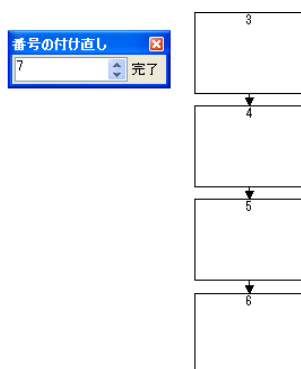
(3) 図形番号を付け替える (手動番号付け直し)

任意の図形に意図した番号を付けるには、以下の操作を行います。

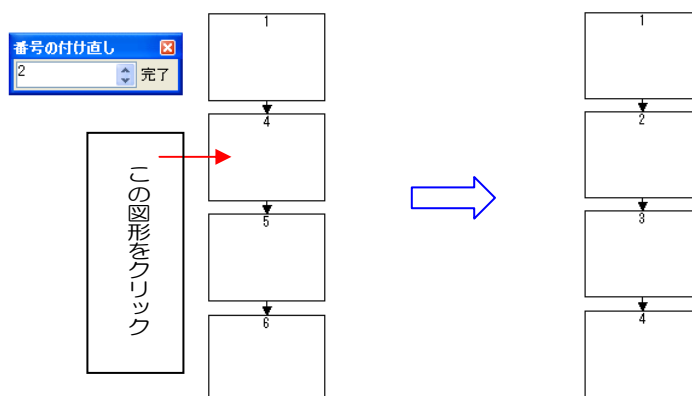
1. 「ツールボックス」ツールバーの「図形番号」 - 「手動番号付け直し」を選択します。



2. 「番号の付け直し」ダイアログボックスが表示され、その中には、現在開いている図表に存在する「一番大きな番号+1」が表示されます。



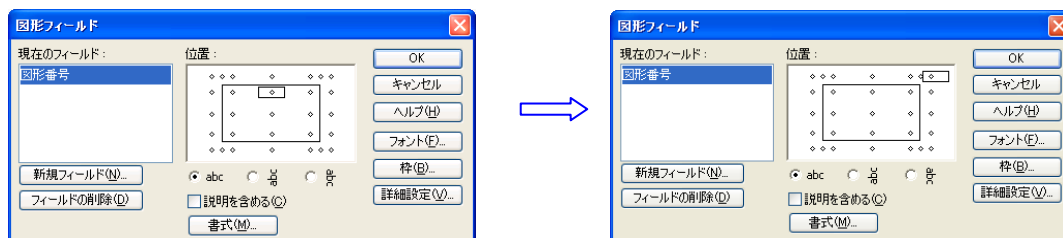
3. 「番号の付け直し」ダイアログボックスに、付け直したい番号を入力します。
4. 「番号の付け直し」ダイアログボックスに表示されている番号を付与したい図形をクリックします。



(4) 図形番号の表示位置のカスタマイズ

図形番号は、初期設定では図形の上部中央に表示されますが、表示位置をカスタマイズすることができます。

1. 図形番号の表示位置を変更したい図形を選択して、「ツールボックス」ツールバーの「図形番号」 - 「番号書式」を選択します。
または、対象の図形を選択して右クリックで「フィールド」を選択します。
2. 図形フィールドダイアログボックスが表示されます。番号を表示したい位置をクリックします。



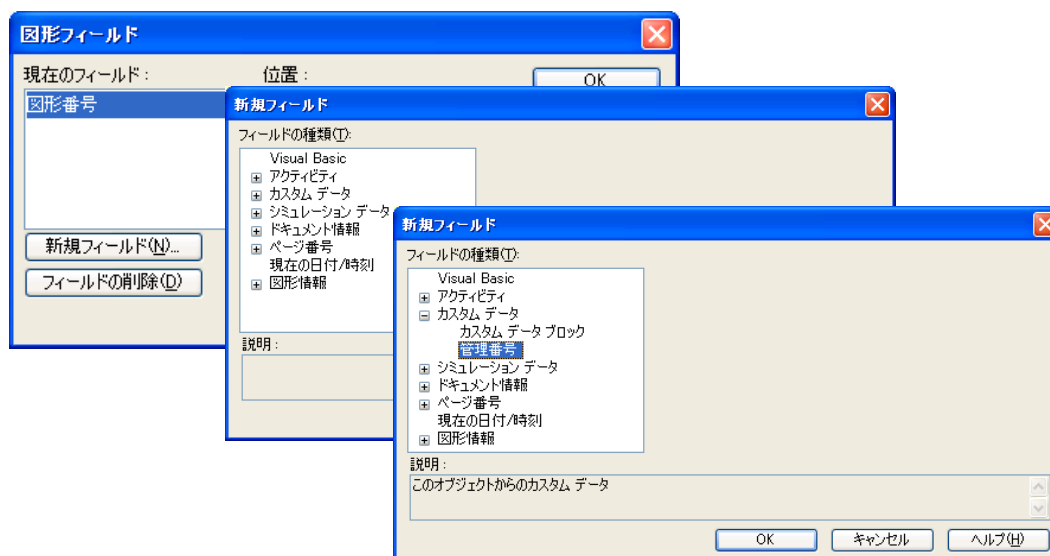
※ この図形フィールドでは、表示位置のほかに、「フォント」や「書式設定」も可能です。

新しい図形フィールドの追加

図形番号の機能を使って、アクティビティの様々なプロパティデータ（内部設定データ）を画面に表示することができます。

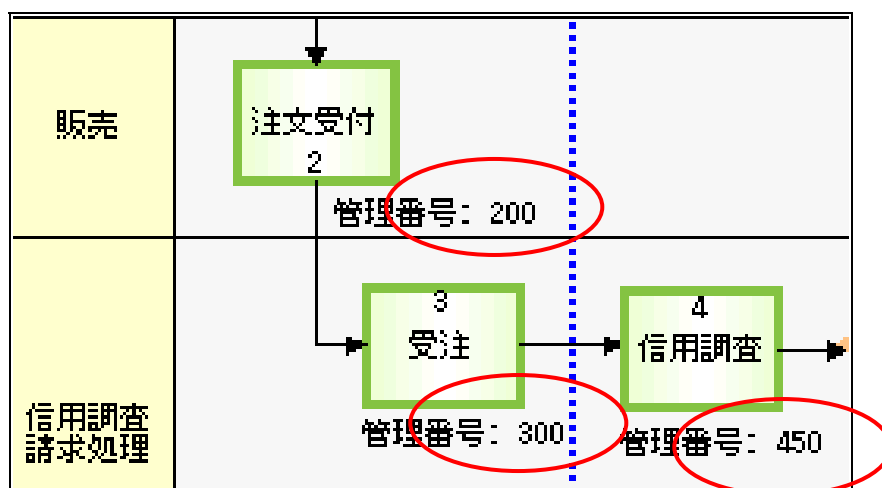
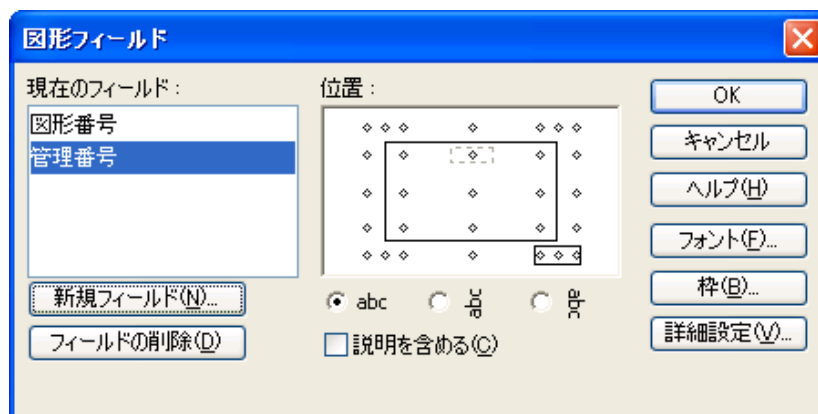
プロパティデータは表示が標準形式の場合、各アクティビティのプロパティダイアログボックスを表示しないと中身を確認することができませんが、次の操作をすることによって画面上に表示させることができます。

1. すべての図形を選択し、「ツールボックス」ツールバーの「図形番号」の中から「番号書式」を選択します。
2. 「新規フィールド」ボタンをクリックして、「新規フィールド」ダイアログボックスを表示します。
3. 画面上に表示したいプロパティデータをフィールドの種類の中から選択し、「OK」ボタンをクリックします。



4. 図形フィールドダイアログボックス（最初の画面）に戻ったら、表示する位置を決めて、「OK」ボタンをクリックします。

選択した内容が、設定した位置に表示されます。



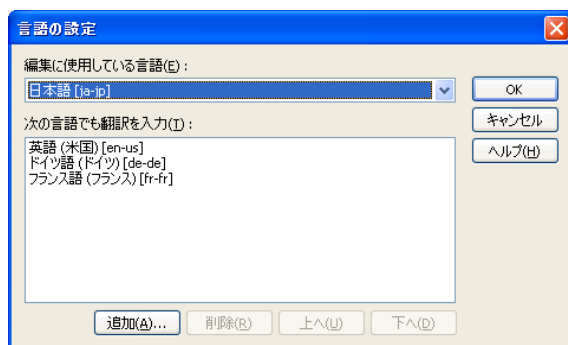
このように新しい図形フィールドの追加機能を使うと、内部に定義されているデータを図表に表示させることができますので、印刷用の資料を作成する際などに、便利にご利用頂くことができます。

良く利用される項目としては、メモやカスタムデータあるいはシミュレーションデータなどがあげられます。

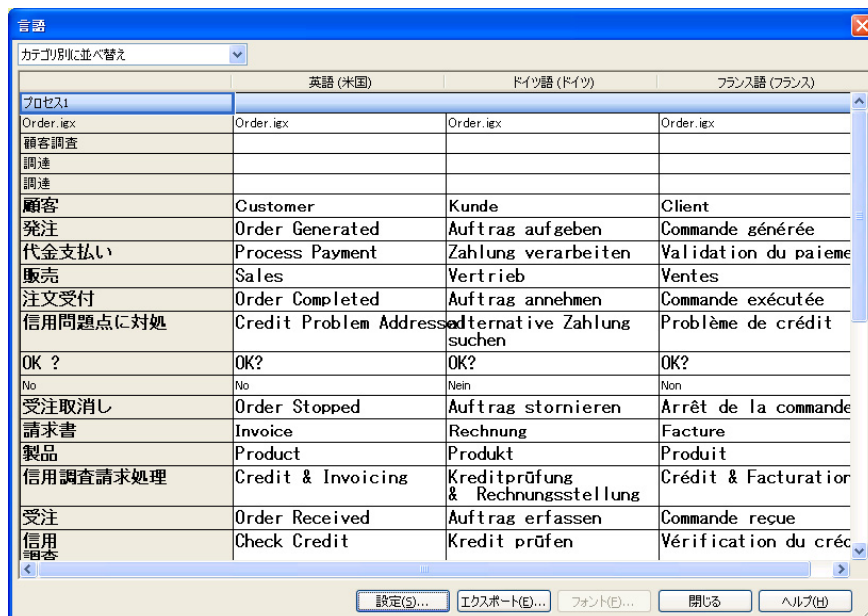
言語の設定

図表内の各オブジェクトに他の言語を設定し、表示させることができます。他の言語を設定しておくことによって、Web形式で保存した図表を他の言語で表示することができ、グローバルな環境で図表や構成要素を共有することができます。※自動的に翻訳はされません。

1. 「ファイル」メニューの「言語」を選択して「言語の設定」ダイアログボックスを表示します。
2. 「追加」ボタンをクリックして、追加したい言語を選択し、「OK」ボタンをクリックします。（複数追加したい場合は、追加が完了してから「OK」ボタンをクリックします。）



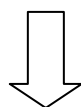
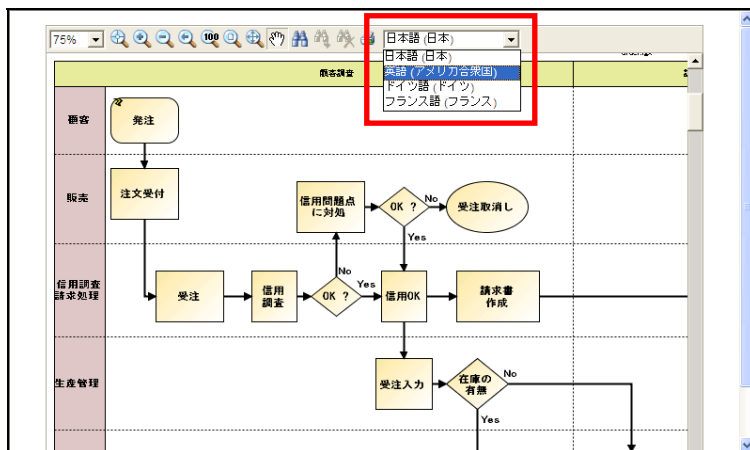
3. 「言語」ダイアログボックスに図表内にあるオブジェクトが表示されます。追加した言語の列に各オブジェクトの名称などを入力します。



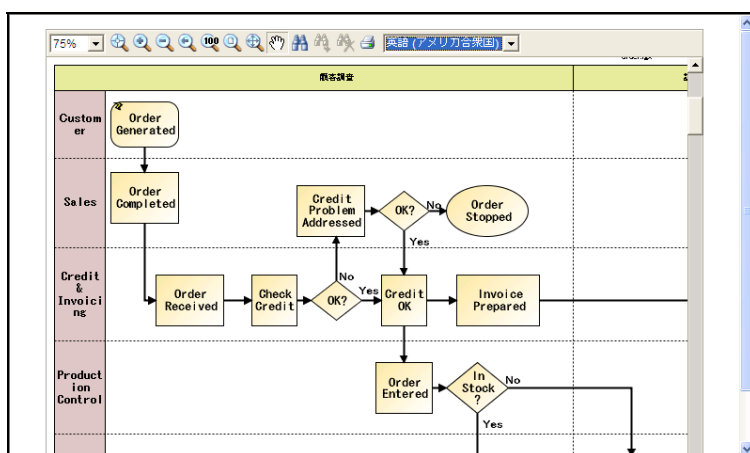
※入力欄を選択すると、該当するオブジェクトが図表上で選択状態になります。元の言語の列（左の列）にあるセル上にカーソルを移動すると、オブジェクトの種類がポップアップして表示されます。（フェーズテキスト、部門テキスト、グラフィックまたはオブジェクトテキスト、など）

4. 入力が終わったら、「閉じる」ボタンをクリックします。

Web 形式で保存すると、言語のドロップダウンリストが表示され、言語を切り替えることができます。
 (Web 形式の保存については P86 をご参照下さい。)



ドロップダウンリストから「英語」を選択



レイヤ機能

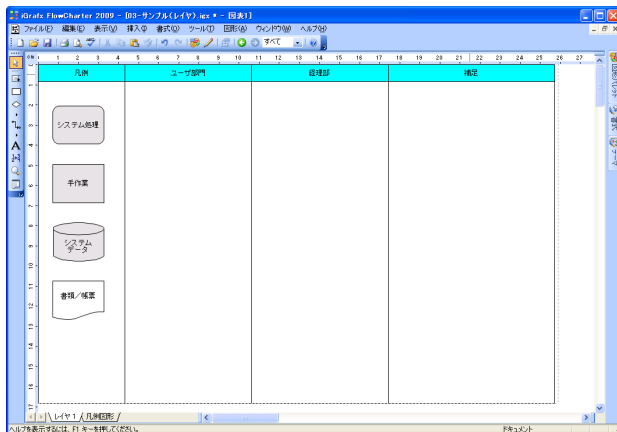
図表はレイヤを使って管理できます。特定のオブジェクトを1つのレイヤにまとめ、別のレイヤにその他のオブジェクトを配置するといった操作も可能です。レイヤは、透明な OHP フィルムを重ねるのと同じように考えることができます。

レイヤを使って次の操作を行うことができます。

- 複雑な図表を作成する時に、レイヤを使ってオブジェクトをカテゴリ別に分類して管理する
- 特定のオブジェクトを非表示にした状態で他のオブジェクトを画面に表示および印刷する
- オブジェクトの選択時や変更時の操作性を向上する。また誤って変更してしまうことを事前に防ぐ
- 背景に画像を置いてその上にフローを作成する時に、背景だけ別レイヤに置く

※レイヤ利用事例

複数の業務フローを作成するときに、共通で利用できる凡例図形を別レイヤに作成した事例です。「凡例図表」レイヤをロックしておくことにより、フローを作成する場合に触れないようにして利用しています。




(1) レイヤの作成、管理

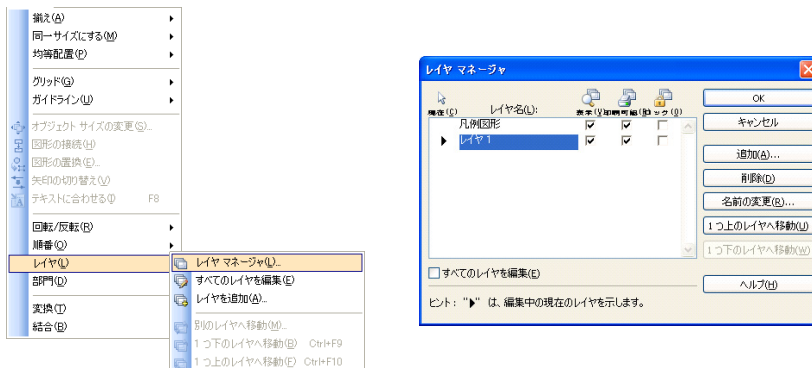
レイヤマネージャは、アクティブな図表に定義されたレイヤを一覧表示し、レイヤの管理、操作を行うことができます。また、レイヤの表示・非表示の切り替えや、印刷、ロックを設定することができます。

レイヤは、追加、削除、名前の変更、重ね順の変更などの操作を実行できます。これらの操作は選択したレイヤに適用することができます。

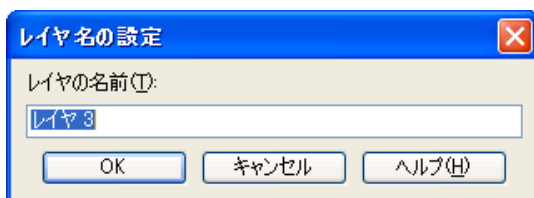
レイヤがロックされている場合、そのレイヤの表示・非表示の切り替えはできますが、変更、記録、および削除などの操作を行うことはできません。また、現在のレイヤをロックすることはできません。

レイヤを管理する（作成、名前の変更、重ね順の変更など）には、以下の手順で操作します。

- 「図形」メニューから「レイヤ」を選択し、「レイヤマネージャ」を選択します。
または、「描画」ツールバーの「レイヤマネージャ」ボタン  をクリックします。
「レイヤマネージャ」ダイアログボックスが開きます。



- レイヤを追加するには、「追加」ボタンをクリックします。「レイヤ名の設定」ダイアログボックスが開きます。
レイヤの名前を入力し、「OK」ボタンをクリックします。



レイヤの並び替え、削除、または名前の変更など、その他のレイヤ管理作業を行うことができます。レイヤの操作を終えたら、ダイアログボックスの「OK」ボタンをクリックします。

(2) レイヤを使う

図表を編集するときには、どのレイヤを編集するのかを指定する必要があります。一度に1つのレイヤ（現在のレイヤ）またはすべてのレイヤを編集できます。

新しいオブジェクトの作成や配置などは現在のレイヤに適用されます。以下のいずれかの方法で現在のレイヤを設定することができます。

◆ レイヤタブを使う

それぞれの図表ウィンドウの下部にはレイヤタブバーがあり、その図表に対して定義されたレイヤタブが表示されます。各タブにはレイヤの名前と重ね順が示されています。白いタブは現在のタブを意味します。レイヤを非表示、またはロックするとそのタブ上の名前が淡色表示になります。

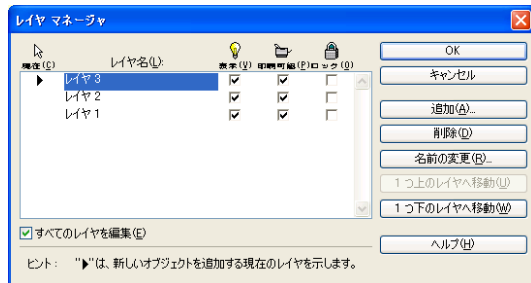


一度に表示しきれない数のタブがある場合はスクロール矢印が表示されます。

◆ レイヤマネージャを使う

レイヤマネージャを使って現在のレイヤを設定することができます。

現在のレイヤに設定するレイヤの「現在」欄をクリックし、「OK」ボタンをクリックします。



(3) オブジェクトを別のレイヤに移動する

オブジェクトは、簡単な操作で別のレイヤに移動することができます。オブジェクトは前後のレイヤ（1つ手前または後ろのレイヤ）や、任意のレイヤに移動することができます。

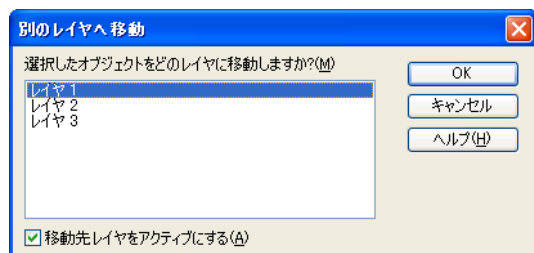
◆ 前後のレイヤ

別レイヤに移動するオブジェクトを選択します。「図形」メニューの「レイヤ」をクリックし「1つ下のレイヤへ移動」または、「1つ上のレイヤへ移動」をクリックします。

◆ 任意のレイヤ

オブジェクトを別のレイヤに移動するには「別レイヤへ移動」を使います。

別レイヤに移動するオブジェクトを選択します。「図形」メニューの「レイヤ」をクリックし「別レイヤへ移動」をクリックします。「別レイヤへ移動」ダイアログボックスが表示されますので、移動したいレイヤを選択して「OK」ボタンをクリックします。



(4) すべてのレイヤを編集する

現在のレイヤを切り替えずに、複数のレイヤにあるオブジェクトを選択して編集することができます。すべてのレイヤを一度に編集するには、「すべてのレイヤを編集」を使います。（新規に作成するオブジェクトは現在のレイヤに配置されます）

「図形」メニューの「レイヤ」をクリックし「すべてのレイヤを編集」をクリックします。または「レイヤマネージャ」の「すべてのレイヤの編集」チェックボックスをオンにします。

3.12 図表の書式設定

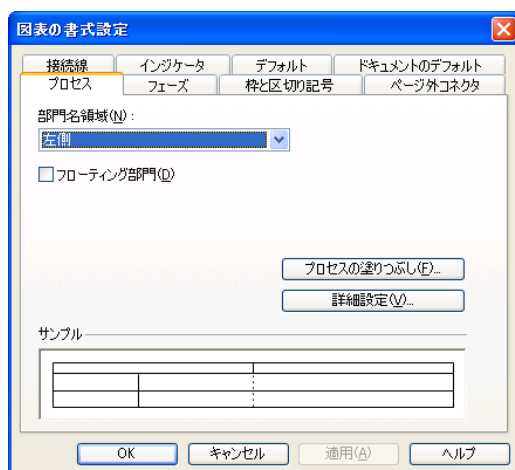
プロセス部門、部門の枠線や区切り記号、ページ外コネクタなど、さまざまな図表要素の書式を設定することができます。「書式」メニューの中から「図表」を選択して、図表の書式設定ダイアログボックスを表示すると7つの機能に分かれたタブがあります。

プロセス

図表全体にかかわる設定を行います。部門名の表示形式やプロセス領域の表示にかかわる設定、また部門の余白などの設定を行うことができます。

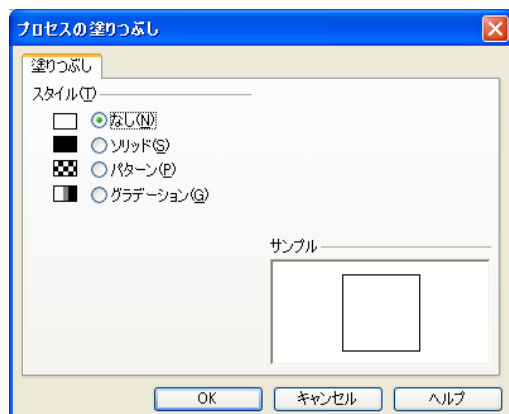
(1) 「部門名領域」

部門名を図表のどちら側へ表示するかを設定します。(部門を水平に追加していれば、左か右。部門を垂直に追加していれば、上か下) 両側に表示することもできます。



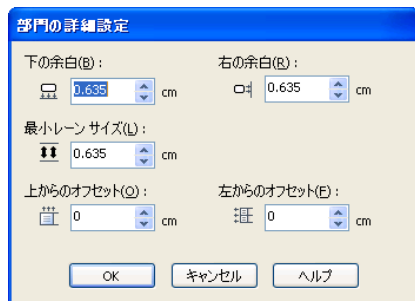
(2) 「プロセスの塗りつぶしのスタイル」

図表全体の塗りつぶしのスタイルを変更します。



(3) 「詳細設定」

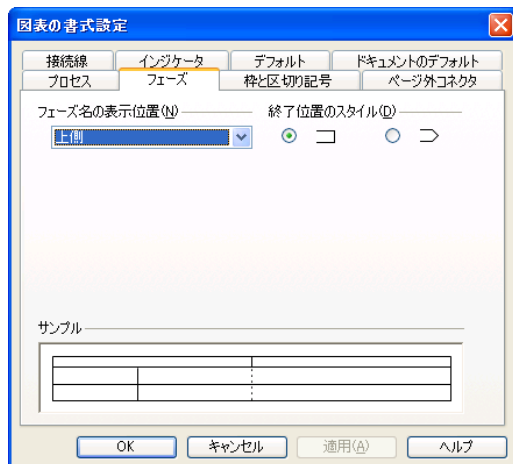
レーン（部門）の書式を変更します。



項目	説明
下の余白	図表の作成中、部門の幅が下側と右側に自動で拡張する機能があります。それは部門内の一番下のレーン、もしくは一番右のレーンに近い図形とレーンとの距離が設定されているために実現されています。この値を小さくすることによりコンパクトな図表を作成することができます。
右の余白	
最小レーンサイズ	部門の幅をそれ以上縮めたくない時に、最小値を設定します。
上からのオフセット	初期設定では印刷領域ぎりぎりから図表が配置されています。ここに設定した領域分、印刷領域の上部もしくは左部から空白領域が作成されます。
左からのオフセット	画面上部もしくは左部にできた空白領域にテキストや凡例などを配置することができます。

フェーズ

フェーズについての設定を変更します。

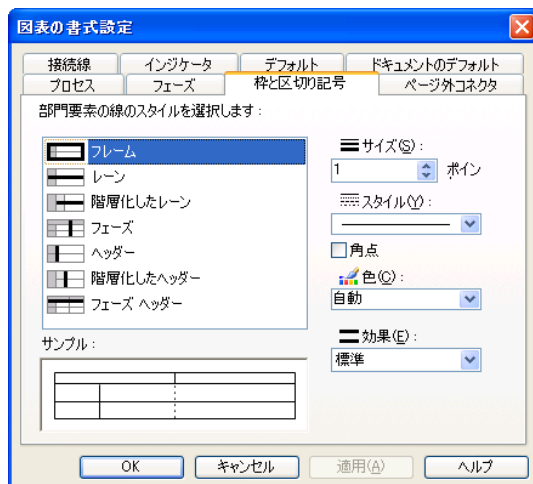


項目	説明
フェーズ名の表示位置	フェーズ名を図表のどちら側へ表示するかを変更します。(部門を水平に追加していれば、上か下。部門を垂直に追加していれば、右か左) 両側に表示することもできます。
終了位置のスタイル	フェーズの区切り部分のスタイルが直線なのか、屋根型に曲がるのかを選択します。

枠と区切り記号

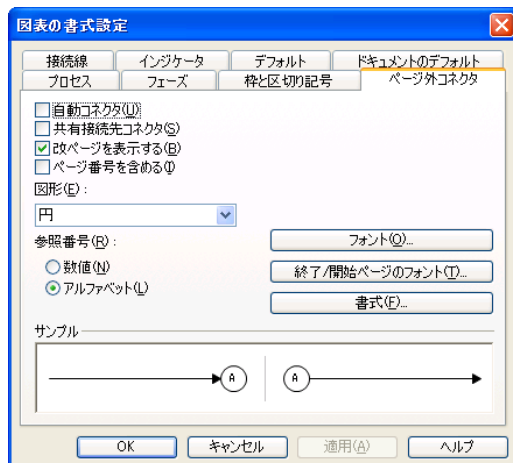
部門やフェーズを仕切る区切り線についての設定を変更します。

変更したい対象の線（フレーム、レーンなど）を選択し、それぞれに設定したいポイント、スタイル、色、効果を設定します。



ページ外コネクタ

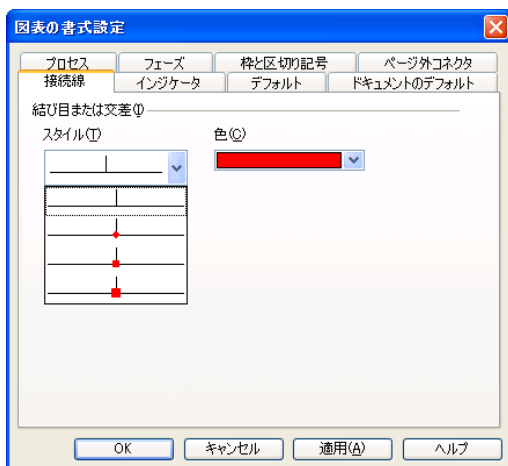
図表が複数枚になった時に、ページの切り替わりを超える接続線に自動的にコネクタを作成します。



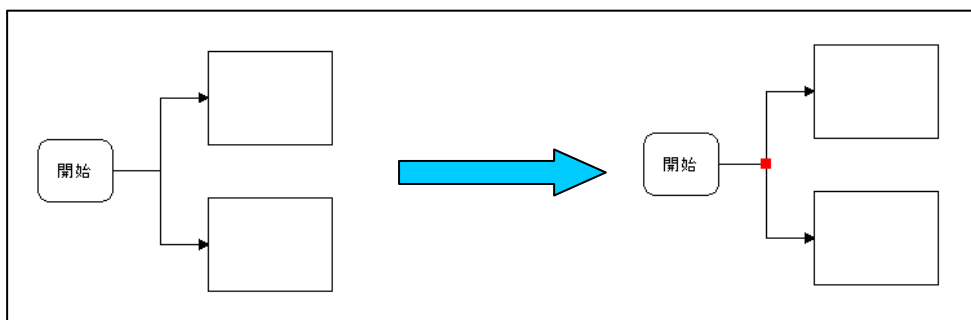
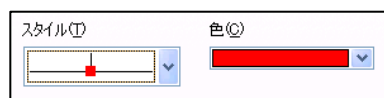
項目	説明
自動コネクタ	ページをまたがる接続線に対し、自動でコネクタを作成します。
共有接続先コネクタ	同じアクティビティに接続する接続線のコネクタを複数表示せず、一つにまとめて表示します。
改ページを表示する	改ページ線を表示します。
ページ番号を含める	どこへ、あるいはどこから繋がったコネクタなのか、ページ番号を含めて表示します。
参照番号	コネクタの参照番号の数値、アルファベットを切り替えます。

接続線

結び目または交差は、2本の接続線を同一の接続先につないだ時に発生します。同じ図形の同一ポイントに接続した場合です。



一番下のスタイルを選択した場合



インジケータ

メモを設定したりファイルをリンクした時に、メモやファイルの存在をアピールするためにインジケータが設定されています。インジケータの表現をアイコンからテキストへ変更したり、枠、塗りつぶし、影といった図形の書式をインジケータとして設定することができます。



添付ファイル
が設定されて
います

メモが設定
されています

ドキュメントのデフォルト

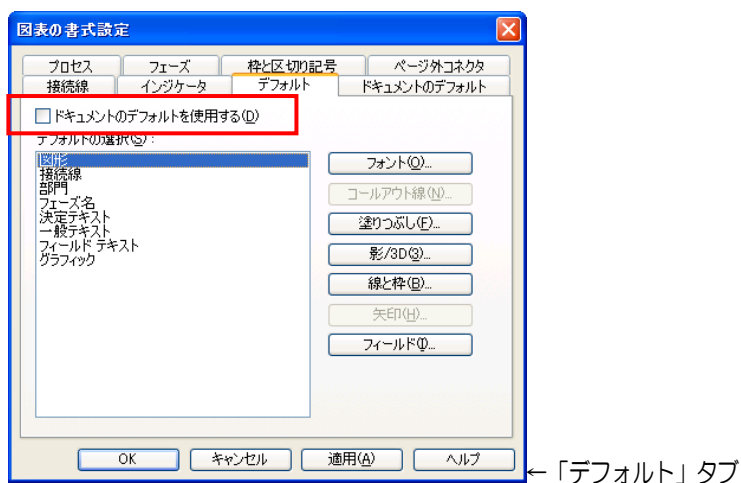
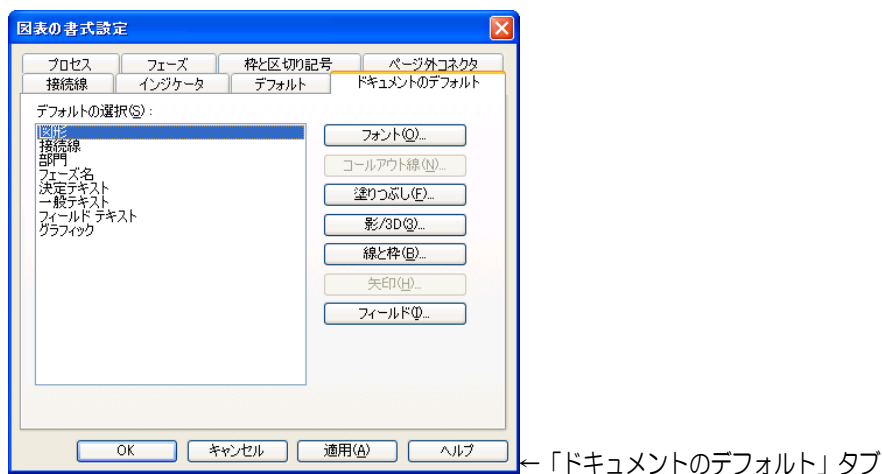
図形や接続線、部門など、様々なオブジェクトに対してのデフォルト値(初期値)を設定します。

デフォルト値はドキュメントごとまたは図表ごとに設定することができます。

※図表ごとに設定するには、「デフォルト」タブの「ドキュメントのデフォルトを使用する」のチェックをオフにして設定します。

「デフォルトの選択」で設定したいオブジェクトを選択して、変更する書式のボタンをクリックします。

社内規約などにより使用するフォントや図形の色、また接続線の種類などが決められている場合、それらをデフォルト値として設定しテンプレートに登録することにより、毎回の変更の手間を省くことができます。



第4章 印刷と保存

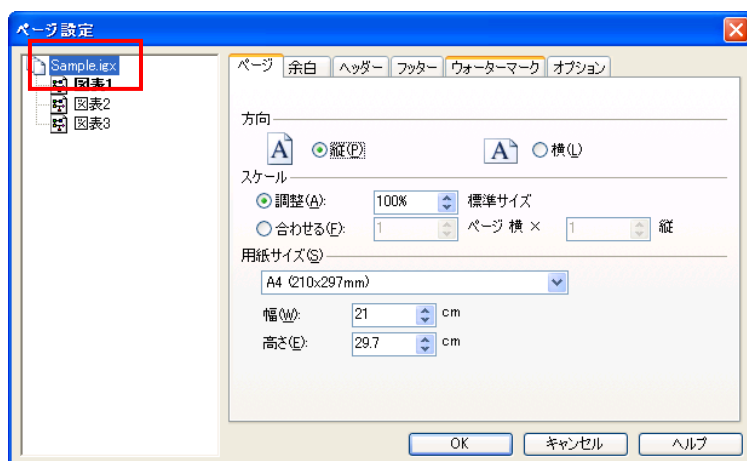
iGrafx FlowCharter は、Windows 標準の印刷ユーティリティとドライバを使用しますが、iGrafx 特有の機能も保有しています。

4.1 印刷

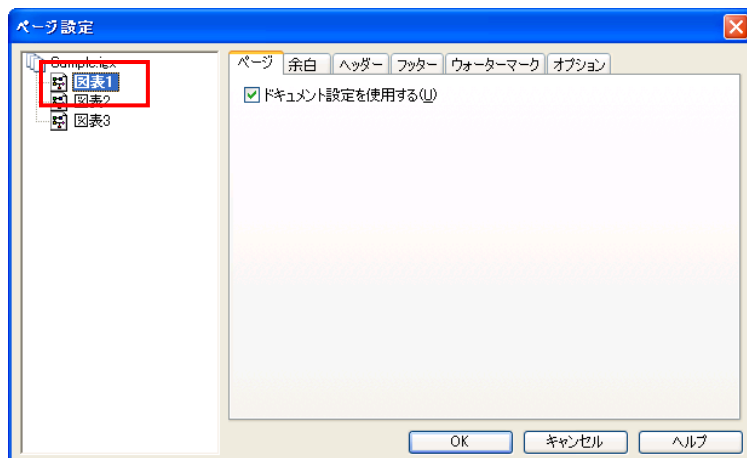
ページ設定

ページ設定をファイルと図表に、それぞれ設定することができます。

ファイル名を選択して行ったページ設定を「ドキュメント設定」と呼び、各図表でその設定を利用するか、図表毎に設定するか、選択できます。



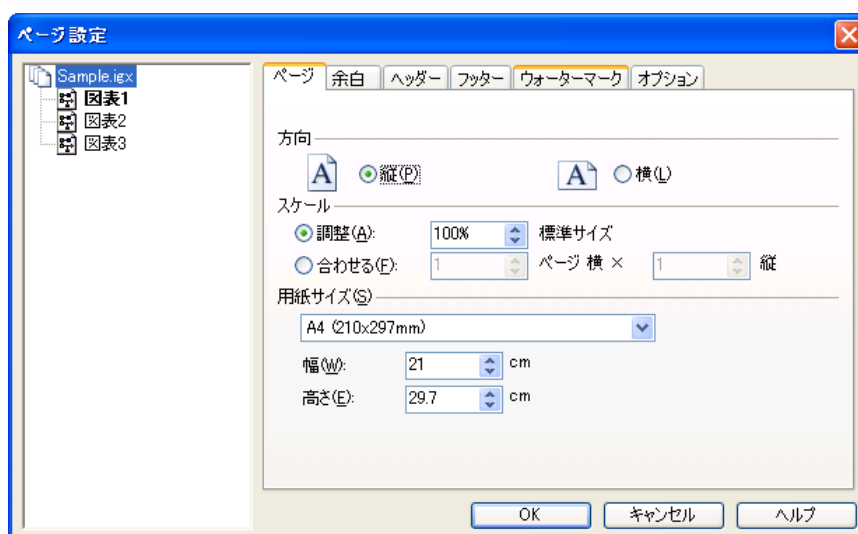
←ドキュメントが選択されている場合



←図表が選択されている場合

「ドキュメント設定を使用する」にチェックが入っていると、ドキュメント設定をその図表のページ設定でも利用します。タブ毎に、ドキュメント設定を利用するかどうか、設定することができます。

(1) 【ページ】タブ



項目	説明
方向	縦 - 垂直方向に印刷します。 横 - 水平方向に印刷します。
スケール	図表の大きさを手作業または自動で制御できます。 調整：パーセント値を入力して図表を拡大または縮小する割合を指定できます。スケールの初期設定は 100% です。 合わせる - ページ数を指定して印刷内容（図表）が自動的にスケールされるように設定できます。 例）横に 2 枚分の幅がある図表を 1 枚の図表として印刷したい時に、2 ページ横×1 縦となっている値を、1 ページ横×1 縦に変更することによって、1 ページに縮小されて印刷されます。 その逆に大きく何枚かに印刷したい場合にも縦横の枚数を多く指定すれば可能です。 ページ数を指定した後に、図表にオブジェクトを追加することにより、図表全体のサイズが大きくなった場合、改ページが自動調整され、縮小して印刷されます。
幅と高さ	図表スペースの上のルーラー ガイドで指定した設定に基づいて、ページのカスタム幅と高さをインチまたはセンチメートル単位で指定します。

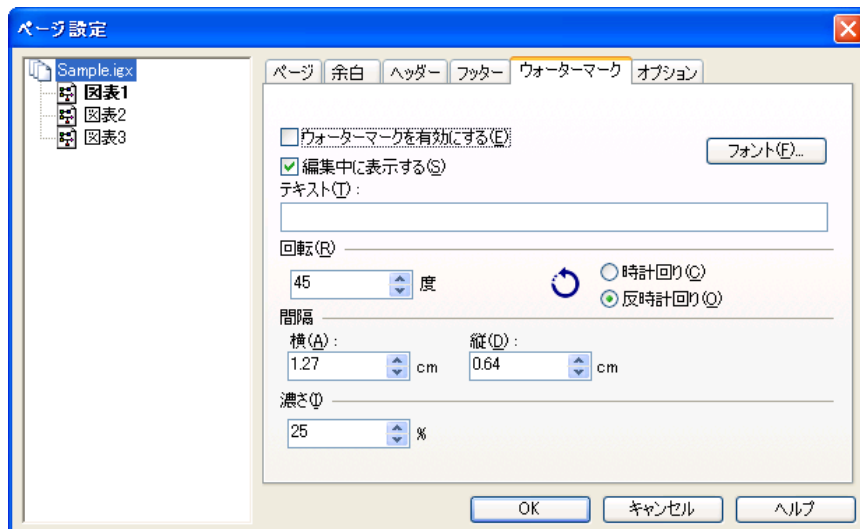
(2) 【余白】、【ヘッダー】、【フッター】タブ

基本的には他のツールと同じような利用方法になります。

SOX+でご利用の場合は、【ヘッダー】、【フッター】のタブで、SOX+特有の機能がありますので、「iGrafx FlowCharter SOX+ユーザーズガイド」をご参照下さい。

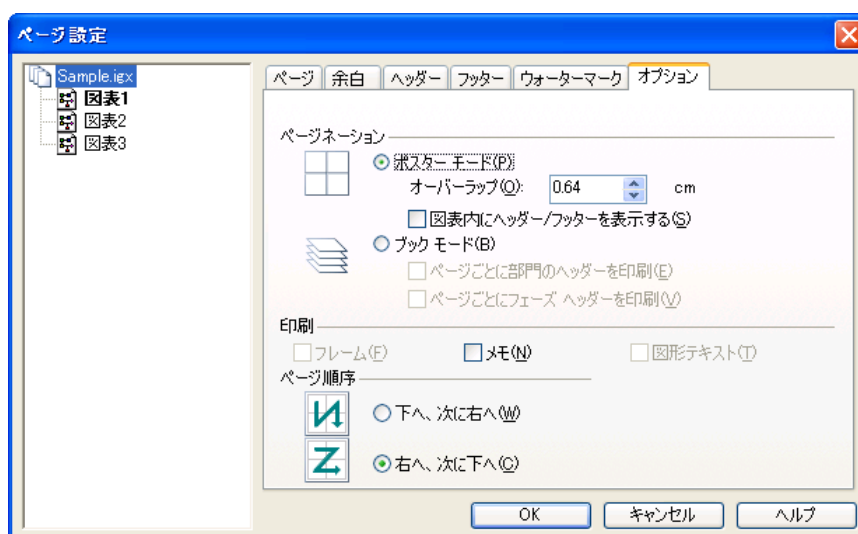
(3) 【ウォーターマーク】タブ

ウォーターマーク（透かし）を入れるかどうかを設定します。



項目	説明
ウォーターマークを有効にする	すべての出力形式でウォーターマークを表示します。印刷プレビューを使用した場合や、[編集中に表示する] が選択されていない場合にも表示します。
編集中に表示する	iGrafx で図表を編集および表示しているときにウォーターマークを表示します。
回転	度 - ウォーターマーク テキストの表示角度を指定します。 テキストの回転が 0 度の場合は、水平に表示されます。 時計回り/反時計回り： 時計回り - テキストを時計回りに指定の角度で傾けます。 反時計回り - テキストを反時計回りに指定の角度で傾けます。
間隔	図表スペースの上のルーラー ガイドで指定した設定に基づいて、テキスト行の間隔をインチまたはセンチメートル単位で設定します。
濃さ	図表の前景にウォーターマークを不透明度の強弱を変えて表示します。 濃さが強くなると、図表オブジェクトの表示が不明瞭になる場合があります。

(3) 【オプション】タブ



項目	説明
ページネーション	<p>ポスターモード - 大きな複数ページからなる図表を印刷します。出力した後、複数枚のバラバラなプロセス図を貼りあわせて1枚の大きな印刷物にまとめたい時に利用します。オーバーラップは糊代部分になります。</p> <p>[オーバーラップ]- 1 ページあたりのオーバーラップ量を設定します。このオプションは、印刷およびストーリーボード用です。オーバーラップを 1/4 インチ以上に設定すると、印刷した複数の図表ページを貼り合わせるすることができます。</p> <p>[図表内にヘッダー/フッターを表示する]- 選択すると、図表スペースにヘッダーとフッターが表示されます。図表を Web ページとしてこれらの出力形式で保存するとき、Java アプレットや SVG にも表示されます。このオプションは、ポスターモードでのみ使用できます。</p> <p>ブックモード - 本として綴じることができるように、複数ページ図表を個別に印刷します。出力した図表をファイルに綴じるときに利用します。</p> <p>「ページごとに部門のヘッダーを印刷」 「ページごとにフェーズヘッダーを印刷」 にチェックを入れると、ページごとに部門、フェーズを印刷することができます。自動コネクタも併用するとさらに見やすくなります。</p>
印刷	<p>フレーム - ブックモードで図表ページの周囲にフレーム枠を印刷します。</p> <p>メモ - 図形に付いているメモを印刷します。メモは、図表ページのあとに印刷されます。メモには図形番号が添付されているので、この番号を使用して図表内の図形を参照することができます。メモは、図形番号の順に印刷されます。</p> <p>図形テキスト - 上記メモにチェックを入れると使用できる機能です。メモが付いている図形のテキスト内容が印刷されます。</p>
ページ順序	<p>下へ、次に右へ - 左側の上から下へと印刷し、そのあと右側へ移動するといった順序で印刷します。</p> <p>右へ、次に下へ - 上側の左から右へと印刷し、そのあと下側へ移動するといった順序で印刷します。</p>

マスターページ

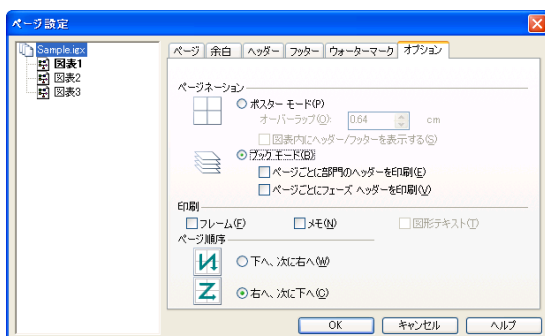
マスターページは、作図情報とは別に印刷時だけ反映する情報を設定できる便利な機能です。マスターページに設定した情報は、印刷または印刷プレビューをした時に、図表の各ページに表示されます。

マスターページを利用するには、以下の点について注意が必要です。

(1) 図表のページネーションを【ブックモード】に設定

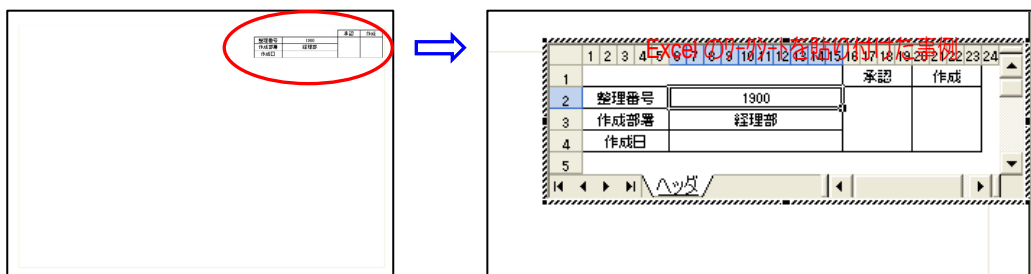
図表のページネーションを「ブック モード」に設定する必要があります。

1. 「ファイル」メニューの「ページ設定」をクリックします。
2. 「ページ設定」の「オプション」タブをクリックし、「ブック モード」を選択します。



3. 「表示」メニューの「マスター ページ」を開き、要素を追加します。

マスターページには、図形、グラフィックの配置や、テキストツールを利用して様々な要素を追加することが可能です。また、「挿入」メニューの「OLE オブジェクト」を利用すると、各種オブジェクト形式で要素を追加することができます。



※ マスター ページ上の要素は、通常のビューでは表示されません。

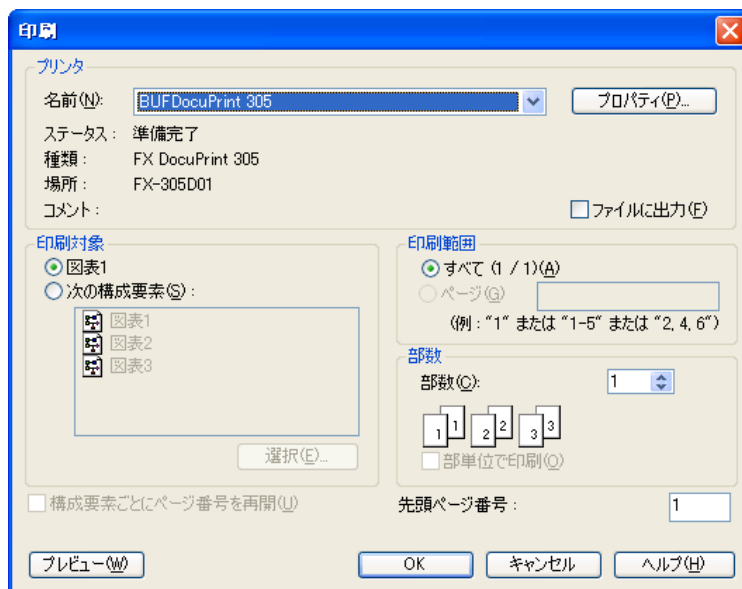
マスター ページ上の要素は、「印刷プレビュー」でのみ表示されます。 マスター ページを使用するときは、必要に応じて「印刷プレビュー」にて、図表ページ上の要素とマスター ページの要素がどのように表示されるかを確認すると便利です。印刷時に図表がはっきりと見えるように、マスター ページの要素を配置しなおさなければならない場合もあります。

印刷

(1) 印刷対象

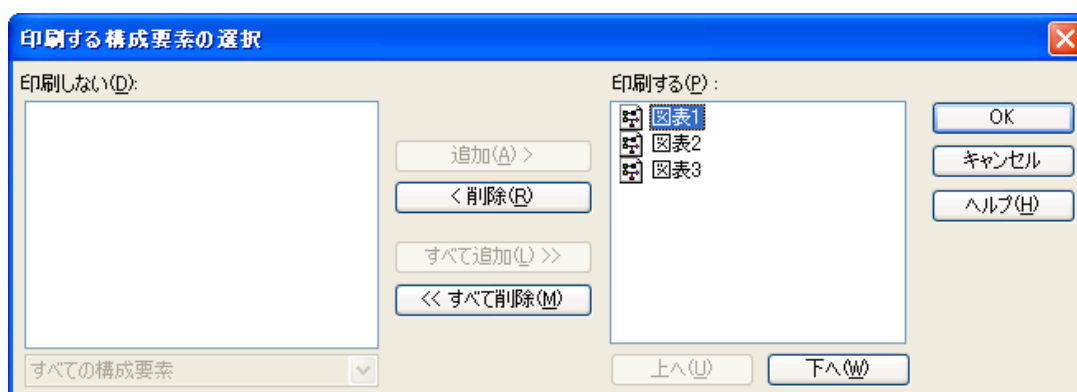
印刷対象枠には、現在、作業中の構成要素が印刷対象として初期表示されます。

他の構成要素を印刷する場合は、「次の構成要素」をクリックし、「選択」ボタンをクリックします。



ダイアログボックスが開いた時、すべての構成要素が「印刷する」の枠の中に表示されています。

印刷したくない要素があるときは、印刷しない構成要素を選択して「削除」ボタンをクリックします。



4.2 保存

保存メニューには、「iGrafx 形式」での保存と「他のファイル形式」での保存があります。

その他に、異常終了から復帰するために、一定間隔でファイルの自己保存が行われています。

「iGrafx 形式」での保存

「ファイル」メニューの「上書き保存」、「名前を付けて保存」を利用して、ファイルの保存を行うことができます。

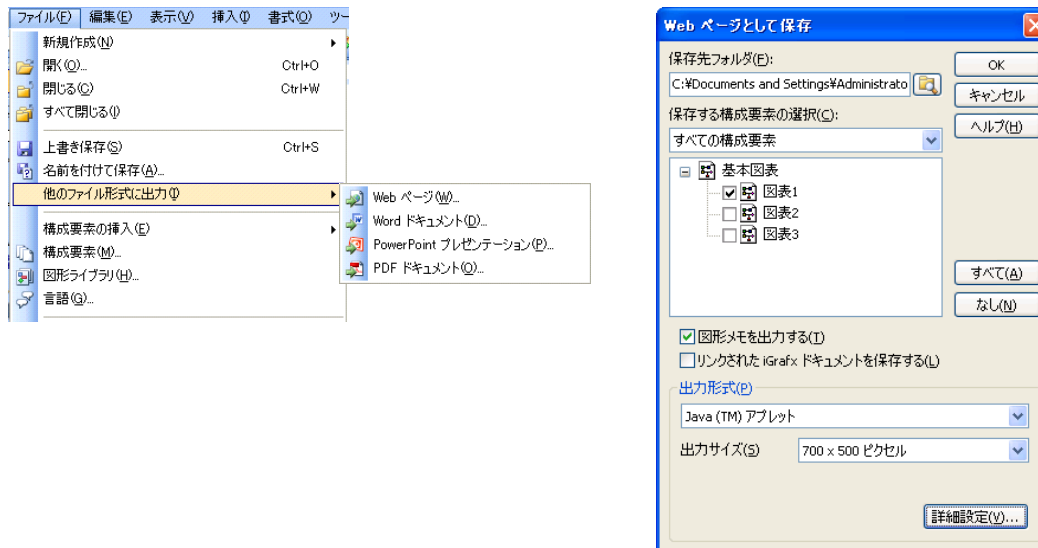


保存したいファイルの種類を選択し、保存先ディレクトリを選択後、「保存」ボタンをクリックします。

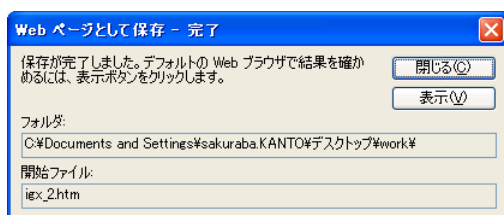
Web 形式で保存する

作成した iGrafx ファイルを、Web 形式で出力することができます。

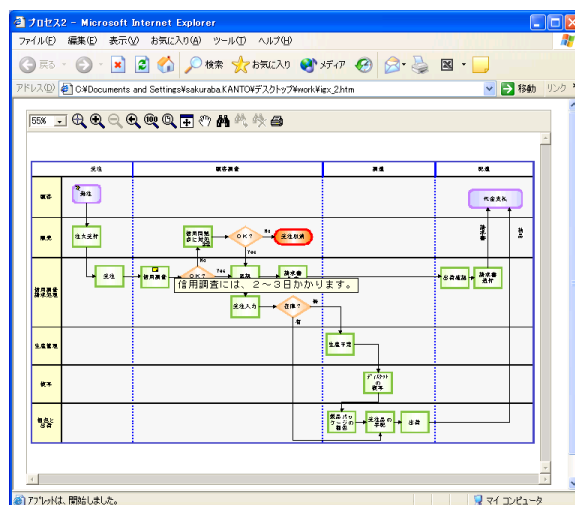
1. 「ファイル」メニューから「他のファイル形式に出力」を選択し、さらに「Web ページ」を選択します。



2. 保存する構成要素を選択します。
3. 図形メモ、リンク情報を保存するかをチェックします。
4. 出力形式を選択し、「OK」ボタンをクリックします。
5. 保存した結果をすぐに確認する場合は、「表示」ボタンをクリックします。



Html ファイルになった時にはメモのある図形はクリックポイントとして、クリックすることにより内容を表示できるようになります。また、リンクのある図形は右クリックすることによりリンクファイルを開くことができます。

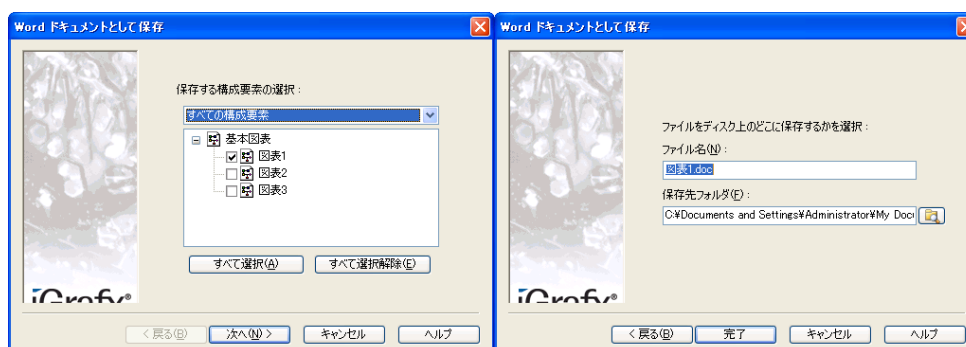


この機能を使うことによって、業務フローに作業メモや業務上利用するファイルのリンクを作成しておけば、Web 上で参照できるオンライン業務マニュアルとして iGrafx FlowCharter をインストールしていない PC でも活用することができます。

Word 形式で保存する

作成した iGrafx ファイルを、Word 形式で出力することができます。

1. 「ファイル」メニューから「他のファイル形式に出力」を選択し、さらに「Word ドキュメント」を選択します。
2. 作成するファイルに、どの構成要素を含むかをチェックしたら、「次へ」ボタンをクリックします。



3. 作成するファイルの保存場所を選択し「完了」ボタンをクリックします。

Power point 形式で保存する

「ファイル」メニューから「他のファイル形式に出力」を選択し、「PowerPoint プレゼンテーション」を選択します。以降の操作については、「Word 形式で保存する」作成処理に準じます。

スライドのタイトルには、「ページ設定」で設定した中央ヘッダーのコンテンツが表示されます。このヘッダーを設定または変更するには、「ファイル」メニューの「ページ設定」を選択し、「ヘッダー」タブをクリックします。「中央セクション」タブに、スライドのタイトルを入力します。

PDF ドキュメント形式で保存する

1. 「ファイル」メニューから「他のファイル形式に出力」を選択し、さらに「PDF ドキュメント」を選択します。
2. 作成するファイルに、どの構成要素を含むかをチェックしたら、「次へ」ボタンをクリックします。作成するファイルの保存場所を選択し、ファイルの保存方法を選択して、「完了」ボタンをクリックします。



PDF ファイルでは、iGrafx ドキュメントから保存されたリンクをナビゲートすることができます。

Web プロジェクトを保存する

iGrafx FlowCharter では、「Web プロジェクト」を作成してファイルの管理ができます。Web プロジェクトは、特定のフォルダ ツリー（「ソース フォルダ」と呼びます）に保存された一連のファイルから構成されます。Web プロジェクトでは、プロジェクトの作成中に指定した場所（「保存先フォルダ」と呼びます）に、選択したファイルを保存することができます。（この機能を使うには、Java 1.3 以上を推奨します。）

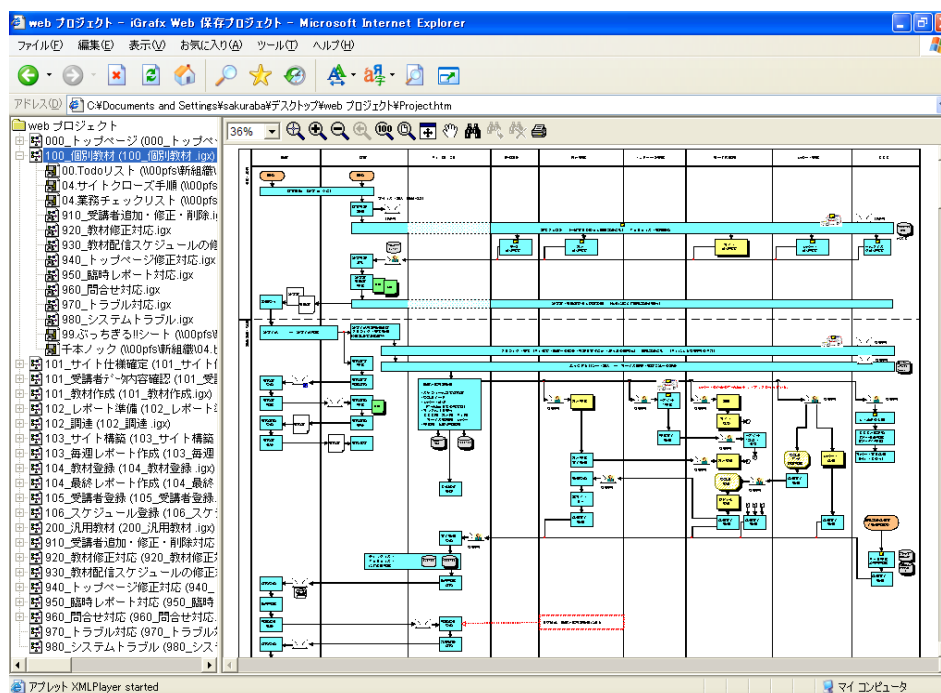
Web プロジェクトは、Web ページ保存機能と比較して、主に以下のような点で優れています。

- リンクの同期ナビゲーション
- ツリー内でのリンクの表示
- リンクしたドキュメント内で構成要素の変更があった場合、ファイル リンクを自動修正

Web プロジェクトを利用する時は、以下の制限事項に注意して使用して下さい。

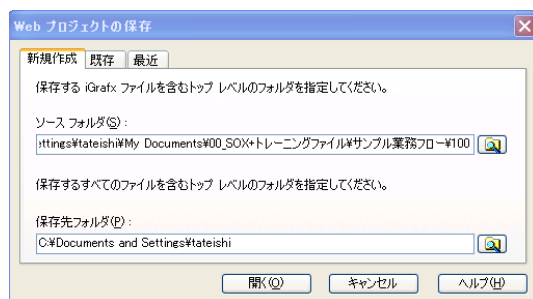
- 「Web プロジェクトの保存」は、Java アプレット形式の図表出力のみをサポートします。
- リンクしたファイルが「ソース フォルダ」の中にある場合、リンクしたファイルは保存フォルダに保存されます。
- リンクしたファイルが「ソース フォルダ」の外にある場合は、単純にリンク情報が保存されるだけで、「保存先フォルダ」にコピーされることはありません。
- プロジェクトの作成後に、「ソース フォルダ」または「保存先フォルダ」を変更することはできません。変更が必要な場合には、作成したものを一度削除して、再度作成しなおして下さい。
- 1つの「保存先フォルダ」につきプロジェクトを 1つだけ作成できます。
- 「保存先フォルダ」内のファイルに変更を加えないで下さい。変更する必要がある場合は、「ソース フォルダ」で変更を加えて、Web プロジェクトを作成しなおします。

- 最低要件として、Java 1.1 互換の Web ブラウザと HTML 4 準拠のフレーム サポート (Microsoft(R) Internet Explorer 4.01 以降または Netscape 4.6 以降など) が必要です。

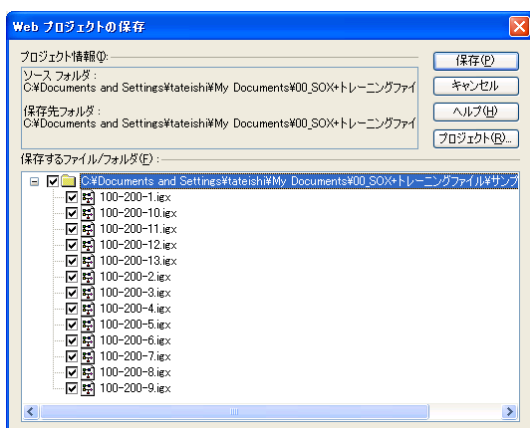


Web プロジェクトの作成手順は、以下のとおりとなります。

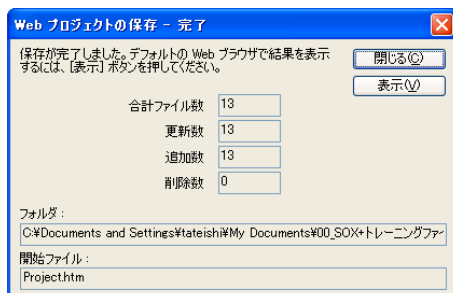
1. 「ツール」メニューの「Web プロジェクトの保存」を選択します。「Web プロジェクトの保存」ダイアログボックスが開きます。



2. 「新規作成」タブで、フォルダを作成するか、作成した iGrafx ドキュメントを含むフォルダを参照します。「新規作成」タブは、プロジェクトを新規作成する場合にのみ表示されます。以降は、「プロジェクトの変更」ボタンをクリックしてこのタブを有効にします。
3. iGrafx ドキュメントを保存するフォルダを作成します。
4. 「開く」ボタンをクリックします。
5. 「Web プロジェクトの保存」ダイアログボックスで、保存するフォルダまたは各ドキュメントの横にあるチェックボックスを選択します。フォルダを選択すると、そのフォルダ内のドキュメントが自動的に選択されます。



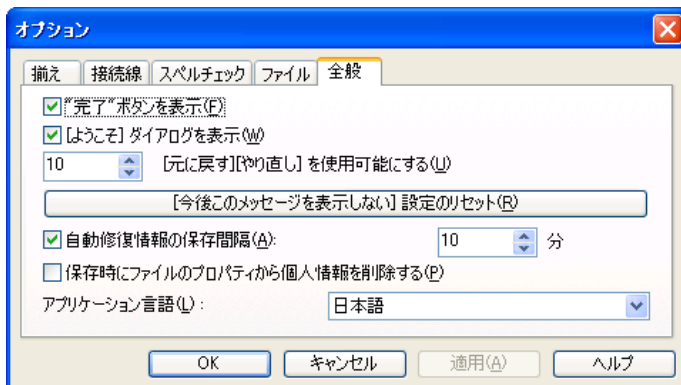
6. 「保存」ボタンをクリックします。「Web プロジェクトの保存 - 完了」ダイアログボックスが開き、追加されたファイル数に関する詳細情報が表示されます。結果をブラウザで表示するには、「表示」ボタンをクリックします。



自動保存の間隔を変更する

「ツール」メニューの「オプション」の「全般」タブにある「自動修復情報の保存間隔」機能により、システムが異常終了した際に利用する、自動修復情報の保存間隔を設定します。初期設定では 10 分間ですが、保存する、しない、保存間隔について変更することができます。

※サイズが大きなファイルの場合、自動修復情報が保存されるタイミングで動作が非常に重くなることがありますので、そのような場合は間隔を大きくするか、保存をしないようにすると、快適に利用できます。



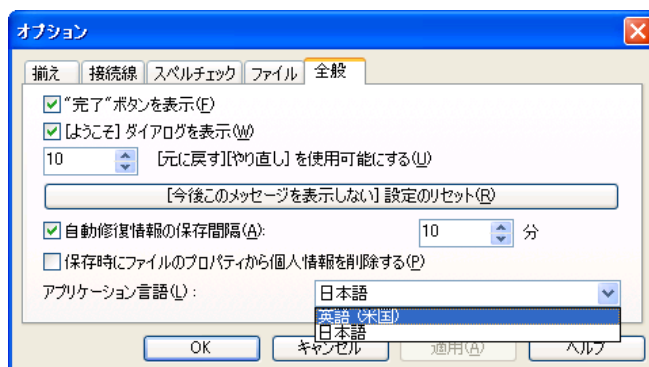
(ただし自動保存を切った時は、意識的に保存することを心がけて下さい)

4.3 その他

英語モードへの切り替え

英語モードに切り替えたいときは、以下の手順で操作します。

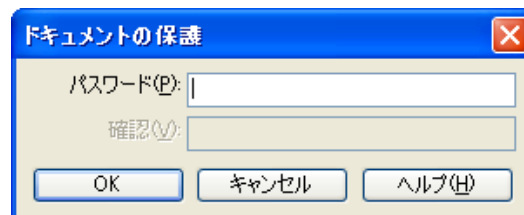
1. 「ツール」メニューの「オプション」を選択します。
2. 「全般」タブを開いて、「アプリケーション言語」のリストから「英語」を選択します。あるいは、必要に応じて他の言語を選択します。
3. 「OK」ボタンをクリックしてから、ツールを再起動します。



ドキュメントの保護

作成しているドキュメントに保護を設定することができます。

1. 「ツール」メニューの「ドキュメントの保護」を選択します。
2. 「ドキュメントの保護」ダイアログボックスが表示されますので、パスワードを2回入力します。
3. 「OK」ボタンをクリックします。



第5章 カスタマイズ

5.1 コレクションのカスタマイズ

iGrafx FlowCharterには、多くの図形コレクションがあらかじめ用意されていますが、その中に使いたい図形がない時や、別々のサブジェクトに散らばっている時に、個人用メディアコレクション内にオリジナルの図形コレクションを作成し、使いやすいようにカスタマイズすることができます。

個人用メディアコレクションの作成

頻繁に使う図形をパブリックメディアコレクションから探す手間を無くしたり、あるいは外部より取り込んだ画像を登録して再利用したり、利用者固有のニーズに合わせた図形テンプレートを作成することができます。

個人用メディアコレクションの登録は、下記の手順で行います。

「F9」キーを押すか、 ボタンをクリックし「図形パレットの選択」ダイアログボックスを開きます。

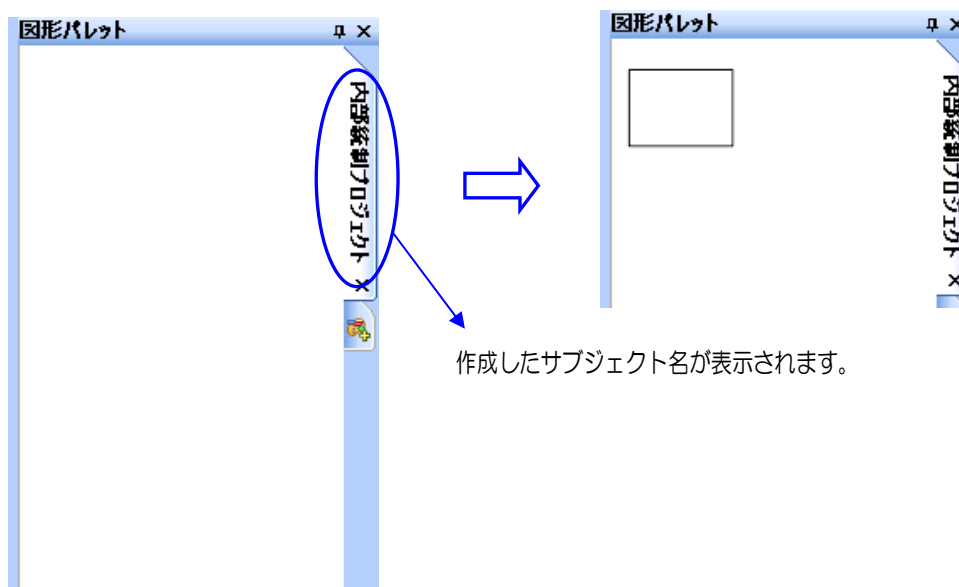
1. 「ファイル」メニューの「新規コレクション」を選択すると、個人用メディアコレクションに「新しいコレクション」が作成されますので、任意の名称を入力します。



2. 作成したコレクションを選択し、「ファイル」メニューの「新規サブジェクト」を選択すると、コレクションの配下に「新しいサブジェクト」が作成されますので、任意の名称を入力します。

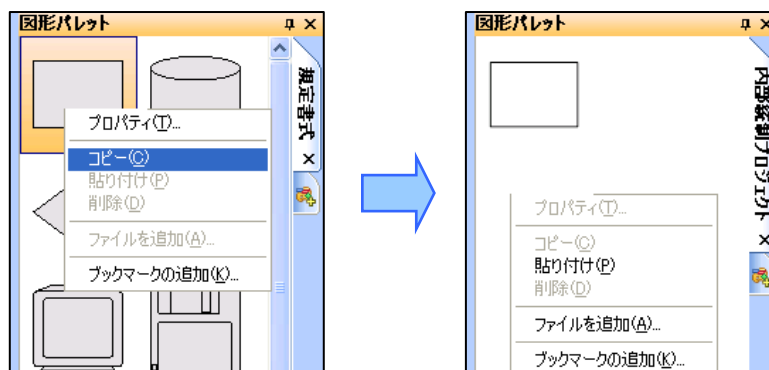


3. 新しいサブジェクトが表示されますので、フロー上に登録したい図形がある場合は、対象の図形を新しいサブジェクトへドラッグ&ドロップします。(SOX+用図形の場合は、SOX+の機能をオフにしないでドラッグ&ドロップをすると、SOX+図形の内部に不正なデータが残りますので、ご注意ください。)



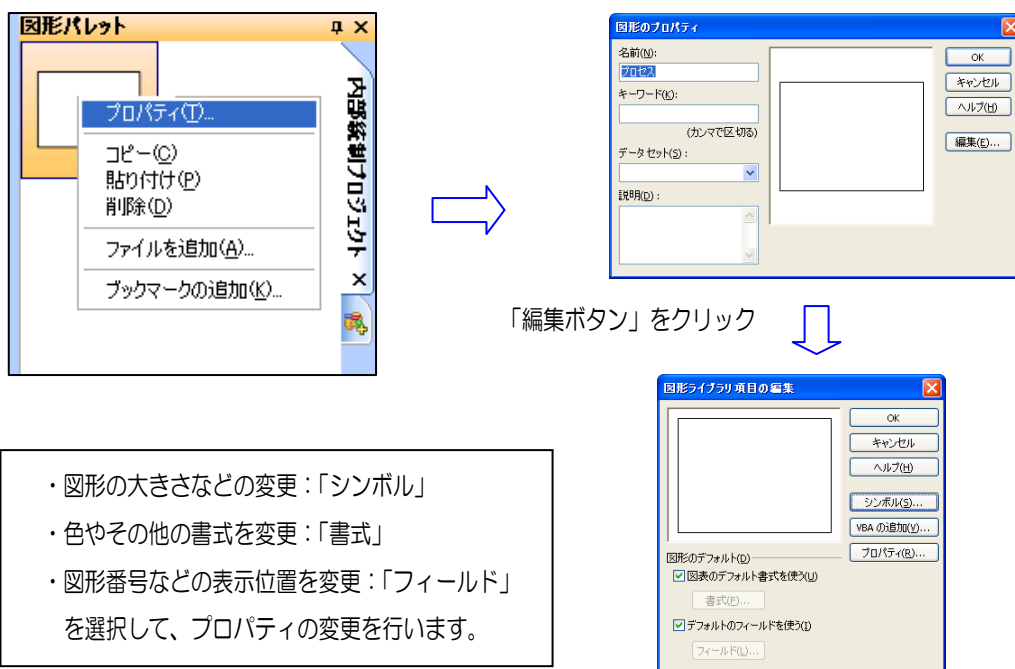
別のサブジェクト上にある図形をコピーしたい場合は、コピー元の図形の上で右クリックメニューのコピーを選択してから、新しいサブジェクトの上で右クリックしてペーストを選択し、貼り付けます。

「Shift」キーや「Ctrl」キーを押しながら一度に多くの図形を選択してコピーすることもできます。



※パブリックメディアコレクションのサブジェクトに対して図形を貼り付けることはできません。

4. 必要に応じて、登録した図形のプロパティを修正することができます。(図形の名前、色、大きさなど)
プロパティを変更するには、変更したい図形の上で右クリックし「プロパティ」を選択します。



コレクション及びサブジェクトの共有

作成したコレクション、及びサブジェクトを、別の iGrafx FlowCharter 上で読み込むことができます。

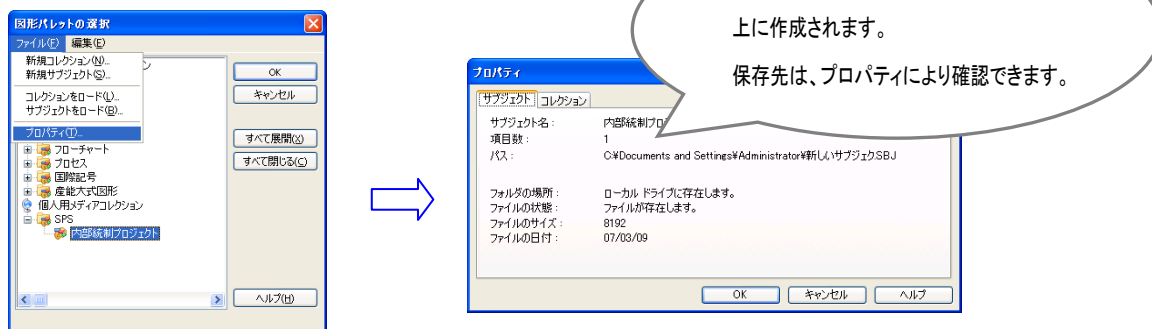
この機能を使って複数のメンバーでフローを作成する場合に、利用する図形のみを登録したサブジェクトをメンバーに配布して、図形の情報を共有することができます。

コレクションの拡張子は「ECF」、サブジェクトの拡張子は「SBJ」のファイルとして作成されます。そのファイルを共有したい人に渡し、「図形パレットの選択」ダイアログボックスからロードします。

(iGrafx FlowCharter SOX+ をご利用の場合は、コレクションを配布する仕組みがあります。詳しくは「iGrafx FlowCharter SOX+ AdministratorKit ユーザーズガイド」をご参照下さい。)

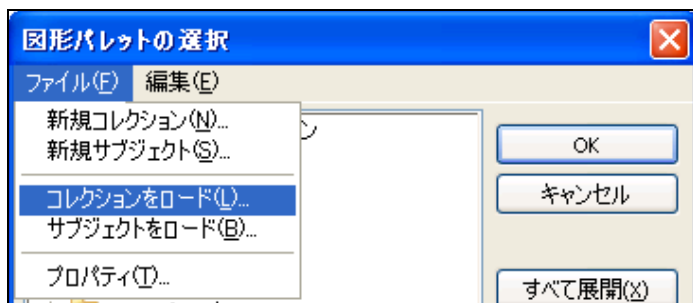
(1) コレクション、サブジェクトの保存先の確認

1. 「図形パレットの選択」ダイアログボックスで確認したいサブジェクトを選択します。
2. 「図形パレットの選択」ダイアログボックスの「ファイル」 - 「プロパティ」を選択します。



(2) コレクション、サブジェクトのロード

コレクションへのロードは、下記の2通りあります。



◆ パブリックメディアコレクションへロードする場合

1. 配布するファイルはコレクション (ECF) とサブジェクト (SBJ) の2つのファイルを準備します。
2. ロードするPCに2つのファイルをコピーします。
3. 「図形パレットの選択」ダイアログボックスの「ファイル」 - 「コレクションをロード」を選択し、コピーしたコレクションを指定します。コレクションをロードすると一緒にサブジェクトのロードも行われます。

◆ 個人用メディアコレクションへロードする場合

1. ロードする側のPCにはあらかじめコレクションを作成しておく必要があります。
2. ロードするPCにサブジェクトファイルをコピーします。
3. 個人用メディアコレクション内の、作成したコレクションを選択します。
4. 「図形パレットの選択」ダイアログボックスの「ファイル」 - 「サブジェクトのロード」を選択し、コピーしたサブジェクトを指定します。

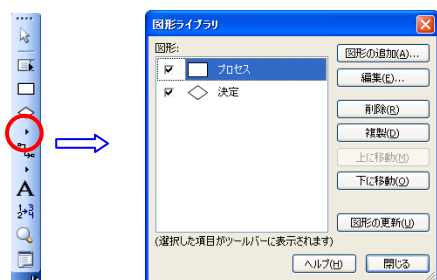
5.2 図表のデフォルト設定のカスタマイズ

テキストのフォントサイズ、印刷の設定などを iGrafx テンプレートファイルに登録して、より書式の統一された業務フロー文書を作成することができます。図形ライブラリや線ライブラリに登録した情報を、新しいドキュメントに対して反映させる場合も iGrafx テンプレートを作成します。

図形ライブラリ

特定の図表においてよく利用される図形を登録したり、iGrafx テンプレート作成時にプロジェクト特有の図形を登録するのに適しています。図形ライブラリの操作は以下の手順で行います。

「ツールボックス」ツールバーの「その他の図形」 - 「図形ライブラリ」をクリックします。

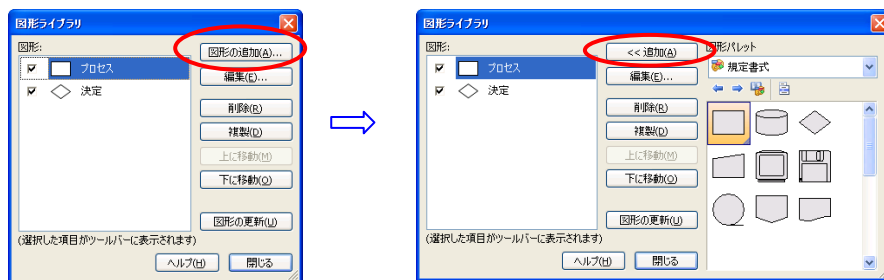


図形の左脇のチェックボックスにチェックがついている図形は、「ツールボックス」ツールバー上に表示されます。

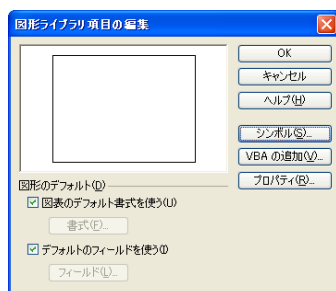
(1) 図形の追加

新たな図形をコレクションから選択してライブラリに登録することができます。

1. 「図形ライブラリ」ダイアログボックスより、「図形の追加」ボタンをクリックします。
2. 図形パレットから登録したい図形を選択し、「<<追加」ボタンをクリックします。



(2) 図形の編集

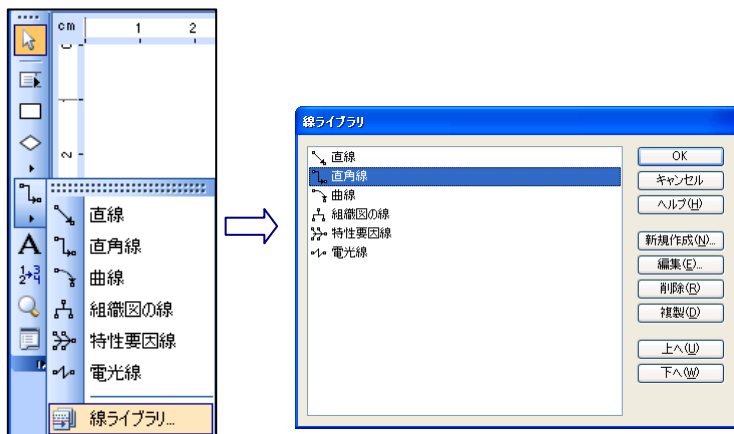


- ・図形の大きさなどの変更：「シンボル」
- ・色やその他の書式を変更：「書式」
- ・図形番号などの表示位置を変更：「フィールド」
- ・図形の名称などの変更：「プロパティ」

線ライブラリ

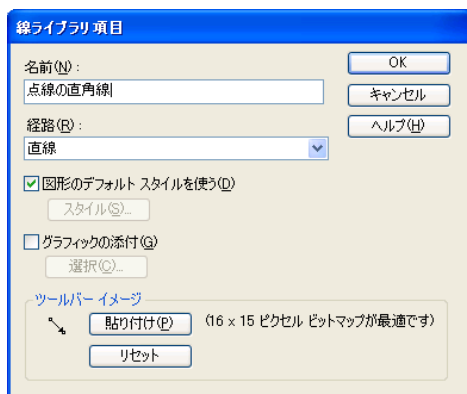
特定の図表においてよく利用される線を登録したり、テンプレート作成時にプロジェクト特有の接続線を登録するのに適しています。線ライブラリの操作は以下の手順で行います。

「線ライブラリ」は「ツールボックス」ツールバーの「接続線」ツールをクリックします。



(1) 線の追加 ・ 編集

1. 「線ライブラリ」ダイアログボックスより「新規作成」ボタンをクリックします。
2. 新しい線ライブラリ項目の「名前」を入力し、線経路の種類を選択します。
3. 線のスタイルを変更したい場合は、「図形のデフォルトスタイルを使う」のチェックをはずすことにより、スタイル編集が可能になります。

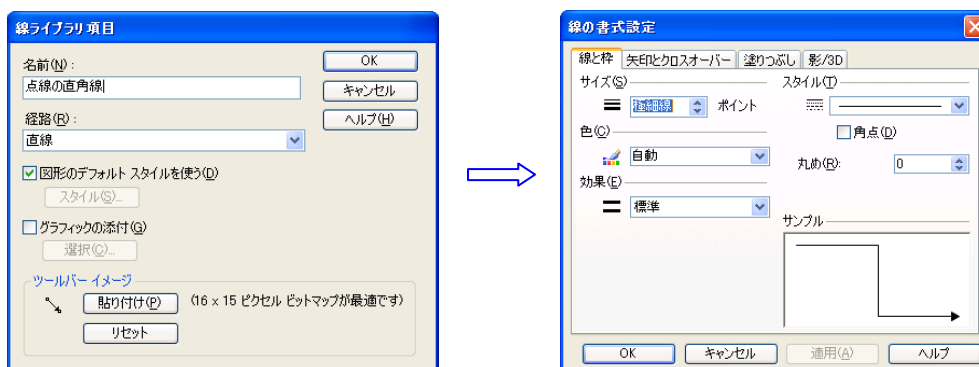


必要に応じてグラフィックを線に添付することも可能です。

新規作成した項目は、「接続線」ツール上に表示されます。

(2) 線の編集を行う

1. 「線ライブラリ」ダイアログボックスより「編集」ボタンをクリックします。
2. 新しい線ライブラリ項目の「名前」を入力し、線経路の種類を選択します。
3. 線のスタイルを変更したい場合は、「図形のデフォルトスタイルを使う」のチェックをはずすことにより、スタイル編集が可能になります。

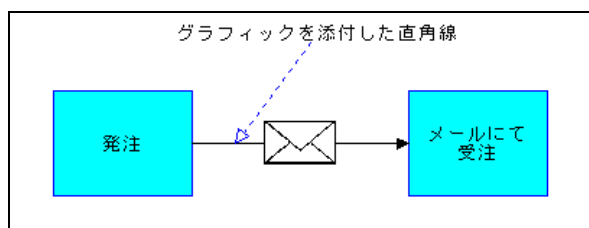
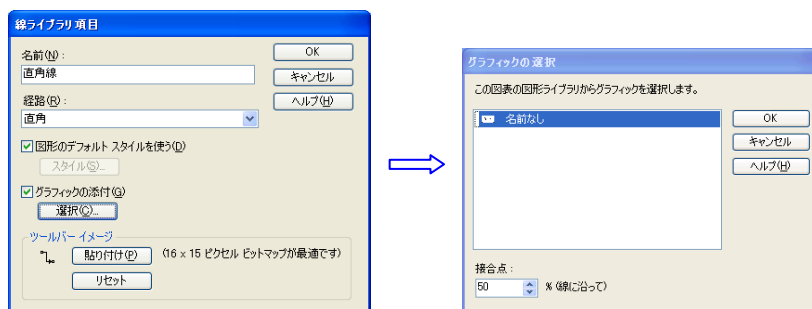


(3) 線ライブラリ項目にグラフィックを添付する

グラフィックを線ライブラリ項目に添付すると、その線スタイルを使用して図形を接続するときにそのグラフィックが表示されます。

※ 前提条件 添付するグラフィックは、あらかじめ図形ライブラリに登録されている必要があります。

1. 「線ライブラリ項目」ダイアログボックスより「グラフィックの添付」チェックボックスをクリックし、「選択」ボタンをクリックすると「グラフィックの選択」ダイアログボックスが表示されます。
2. 線に接続したいグラフィックをリストより選択して「OK」ボタンをクリックします。



iGrafx テンプレートに定義する項目

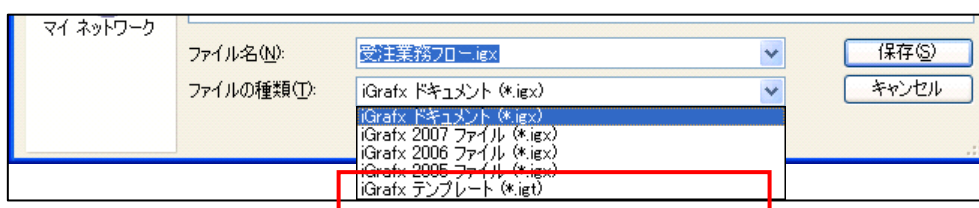
iGrafx テンプレートを作成する際には必要に応じて、以下の項目の初期値を定義します。

- 部門の方向、及びデフォルト書式 (P19)
- フェーズのデフォルト書式 (P54)
- カスタムデータの設定 (P64)
- グリッドのスペースの変更 (1 ミリへ変更することを推奨) (P43)
- 図形ライブラリ、接続線ライブラリのカスタマイズ (P96)

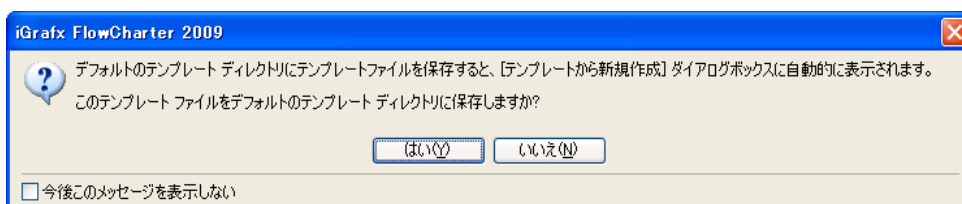
- 各オブジェクトのデフォルト書式の定義 (P79)
- 印刷時のルール(サイズ、ヘッダー、フッター情報の統一、ブックモードなど)の定義 (P80)
- インジケータ(メモやファイルのリンクを示す印)の設定 (P78)
- ページ外コネクタの自動コネクタ利用の有無 (P77)

iGrafx テンプレートファイルの保存

iGrafx テンプレートファイルを保存する時には、通常のファイルの保存と動作が異なりますので、注意が必要です。ファイルを保存する際には、「ファイル」メニューの「名前を付けて保存」を選択し、ファイルの種類に「iGrafx テンプレート (*.igt)」を選択してから、「保存」ボタンをクリックします。

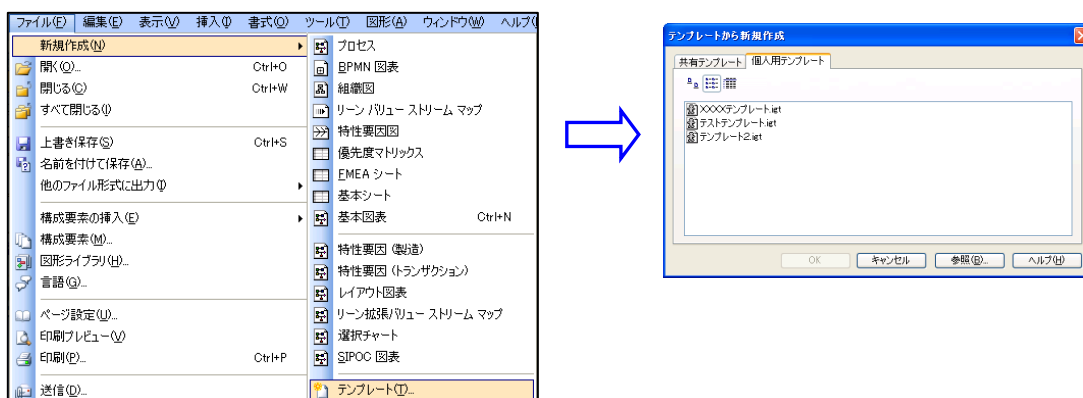


その際に以下のメッセージダイアログボックスが表示されます。



「はい」ボタンを選んだ場合は、保存中のファイルを iGrafx FlowCharter の個人用テンプレートを保存するフォルダの中へ保存します。(ファイルの保存場所として指定した場所には保存されません。)

個人用テンプレートは「ファイル」メニューの「新規作成」の中の「テンプレート」から開くことができます。



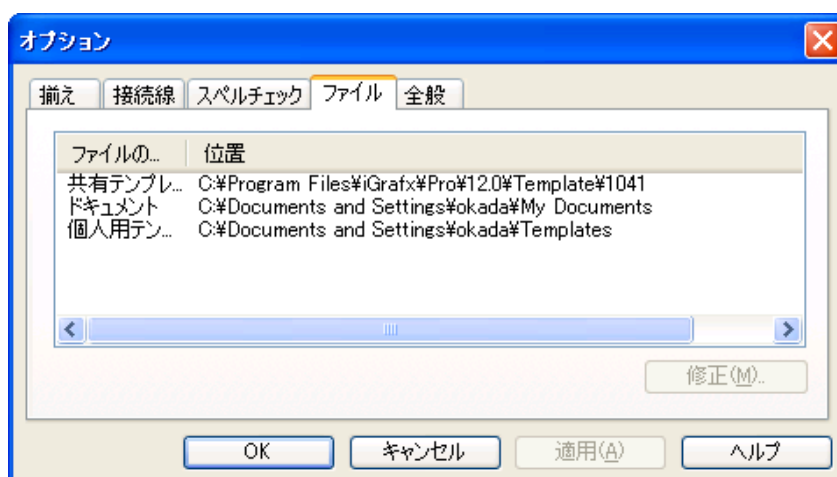
共有テンプレートや個人用テンプレートから開いたファイルは、テンプレートファイル (igt ファイル) ではなく、iGrafx テンプレートに定義された書式が反映されているあたらしいドキュメント (名前のついていない igx ファイル) として開きます。

「いいえ」ボタンを選んだ場合は、ファイルの保存場所として指定した場所に保存され、個人用テンプレートのフォルダには保存されません。

(iGrafx FlowCharter SOX+をご利用の場合は、コレクションと同様に iGrafx FlowCharter SOX+ AdministratorKit を利用して、コレクションを配布する仕組みがあります。詳しくは「iGrafx FlowCharter SOX+ AdministratorKit ユーザーズガイド」をご参照下さい。)

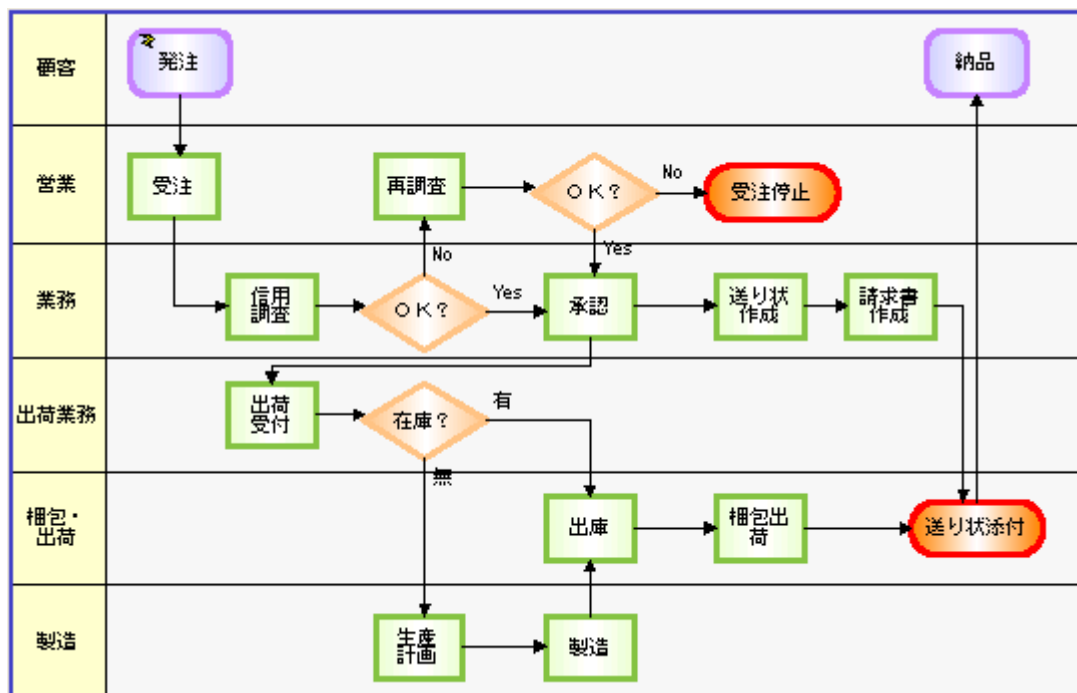
個人用テンプレートディレクトリの変更

「ツール」メニューの「オプション」をクリックして、「ファイル」タブを開きます。「ファイルの種類」の「個人用テンプレート」をご確認下さい。必要があれば「修正」ボタンにて任意のフォルダに変更することができます。



練習問題 1 プロセス図表を作成する

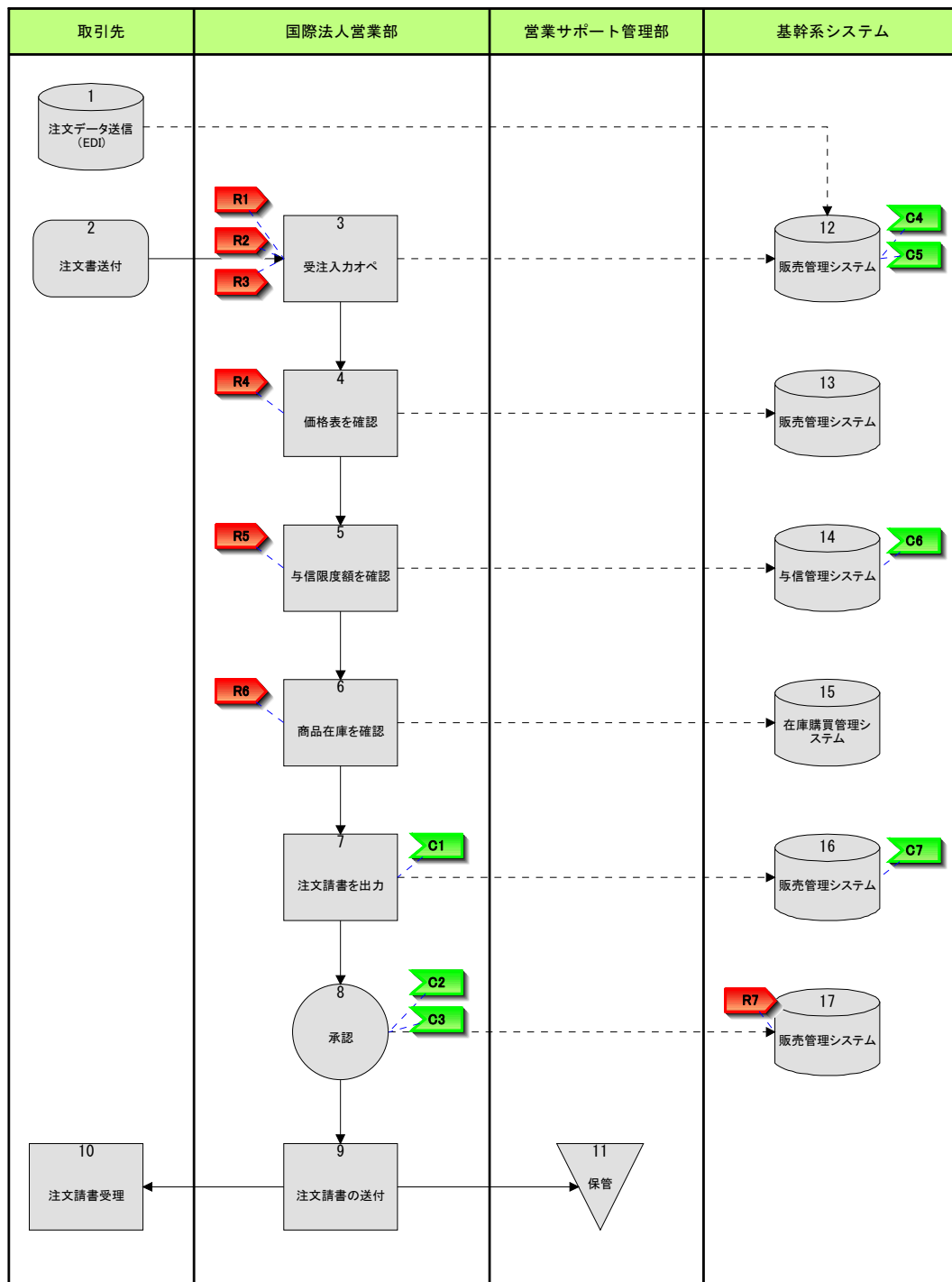
これまでに学習した内容をフルに活用して、以下のフローを作成して下さい。連続で図形を追加する、あるいは接続線を引きながら図形を追加するなど、早く、確実にフローを書く技術を練習しましょう。



練習問題 2 SOX+用フローを作成する

図形パレットの中の SOX+内部統制の中の規定書式の図形を利用して、以下のフローを書いてみましょう。

(SOX+トレーニングを受講されている場合の練習問題です)





iGrafx®

SPS

Enabling Process Excellence.™